

DENON[®]

AVR-X7200WA

AV サラウンドレシーバー

取扱説明書

複数ページを 1 枚の用紙に印刷することができます。

[フロントパネル](#)[ディスプレイ](#)[リアパネル](#)[リモコン](#)[索引](#)

アップデート	8
付属品	9
乾電池の入れかた	10
リモコンの使いかた	10
特長	11
高音質	11
多彩な機能	13
簡単操作	16
各部の名前	17
フロントパネル	17
ディスプレイ	21
リアパネル	23
リモコン	26

接続のしかた

スピーカーを接続する	31
スピーカーを設置する	31
スピーカーを接続する	39
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定	42
テレビを接続する	60
接続 1: HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ	61
接続 2: HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ	62
接続 3: HDMI 端子がないテレビ	63

再生機器を接続する	64
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)	65
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する	66
Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する	67
ビデオカメラやゲーム機などを接続する	68
レコードプレーヤーを接続する	69
マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する	70
USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する	71
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	74
ホームネットワーク(LAN)に接続する	76
有線 LAN	76
無線 LAN	77
外部のコントロール機器を接続する	78
リモートコントロール端子	78
トリガー出力端子	79
電源コードを接続する	80



再生のしかた

基本操作	82
電源を入れる	82
入力ソースを選ぶ	82
音量を調節する	83
一時的に音を消す(ミュートイング)	83
DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する	83
iPod を再生する	84
iPod の音楽を聴く	85
iPod ブラウズモードの設定	86
使用する USB 端子を設定する(USB 端子の選択)	87
リピート再生をする	88
ランダム再生をする	88
USB メモリーを再生する	89
USB メモリーに保存されているファイルを再生する	90
Bluetooth 機器の音楽を聴く	92
Bluetooth 機器とペアリングする	93
Bluetooth 機器の音楽を再生する	94
ペアリングモードでペアリングする	96

FM 放送または AM 放送を聴く	97
FM 放送または AM 放送を聴く	98
周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)	99
受信モードを変更する(チューニングモード)	100
自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)	100
聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)	101
プリセットした放送局を聴く	101
プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)	102
プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)	103
プリセットスキップを解除する	104
インターネットラジオを聴く	105
インターネットラジオを聴く	106
前回再生していたインターネットラジオ局を再生する	107
vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する	108
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	109
メディアの共有設定をおこなう	110
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	111



Flickr サイト上の写真を閲覧する	113
任意のユーザーが共有している写真を閲覧する	114
Flickr 上のすべての写真を閲覧する	116
AirPlay 機能	117
iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する	118
iTunes の曲を本機で再生する	118
複数のスピーカー（機器）を選ぶ	119
本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう	119

便利な機能	120
リピート再生をする	121
ランダム再生をする	121
お気に入りに登録する	122
“お気に入りに登録” に登録したコンテンツを再生する	122
お気に入りに登録したコンテンツを削除する	123
キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）	123
音楽とお好みの写真を同時に再生する（スライドショー）	124
スライドショーの再生間隔を設定する	125
せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する（ダイアログエンハンサー）	125
入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）	126
トーンを調節する（トーンコントロール）	127
音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）	128
視聴環境に合わせて画質を調整する（ピクチャーモード）	129
すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo）	130



サウンドモードを選ぶ	131
サウンドモードを選ぶ	132
ダイレクト再生	133
ピュアダイレクト再生	133
オートサラウンド再生	134
HDMI コントロール機能	148
設定のしかた	148
スリープタイマー機能	149
スリープタイマーを設定する	150
クイックセレクトプラス機能	151
設定を呼び出す	152
設定を変更する	153
ウェブコントロール機能	154
ウェブコントロール機能で本機をコントロールする	154
ゾーン 2/ゾーン 3(別の部屋)での再生	156
ゾーンの接続	156
ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する	161

設定のしかた

メニュー 一覧	163
メニュー操作のしかた	166
文字入力について	167
キーボード画面で文字を入力する	168
数字ボタンを使用して文字を入力する	168
オーディオ	169
サブウーハーレベルの調節	169
低音の位相補正	169
サラウンドパラメーター	170
リストアラー	176
オーディオディレイ	177
音量	177
バイリンガルモード	178
Audyssey	178
グラフィック EQ	182
ビデオ	184
画質調整	184
HDMI 設定	186
ビデオ出力の設定	191
アナログビデオ出力	195
オンスクリーンディスプレイ	196
TV フォーマット	197



入力ソース	198
入力端子の割り当て	198
入力ソース名の変更	200
使用ソースの選択	200
ソースレベル	200
オーディオ入力の選択	201
スピーカー	203
Audyssey®セットアップ	203
スピーカー設定の流れ (Audyssey®セットアップ)	205
エラーメッセージについて	211
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき	213
マニュアルセットアップ	214
アンプの割り当て	214
スピーカー構成	234
距離	238
レベル	239
クロスオーバー周波数	240
低音	241
フロントスピーカー	242
2チャンネル再生の設定	242

ネットワーク	245
情報	245
接続	245
Wi-Fi 設定	246
詳細な設定	248
IP コントロール	249
フレンドリーネーム	250
診断	250
メンテナンスモード	251
一般	252
言語	252
エコ設定	252
ゾーン2の設定 / ゾーン3の設定	254
ゾーン名の変更	256
クイックセレクト名の変更	256
リモコン ID	256
トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2	257
フロントディスプレイ	257
情報	258
使用状況の送信設定	260
ファームウェア	260
セットアップロック	262



リモコンで外部機器を操作する	263
プリセットコードを登録する	264
機器を操作する	268
学習機能を操作する	271
マクロ機能を操作する	274
リモコンを使用するゾーンを指定する	278
リモコン ID を設定する	279
リモコンディスプレイの表示時間を設定する	279
バックライトを設定する	280
リモコンの全設定を初期化する	280

困ったときは

こんなときの解決方法	282
故障かな？と思ったら	284
お買い上げ時の設定に戻す	303
保証と修理について	304

付録

HDMI について	306
ビデオコンバージョン機能	309
USB メモリーの再生について	311
Bluetooth 機器の再生について	312
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について	313
インターネットラジオの再生について	314
パーソナルメモリープラス機能	314
ラストファンクションメモリー	314
サウンドモードとチャンネル出力の関係	315
サウンドモードとパラメーター一覧表	317
入力信号の種類と対応するサウンドモード	321
用語の解説	325
登録商標について	338
主な仕様	340
索引	346



アップデート

アップデート (DTS:X)

DTS:X は、オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報により、ご使用のスピーカー構成に関わらず、最適化された臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。また、従来のコンテンツでも DTS Neural:X により、スピーカーの構成に応じて最適なアップミックスをおこないます。

DTS:X 対応ファームウェアへアップデートをおこなった後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。

DTS:X

特長

高音質 12

スピーカーを接続する

スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定 43

サウンドモードを選ぶ

DTS サウンドモードの種類について 137

入力信号ごとに選択できるサウンドモード 146

オーディオ

ダイアログコントロール 172

DTS Neural:X 172

一般

ファームウェア 259

付録

サウンドモードとチャンネル出力の関係 316

サウンドモードとパラメーター一覧表 319

入力信号の種類と対応するサウンドモード 323

用語の解説 330

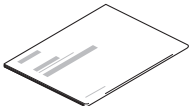
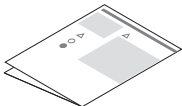
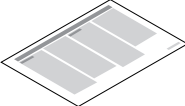
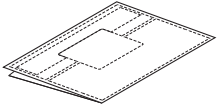
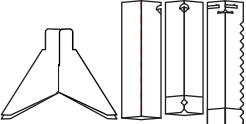
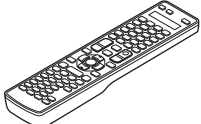
登録商標について 339



お買い上げいただきありがとうございます。
 本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
 お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

付属品

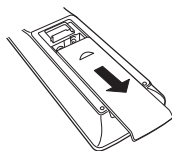
ご使用になる前にご確認ください。

				
かんたんスタートガイド	CD-ROM (取扱説明書)	安全にお使いいただくために	電波に関するご注意	保証書
				
ケーブルラベル	電源コード [本機専用]	FM 室内アンテナ	AM ループアンテナ	セットアップマイク (ACM1HB)
				
マイクスタンド	リモコン (RC-1194)	単 3 形乾電池 (2 本)	Bluetooth/ 無線 LAN 用外部アンテナ (2 本)	



乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し下げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



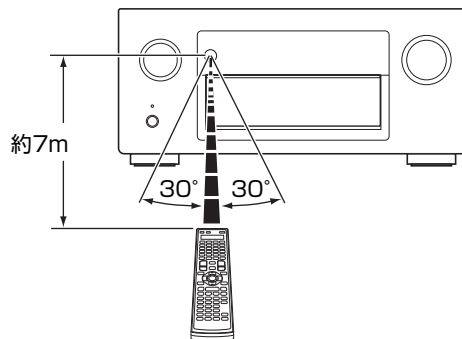
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

- ディスクリット回路構成による全9チャンネル同一クオリティのパワーアンプ搭載(190W×9チャンネル)

本機には、オリジナル音源を忠実に再生するために、全チャンネルに同一のクオリティと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。

パワーアンプ回路には、ディスクリット回路構成を採用することによって、高品位な再生を実現しています。

- Dolby Atmos に対応(181 ページ)

本機は最新の音声フォーマットの Dolby Atmos に対応したデコーダーを搭載しています。オーバーヘッドスピーカーの追加により、音の定位または移動をより正確に再現し、これまで以上に自然でリアルなサラウンド音場を体験することができます。

- Audyssey DSX® 搭載(181 ページ)

本機は Audyssey DSX® プロセッサーを搭載しています。本機にフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX® 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

- Audyssey LFC™ (Low Frequency Containment) 搭載(181 ページ)

Audyssey LFC™ は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

- 独立した2本のサブウーハー出力と Audyssey Sub EQ HT™ 搭載(204 ページ)

本機は、独立した2本のサブウーハー出力を備え、音量レベルとリスナーまでの距離をそれぞれ個別に設定できます。さらに、本機搭載の Audyssey Sub EQ HT™ は、2本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。



- **DTS Neo:X 搭載** (P.329 ページ)

2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースを最大 11.1 チャンネルのスピーカーで、より広がりある音場で再生する技術です。

- **Denon 独自の高音質再生技術 “Denon Link HD”** (P.67 ページ)

本機には、Denon 独自の高音質再生技術 “Denon Link HD” を搭載しています。Denon Link HD に対応した Denon のブルーレイディスクプレーヤーと接続することで、音の定位がより明確になり、クリアで立体的な音像を再現します。本機とブルーレイディスクプレーヤーが同一のクロックを共有しながら、集積回路を動作させることで、ジッターの少ないデジタル音声の伝送を実現します。ブルーレイディスクプレーヤーからのどのメディアの音源にもその効果を発揮します。

アップデート (DTS:X)

- **DTS:X**

本機はファームウェアアップデートにより、DTS:X に対応します。DTS:X は従来のチャンネルベース方式のサウンドフォーマットに対し、音像の移動感を表現するオブジェクト信号を付加したサウンドフォーマットです。

オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報を再生環境に合わせてリアルタイムに演算して出力するため、どのような再生環境でも最適化された豊かで臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

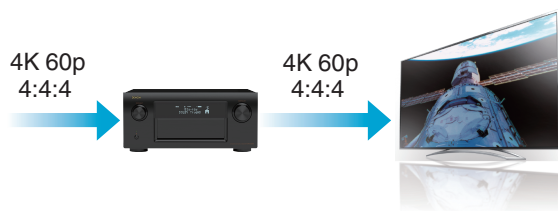


DTS:X 対応後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。



多彩な機能

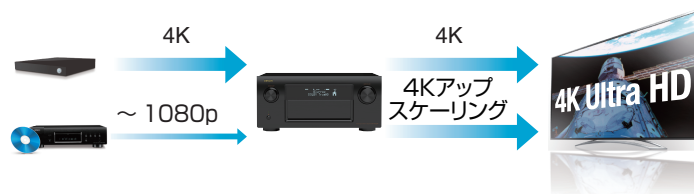
- 4K 60Hz 入出力対応



4K Ultra HD (High Definition)で、1 秒間に 60 フレーム分の映像信号(60p)の入出力を実現しました。4K Ultra HD、60p 映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。

そして、本機は 4K 60p、4:4:4、24bit の映像処理に対応しています。元の解像度のまま映像処理をおこなうことで、画質を損なうことなく、そのまま高精細な画質を楽しめます。

- アナログ映像信号(SD 解像度)を HD(720p/1080p)および 4K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサ搭載 (P.193 ページ)



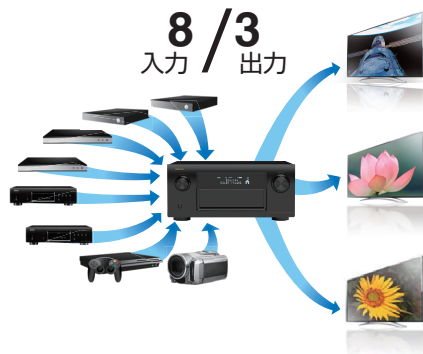
本機には、アナログ映像や SD(標準画質)映像を 4K (3840×2160 ピクセル)の解像度にして HDMI への出力を可能にする 4K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも高精細な映像を再現することができます。

- HDCP 2.2**
本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.2 に対応しています。
- ゾーン 2 用の HDMI 出力を装備** (P.156 ページ)

本機はゾーン 2 の部屋でも映像と音声が楽しめるゾーン 2 用の HDMI 出力を装備し、メインゾーンとは異なる映像ソースをお楽しみいただけます。



- さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備
(入力:8 系統、出力:3 系統)



本機には 8 系統の HDMI 入力端子と 3 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。また、本機は同時出力可能なメインゾーン用の 2 系統出力にマルチゾーン出力を加えた 3 系統の HDMI 出力を装備しており、マルチゾーンでは、メインゾーンで再生中のソースとは別のソースを楽しむことができます。

- インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay® 機能を搭載 (P.117 ページ)



インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、テレビに写真を映したりするなど、さまざまな再生をお楽しみいただけます。

また、本機は AirPlay 機能も搭載していますので、ネットワークを通して iPhone® や iPad®, iPod touch®, iTunes® の音楽を本機で再生できます。

- USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生

高解像度のオーディオフォーマットである DSD(2.8MHz)や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。



- Bluetooth 機器と簡単にワイヤレス接続が可能
(P.92 ページ)



お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

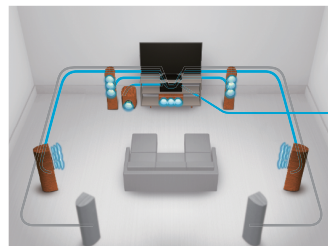
- iPad、iPhone や Android™ 機器(Google、Amazon Kindle Fire)で本機の基本的な操作がおこなえる “Denon Remote App(デノン・リモート・アプリ)” * に対応

“Denon Remote App” は、iPad、iPhone、Android スマートフォンや Android タブレットで本機の電源のオン/ オフや音量調節、入力ソースの切り替えなどの基本操作がおこなえるアプリケーションソフトです。

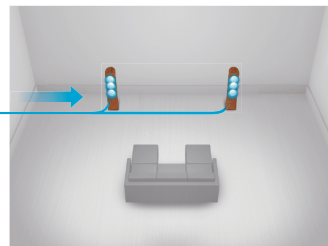
* “Denon Remote App” を iOS や Android 機器からダウンロードしてください(無料)。本機を LAN 接続し、iPhone や iPod touch を同じネットワーク上にある Wi-Fi(無線 LAN)にて接続する必要があります。

- マルチルームでの音声再生に対応(P.130 ページ)

【メインゾーン】



【ゾーン 2】 / 【ゾーン 3】



メインゾーン、ゾーン 2 とゾーン 3 でそれぞれの入力を選択して再生できます。

また、All Zone Stereo 機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

- 省エネ設計

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時に自動的に電源をオフするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。



簡単操作

- 基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー
テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- 操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース
本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット



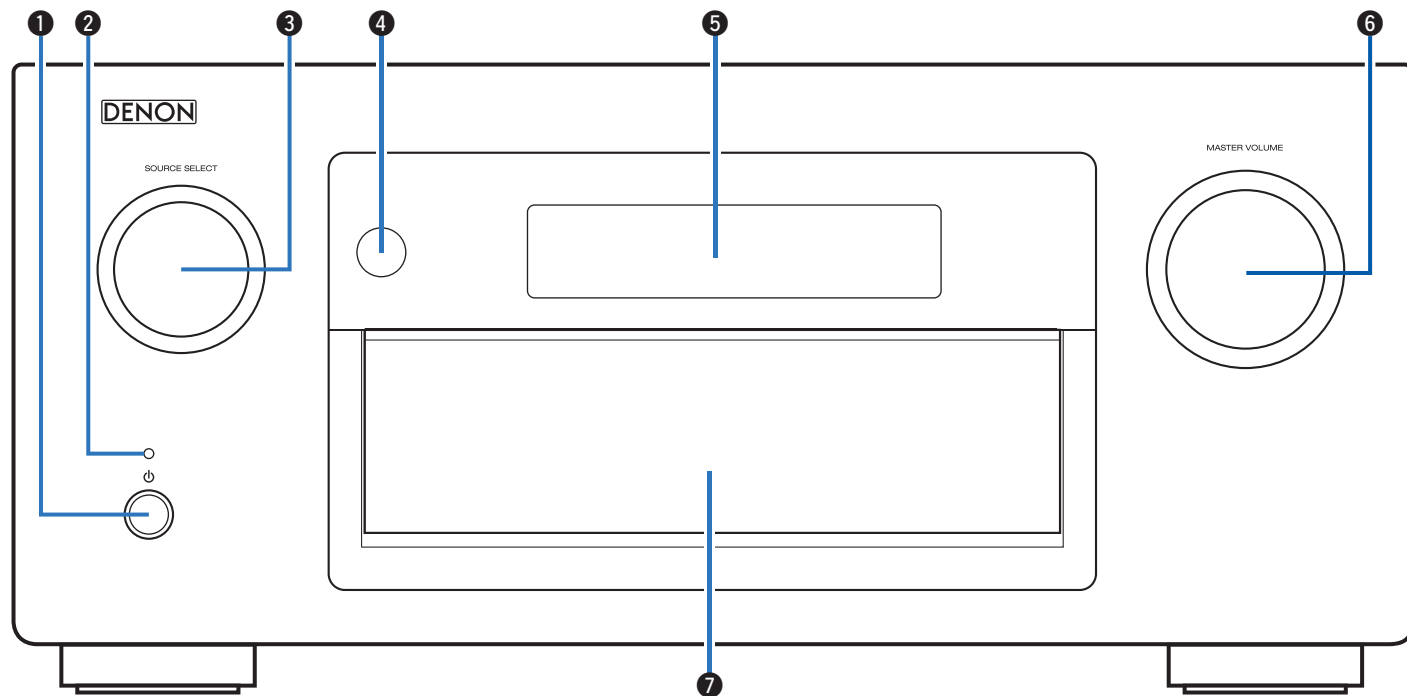
音のエチケット

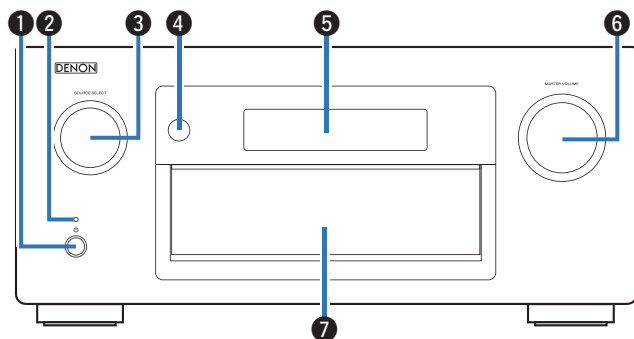
- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。



各部の名前

フロントパネル





① 電源ボタン (🔌)

メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(📖 82 ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- ・ 緑色: 電源オン時
- ・ 消灯: 通常のスタンバイ時
- ・ 赤色:
 - ・ “HDMI パススルー” の設定が “オン” のとき(📖 188 ページ)
 - ・ “HDMI コントロール” の設定が “オン” のとき(📖 189 ページ)
 - ・ “IP コントロール” の設定が “常時オン” のとき(📖 249 ページ)

③ 入力ソース選択つまみ (SOURCE SELECT)

入力ソースを選択します。(📖 82 ページ)

④ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(📖 10 ページ)

⑤ ディスプレイ

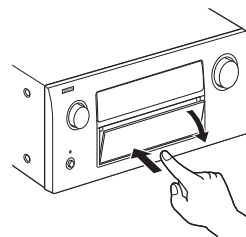
各種情報を表示します。(📖 21 ページ)

⑥ 音量調節つまみ (MASTER VOLUME)

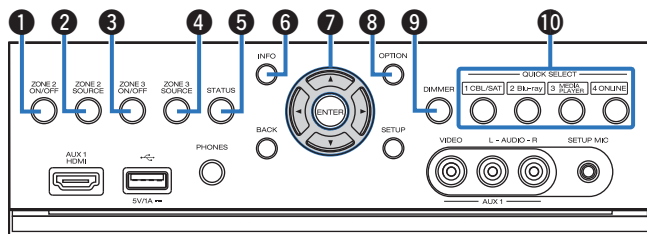
音量を調節します。(📖 83 ページ)

⑦ ドア

ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下部分を押し、ドアが開きます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。



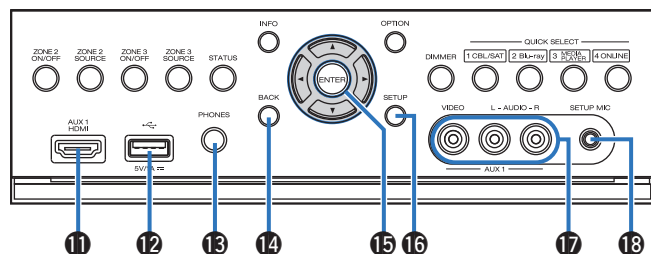
ドアを開いた状態



- ① **ゾーン 2 用電源ボタン (ZONE2 ON/OFF)**
ゾーン 2 の電源をオン/オフします。(☞ 161 ページ)
- ② **ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン (ZONE2 SOURCE)**
ゾーン 2 の入力ソースを選択します。(☞ 161 ページ)
- ③ **ゾーン 3 用電源ボタン (ZONE3 ON/OFF)**
ゾーン 3 の電源をオン/オフします。(☞ 161 ページ)
- ④ **ゾーン 3 用入力ソース選択ボタン (ZONE3 SOURCE)**
ゾーン 3 の入力ソースを選択します。(☞ 161 ページ)

- ⑤ **ステータスボタン (STATUS)**
ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。(☞ 86 ページ)
- ⑥ **インフォメーションボタン (INFO)**
ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞ 259 ページ)
- ⑦ **カーソルボタン (△▽◀▶)**
項目を選択します。(☞ 166 ページ)
- ⑧ **オプションボタン (OPTION)**
テレビ画面にオプションメニューを表示します。(☞ 120 ページ)
- ⑨ **ディマーボタン (DIMMER)**
ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞ 257 ページ)
- ⑩ **クイックセレクトボタン (QUICK SELECT)**
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。(☞ 151 ページ)





11 AUX1 HDMI 端子

HDMI 出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。
([168 ページ](#))

12 USB 端子

USB ストレージ(USB メモリーなど)や iPod に付属の USB ケーブルを接続します。
([71 ページ](#))

13 ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

14 バックボタン (BACK)

ひとつ前の画面に戻します。
([166 ページ](#))

15 エンターボタン (ENTER)

選択した内容を確定します。
([166 ページ](#))

16 セットアップボタン (SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。
([166 ページ](#))

17 AUX1 入力端子 (AUX1 INPUT)

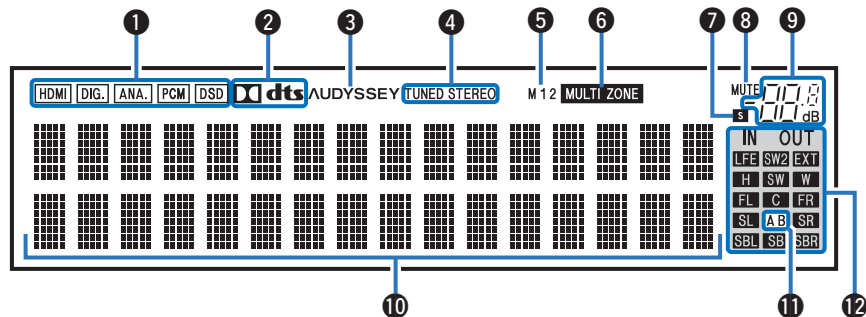
アナログ出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。
([68 ページ](#))

18 セットアップマイク端子 (SETUP MIC)

付属のセットアップマイクを接続します。
([206 ページ](#))



ディスプレイ



① 入力信号表示

入力信号によって点灯します。(P.201 ページ)

② デコーダー表示

Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

③ Audyssey®表示

“MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”、“Audyssey DSX®” または “Audyssey LFC™” が設定されているときに点灯します。(P.178～181 ページ)

④ チューナー受信モード表示

入力ソースが “Tuner” のとき、放送局の受信状態により点灯します。

TUNED: 放送局を受信したときに点灯します。

STEREO: FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

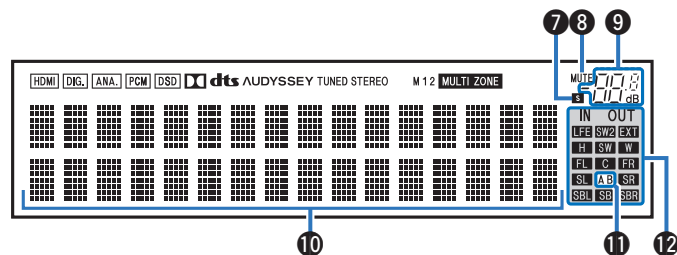
⑤ モニター出力表示

HDMI モニター出力の設定に合わせて点灯します。“オート (デュアル)” に設定されているときは、接続状態に合わせて点灯します。

⑥ マルチゾーン表示

ゾーン 2 またはゾーン 3 (別の部屋) の電源が入っているときに点灯します。(P.161 ページ)





⑦ スリープタイマー表示

スリープタイマーを設定しているときに点灯します。
([P.150](#) ページ)

⑧ ミュート表示

消音中に点滅します。([P.83, 162](#) ページ)

⑨ 音量表示

⑩ インフォメーションディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

⑪ フロントスピーカー表示

フロントスピーカー A、B の設定に合わせて点灯します。

⑫ 入力/出力信号チャンネル表示

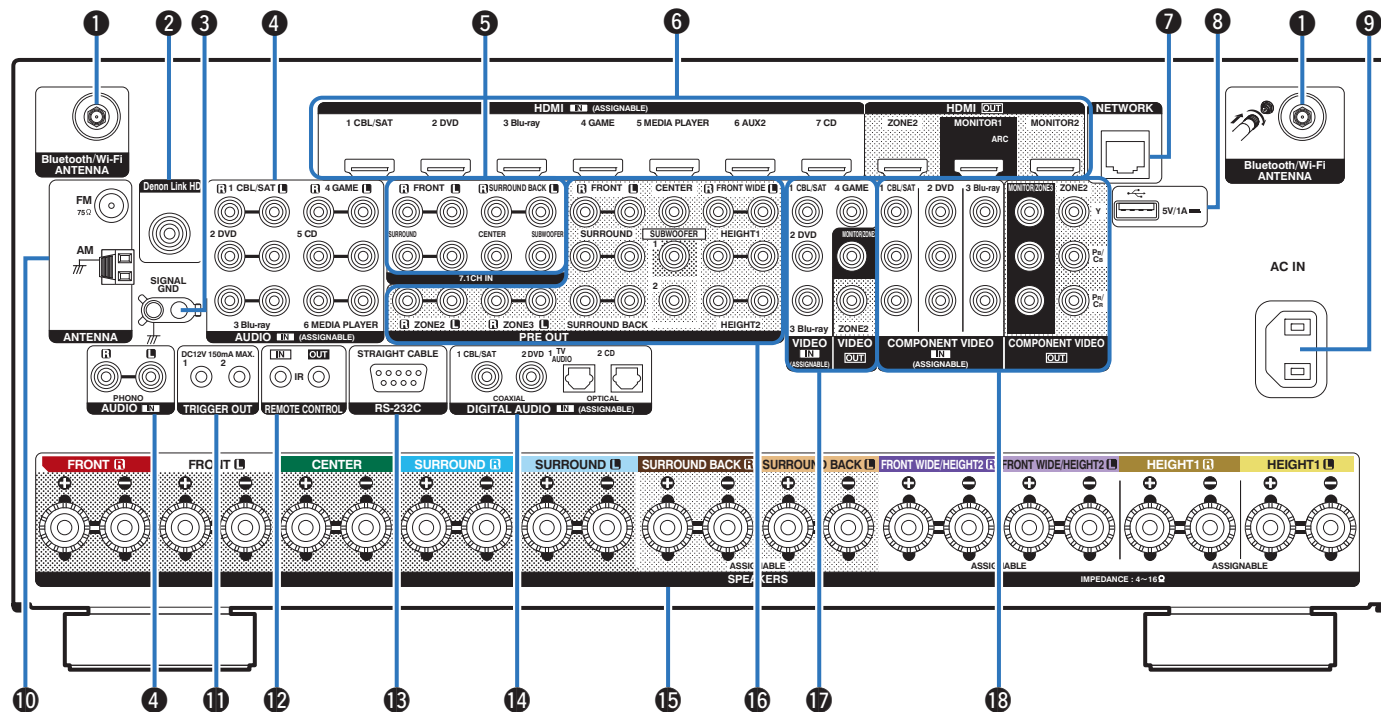
“チャンネルインジケーター” の設定に合わせて入力または出力信号のチャンネルを表示します。([P.257](#) ページ)

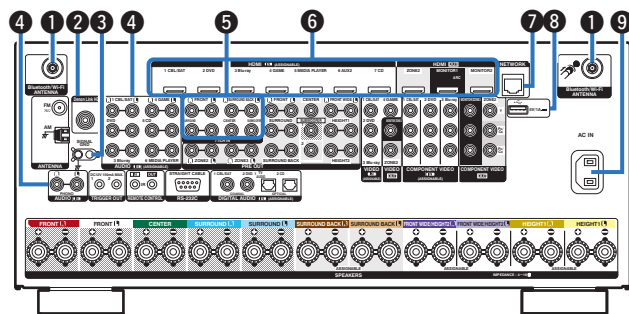
- “出力” に設定しているとき (お買い上げ時の設定)
スピーカーから音声が出力されているときに点灯します。
- “入力” に設定しているとき

入力信号に含まれるチャンネルに合わせて点灯します。
再生している HD オーディオソースに拡張チャンネル (フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック/フロントハイト/フロントワイド/LFE 以外のチャンネル) が含まれる場合は、**EXT** 表示が点灯します。



リアパネル

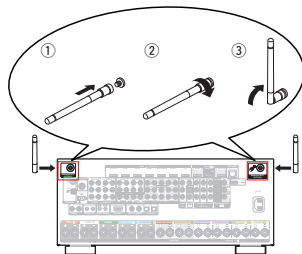




① Bluetooth/無線 LAN 用アンテナ端子

Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、この端子に、付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを接続してご使用ください。(P.77 ページ)

- ① Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルのアンテナ端子と水平に合わせる。
- ② アンテナを右に回してしっかり締める。
- ③ 最も受信状態が良い向きにアンテナを回転させる。



② Denon Link HD 端子

Denon Link HD 対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続します。(P.67 ページ)

③ アース端子 (SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。(P.69 ページ)

④ アナログオーディオ端子 (AUDIO)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。(P.65 ページ)

⑤ 7.1 チャンネル入力端子 (7.1CH IN)

マルチチャンネル音声出力端子付きの機器を接続します。(P.70 ページ)

⑥ HDMI 端子

HDMI 端子付きの機器を接続します。(P.61 ページ)

⑦ ネットワーク端子 (NETWORK)

有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(P.76 ページ)

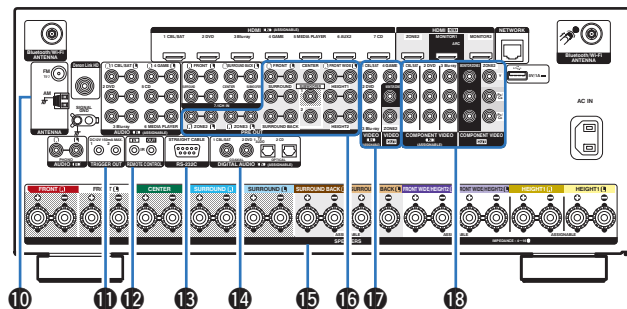
⑧ USB 端子

USB ストレージ (USB メモリーなど) や iPod に付属の USB ケーブルを接続します。(P.71 ページ)

⑨ AC インレット (AC IN)

電源コードを接続します。(P.80 ページ)





⑩ FM/AM アンテナ端子 (ANTENNA)

FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(P.74 ページ)

⑪ トリガー出力端子 (TRIGGER OUT)

トリガー機能対応の機器を接続します。(P.79 ページ)

⑫ リモートコントロール端子 (REMOTE CONTROL)

メインゾーン以外の部屋から本機や外部機器を操作するため、赤外線受信機や送信機を接続します。

⑬ RS-232C 端子

RS-232C シリアル端子を備えたホームオートメーションコントローラー機器への接続を可能にしています。本機のシリアルコントロールについての詳細は、ホームオートメーションコントローラー機器の取扱説明書をご覧ください。

あらかじめ次の確認をしてください。

- ① 本機の電源を入れる。
- ② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
- ③ 本機がスタンバイ状態になる。

⑭ デジタルオーディオ端子 (DIGITAL AUDIO)

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。

(P.62 ページ)

⑮ スピーカー端子 (SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(P.39 ページ)

⑯ プリアウト端子 (PRE OUT)

アンプ内蔵のサブウーハーや外部パワーアンプを接続します。

(P.40、59 ページ)

⑰ ビデオ端子 (VIDEO)

ビデオ端子付きの機器を接続します。

(P.63、157 ページ)

⑱ コンポーネントビデオ端子 (COMPONENT VIDEO)

コンポーネントビデオ端子付きの機器を接続します。

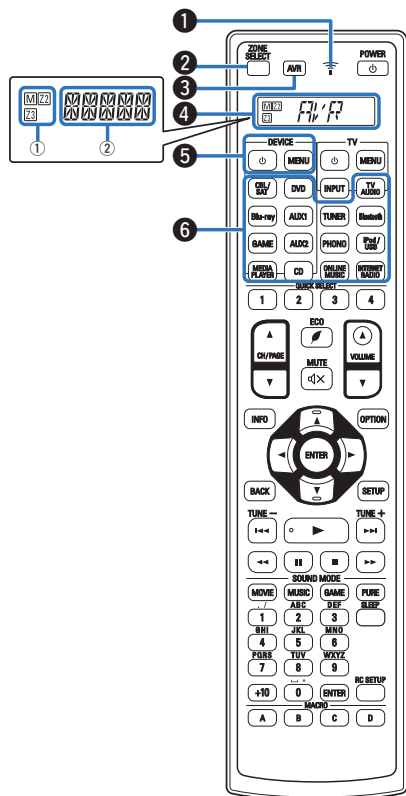
(P.63、157 ページ)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。



リモコン



① W 表示

リモコン信号を送信したときに点灯します。

② ゾーン選択ボタン (ZONE SELECT)

リモコンで操作するゾーン(メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3)を選択します。(P.161、166 ページ)

③ AVR 操作ボタン

リモコンにプリセットコードを登録する場合は、AVR ボタンを押してから本機のメニュー操作をおこなってください。

④ ディスプレイ

① ゾーン選択表示

② インフォメーション表示

- 本機を操作中は、“AVR” を表示します。
- 外部機器を操作中は、入力ソース名を表示します。
- テレビを操作中は、“TV” を表示します。
- リモコンの設定内容を表示します。

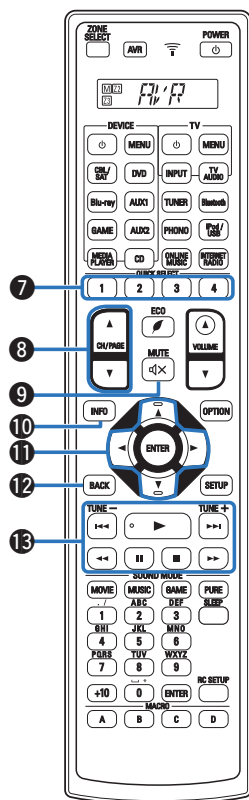
⑤ 外部機器操作ボタン (DEVICE 〇 / DEVICE MENU)

外部機器の電源オン/オフやメニューの呼び出しをします。これらのボタンをご使用になるときは、プリセットコードの登録が必要です。(P.264 ページ)

⑥ 入力ソース選択ボタン

入力ソースを選択します。(P.82、161 ページ)





⑦ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT 1~4)

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。

([参照 151 ページ](#))

⑧ チャンネル選択/ページ検索ボタン (CH/PAGE ▲▼)

プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。(参照 86、101 ページ)

⑨ ミュートボタン(MUTE $\times$)

消音します。(参照 83、161 ページ)

⑩ インフォメーションボタン (INFO)

ステータス情報をテレビ画面に表示します。(参照 259 ページ)

⑪ カーソルボタン (▲▼◀▶)

項目を選択します。(参照 166 ページ)

⑫ バックボタン (BACK)

ひとつ前の画面に戻します。(参照 166 ページ)

⑬ システムボタン

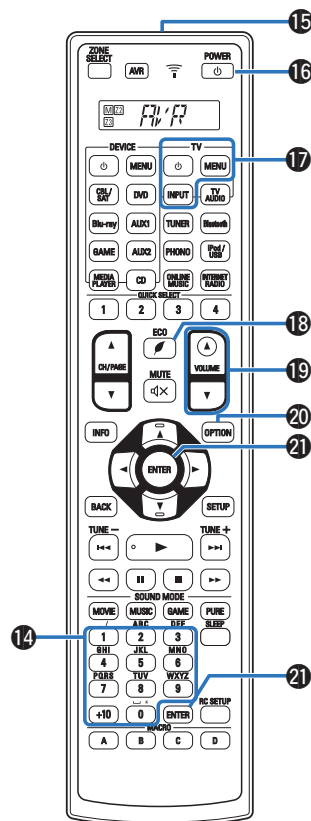
再生に関する操作をします。(参照 86 ページ)

- スキップボタン (I◀◀, ▶▶I)
- プレイボタン (▶)
- サーチボタン (◀◀, ▶▶)
- ポーズボタン (II)
- ストップボタン (■)

選局ボタン (TUNE +, -)

FM 放送局または AM 放送局を選択します。(参照 98 ページ)





⑭ 数字/文字入力ボタン

本機の文字入力や数字入力をします。

([198](#)、[168](#) ページ)

⑮ リモコン信号送信窓

リモコンの信号を送信します。([10](#) ページ)

⑯ 電源操作ボタン (P)

電源をオン/オフします。([82](#)、[161](#) ページ)

⑰ テレビ操作ボタン (TV ❶ / TV MENU / TV INPUT)

テレビの電源オン/オフや入力の切り替え、メニューの呼び出しをします。これらのボタンをご使用になるときは、プリセットコードの登録が必要です。([269](#) ページ)

⑱ エコモードボタン (ECO ❷)

エコモードを切り替えます。([252](#) ページ)

⑲ 音量調節ボタン (▲▼)

音量を調節します。([83](#)、[162](#) ページ)

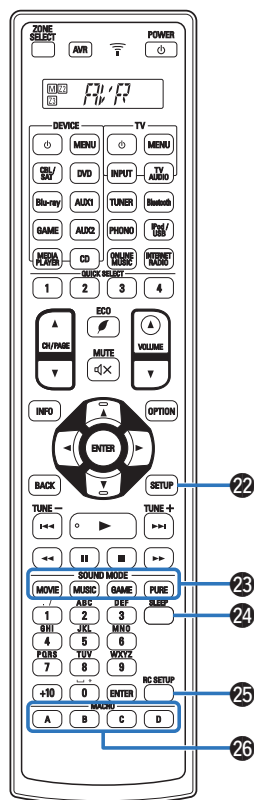
⑳ オプションボタン (OPTION)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。
([120](#) ページ)

㉑ エンターボタン (ENTER)

選択した内容を確定します。([166](#) ページ)





22 セットアップボタン (SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。(参照 166 ページ)

23 サウンドモードボタン (SOUND MODE)

サウンドモードを選択します。(参照 131 ページ)

- ムービーボタン (MOVIE)
- ミュージックボタン (MUSIC)
- ゲームボタン (GAME)
- ピュアボタン (PURE)

24 スリープタイマーボタン (SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(参照 149 ページ)

25 リモコン設定ボタン (RC SETUP)

リモコンの設定に使用します。(参照 263～280 ページ)

26 マクロボタン (MACRO A～D)

テレビとプレーヤーの電源を入れたり、連続した一連の操作をそれぞれのボタンに登録することができます。(参照 274 ページ)



■ 目次

スピーカーを接続する	31
テレビを接続する	60
再生機器を接続する	64
USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する	71
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	74
ホームネットワーク (LAN) に接続する	76
外部のコントロール機器を接続する	78
電源コードを接続する	80

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の9ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
コンポーネントビデオケーブル	
ビデオケーブル	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	

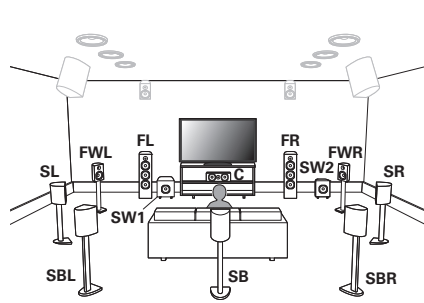


スピーカーを接続する

スピーカーを設置し、本機にスピーカーを接続します。(P.31、39 ページ)

スピーカーを設置する

ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。
例として、代表的な設置方法を説明します。



FL/FR(フロント
スピーカー左/右):

フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。

C(センター
スピーカー):

センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間のテレビの上または下側に設置します。

SL/SR(サラウンド
スピーカー左/右):

サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。

SBL/SBR(サラウンド
バックスピーカー左/右):

サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを1台使用する場合(SB)は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。

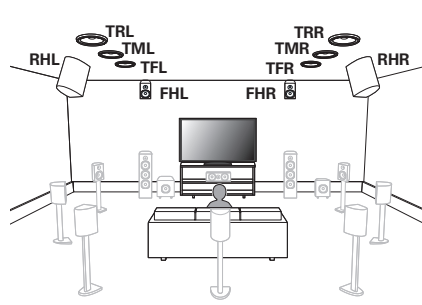
FWL/FWR
(フロントワイドスピー
カー左/右):

フロントワイド左右スピーカーは、フロントスピーカーから等距離の外側になるように設置します。

SW 1/2
(サブウーハー):

サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを2台使用する場合は、部屋の前方に左右非対称となるように設置してください。




FHL/FHR (フロントハイトスピーカー左/右):

フロントハイト左右スピーカーはフロントスピーカーの真上に配置します。できるだけ天井に近い高さで、リスニングポイントを向くように設置してください。

TFL/TFR (トップフロントスピーカー左/右):

トップフロント左右スピーカーは視聴位置から前方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。

TML/TMR (トップミドルスピーカー左/右):

トップミドル左右スピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。

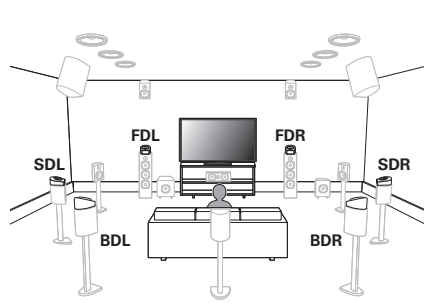
TRL/TRR (トップリアスピーカー左/右):

トップリア左右スピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。

RHL/RHR (リアハイトスピーカー左/右):

リアハイト左右スピーカーはできるだけ天井に近い高さで、視聴位置から後方に配置します。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。





FDL/FDR (フロント
Dolby スピーカー左/
右):

フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーをフロントスピーカーの上に置いてください。フロントスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、フロントスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

SDL/SDR (サラウンド
Dolby スピーカー左/
右):

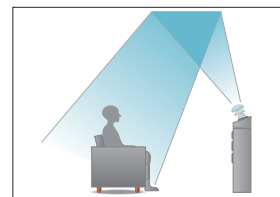
サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドスピーカーの上に置いてください。サラウンドスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

BDL/BDR (バック
Dolby スピーカー左/
右):

バック Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドバックスピーカーの上に置いてください。サラウンドバックスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドバックスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

Dolby Atmos Enabled スピーカーについて

Dolby Atmos Enabled スピーカーは上向きの特殊なスピーカーを床面に設置することで、出力された音声を天井で反射させて上から音声が聴こえるようにするスピーカーです。天井にスピーカーが設置できない環境でも、Dolby Atmos の 3D サウンドを楽しむことができます。

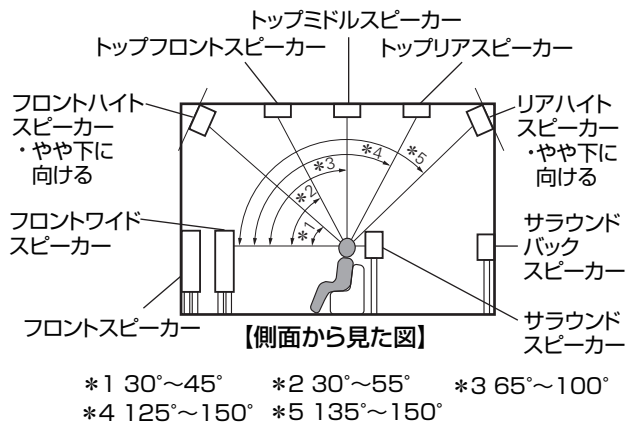




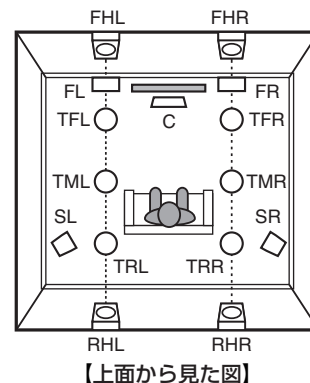
- 本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX[®]、Dolby Atmos、DTS Neo:X および DTS:X に対応しています。(※325、326、329 ページ)
Audyssey DSX[®]をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。
- Dolby Atmos は、スピーカー構成が 5.1 チャンネル以下のときは使用できません。

アップデート (DTS:X)

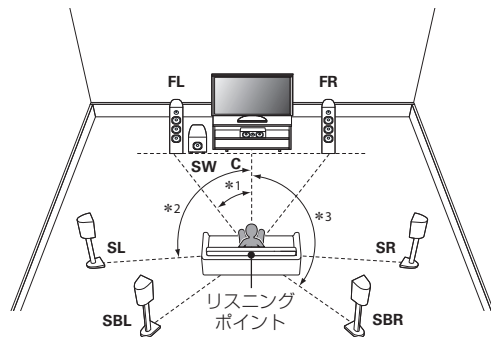
- DTS:X は、スピーカー構成に関わらず使用できます。
- DTS:X 対応ファームウェアへアップデートをおこなった後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。
- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



ハイトスピーカーのレイアウト図



■ サラウンドバックスピーカーを使用して7.1チャンネルのスピーカーを設置するとき

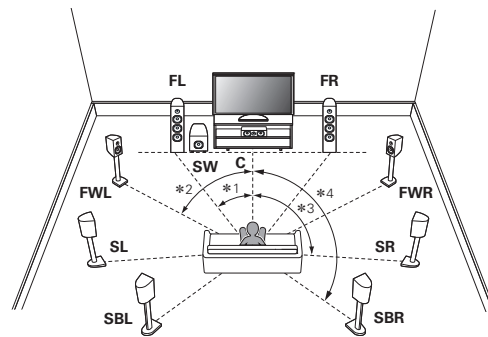


*1:22° ~ 30° *2:90° ~ 110° *3:135° ~ 150°



サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

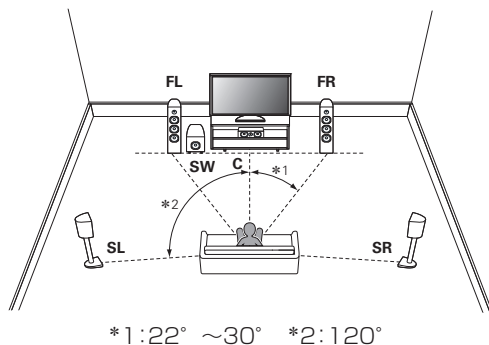
■ フロントワイドスピーカーを使用して9.1チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1:22° ~ 30° *2:55° ~ 60° *3:90° ~ 110° *4:135° ~ 150°



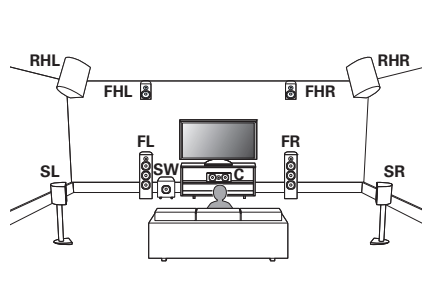
■ 5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



■ ハイトスピーカーおよび天井スピーカーを含めたレイアウト

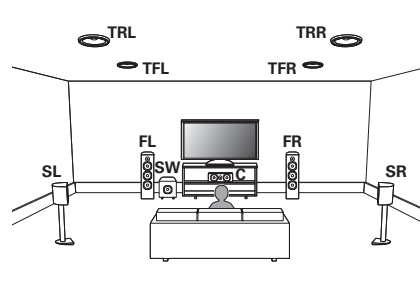
□ ハイトスピーカーの配置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト/リアハイトスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



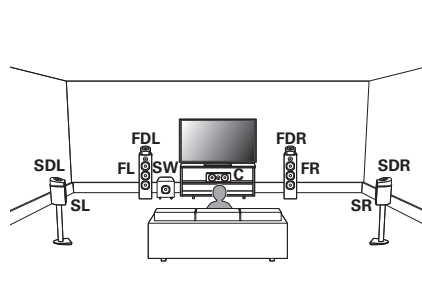
□ 天井スピーカーの配置例

5.1 チャンネルのスピーカーにトップフロント/トップリアスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



□ Dolby Atmos Enabled スピーカーの配置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロント Dolby/サラウンド Dolby スピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明します。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。（「保護回路」[\(P.337 ページ\)](#)）
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”（別冊の“かんたんスタートガイド”の9ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。）
- スピーカーはインピーダンスが4～16Ωのものを使用してください。

ご注意

- インピーダンスが4～6Ωのスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の◀と▶を同時に3秒以上長押しする。
ディスプレイに“*Video Format <NTSC>”を表示します。
2. 本体の▽を2回押す。
ディスプレイに“*Sp. Impedance <8ohms>”を表示します。
3. 本体の◀または▶を押して、インピーダンスを選ぶ。

6ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが6Ωのときに選択します。
--------	---------------------------------

4ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが4Ωのときに選択します。
--------	---------------------------------

4. 本体のENTERを押して、設定を終了する。



■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

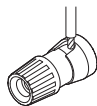
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるが、端末処理をおこなう。



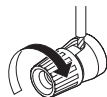
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカ端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回して締める。

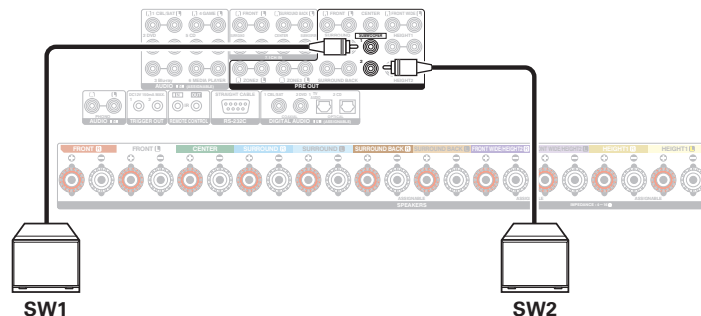


■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。

サブウーハーを 2 台接続する場合は、“スピーカー構成” の設定で“サブウーハー”を“2 台”に設定してください。
([p.235 ページ](#))

サブウーハー 1 とサブウーハー 2 の音量レベルおよび距離は個別に設定できます。



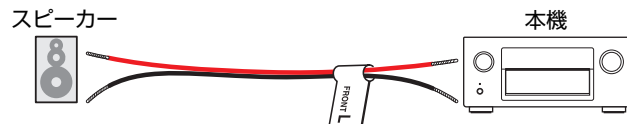
■ チャンネル識別のためのスピーカーケーブルラベル (付属)について

本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。

スピーカー端子	カラー
FRONT L	白色
FRONT R	赤色
CENTER	緑色
SURROUND L	水色
SURROUND R	青色
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
FRONT WIDE L	薄紫色
FRONT WIDE R	紫色
FRONT HEIGHT L	薄黄色
FRONT HEIGHT R	黄色
TOP FRONT L	薄黄色
TOP FRONT R	黄色
TOP MIDDLE L	薄紫色
TOP MIDDLE R	紫色
TOP REAR L	薄紫色
TOP REAR R	紫色
REAR HEIGHT L	薄紫色
REAR HEIGHT R	紫色
FRONT DOLBY L	薄黄色
FRONT DOLBY R	黄色
SURROUND DOLBY L	薄紫色
SURROUND DOLBY R	紫色
BACK DOLBY L	薄紫色
BACK DOLBY R	紫色
SUBWOOFER	黒色

付属のケーブルラベルもパネルに合わせて色分けしています。表を参照して、各スピーカーケーブルに貼り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続することでスピーカーの接続が容易になります。

【スピーカーケーブルラベルの貼りかた】



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は9チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる5.1チャンネルシステムのほかに、“アンプの割り当て”(P214ページ)の設定を変更することで、7.1チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の2チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。

設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“アンプの割り当て”の設定をおこなってください。(P214ページ)

各ゾーンで再生するスピーカー			“アンプの割り当て”の設定	接続のページ
メインゾーン	ゾーン2	ゾーン3		
5.1チャンネル再生	使用しない	使用しない	7.1ch + ZONE2	45
7.1チャンネル再生(サラウンドバック)	使用しない	使用しない	7.1ch + ZONE2	46
9.1チャンネル再生	使用しない	使用しない	9.1ch(お買い上げ時の設定)	47
11.1チャンネル再生	使用しない	使用しない	11.1ch	48
7.1チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)	使用しない	使用しない	7.1ch(Bi-Amp)	49
9.1チャンネル再生+2チャンネル再生専用スピーカー	使用しない	使用しない	9.1ch/2ch Front	50
7.1チャンネル再生+ステレオ再生用の2チャンネルバイアンプスピーカー	使用しない	使用しない	7.1ch/2ch Front(Bi-Amp)	51
7.1チャンネル再生+2台目のフロントスピーカー	使用しない	使用しない	7.1ch + Front B	52
7.1チャンネル再生	2チャンネル	使用しない	7.1ch + ZONE2	53
7.1チャンネル再生	使用しない	2チャンネル	7.1ch + ZONE3	53
5.1チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)	2チャンネル	使用しない	5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2	54
5.1チャンネル再生	2チャンネル	2チャンネル	5.1ch + ZONE2/3	55
7.1チャンネル再生	1チャンネル	1チャンネル	7.1ch + ZONE2/3-MONO	56
Dolby Atmos 再生	使用しない	使用しない	Dolby Atmos	57
11.1チャンネル再生(本機をプリアンプとして使用)	使用しない	使用しない	プリアンプ	59



アップデート (DTS:X)

DTS:X は、スピーカー構成に関わらずお楽しみいただけます。

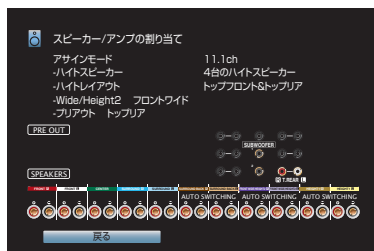
スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。対応しているサウンドモードについては、「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(P.315 ページ)をご覧ください。

以降のページに基本となる接続例を記載しています。





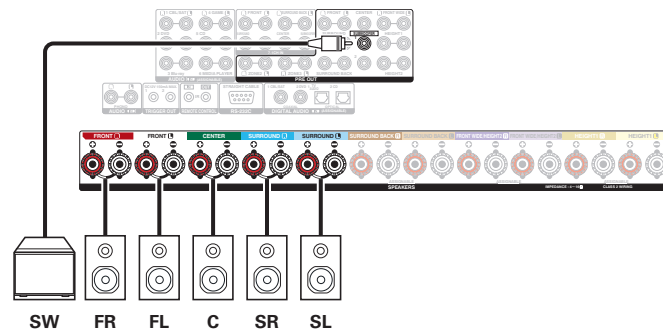
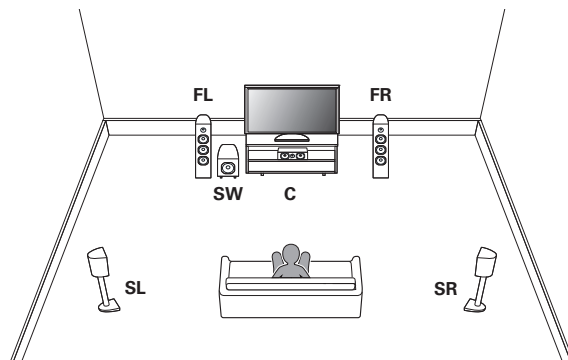
本機では、(p.45～59 ページ)に記載している接続方法の他に、“アンプの割り当て”の設定により、様々なスピーカーの接続方法があります。ご使用の環境に合わせた接続方法を、“アンプの割り当て”の設定画面の中の“端子の接続確認”でメニュー画面上にガイドしていますので、そちらもご覧ください。



■ 標準的な構成と接続

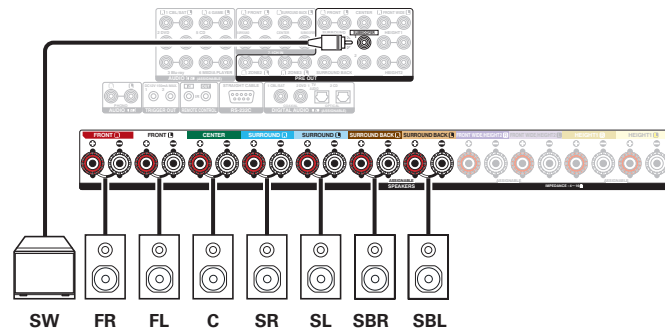
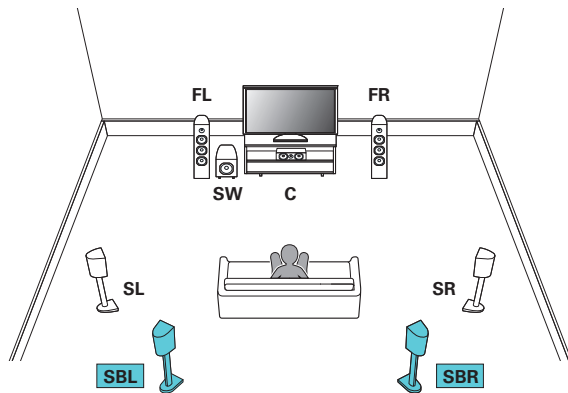
□ 5.1 チャンネル再生

サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。



□ 7.1 チャンネル再生(サラウンドバック)

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK の L 端子に接続してください。

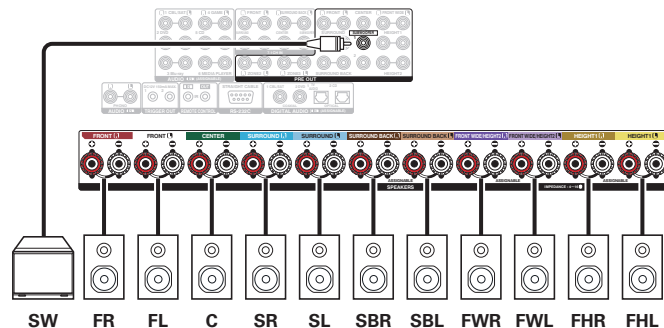
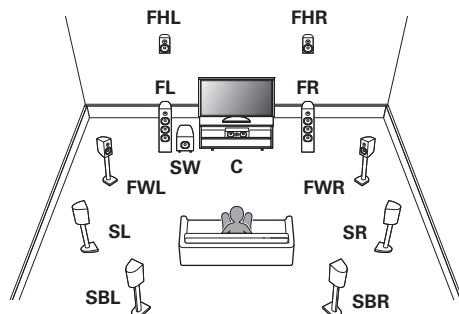


■ 高度な接続

□ 9.1 チャンネル再生

5.1 チャンネルのシステムを基本とし、最大 9.1 チャンネルを同時に再生するシステムです。

最大 11 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続できます。10 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

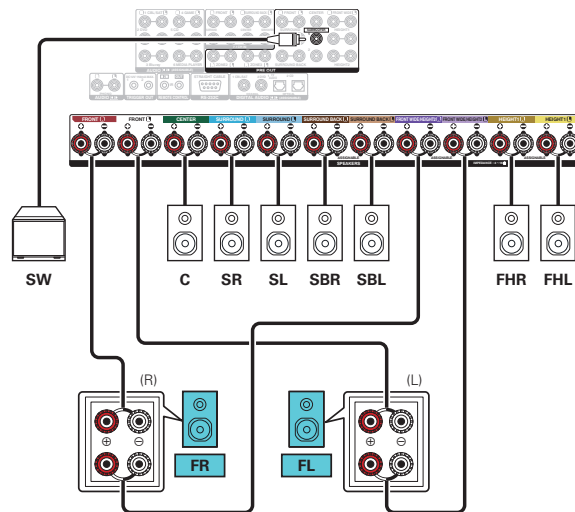
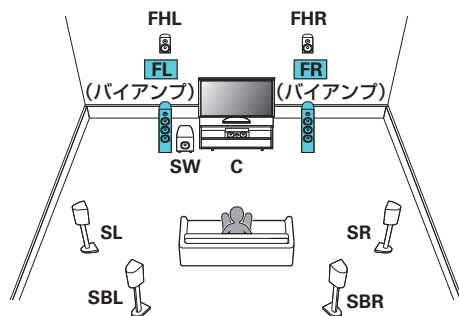




□ 7.1 チャンネル再生(フロントスピーカーバイアンプ接続)

7.1 チャンネル再生をするシステムです。フロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツイーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツイーターに流れ込んでツイーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。

最大 9 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



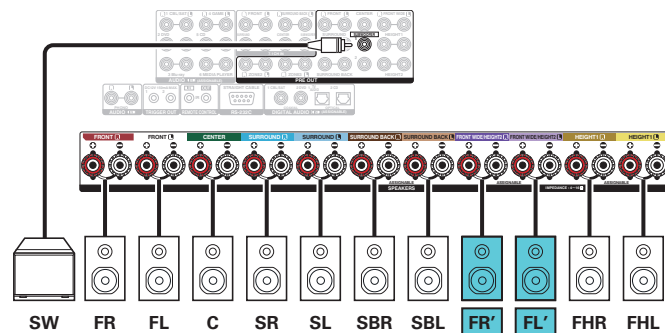
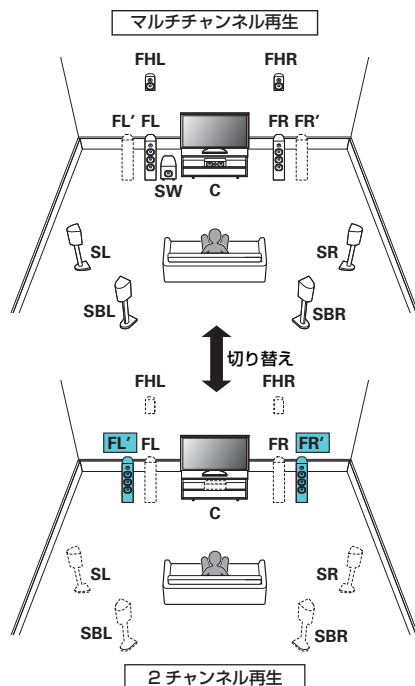
ご注意

バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツイーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。



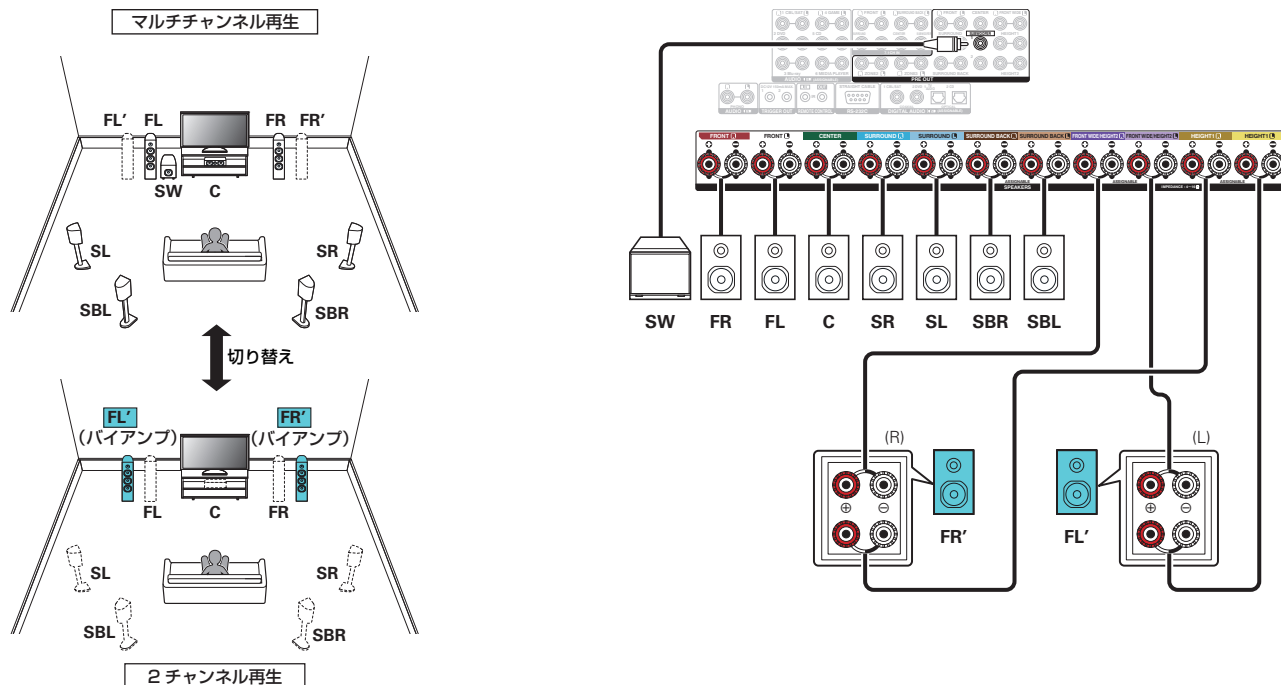
□ 9.1 チャンネル再生 + 2 チャンネル再生専用スピーカー

ダイレクトモードやステレオモードで使用する 2 チャンネル再生専用のスピーカーと、9.1 マルチチャンネル再生専用スピーカーを接続できます。サウンドモードに応じてマルチチャンネル再生専用スピーカーと 2 チャンネル専用のスピーカーを自動的に切り替えて再生します。



□ 7.1 チャンネル再生 + 2 チャンネル再生専用スピーカー(バイアンプ接続)

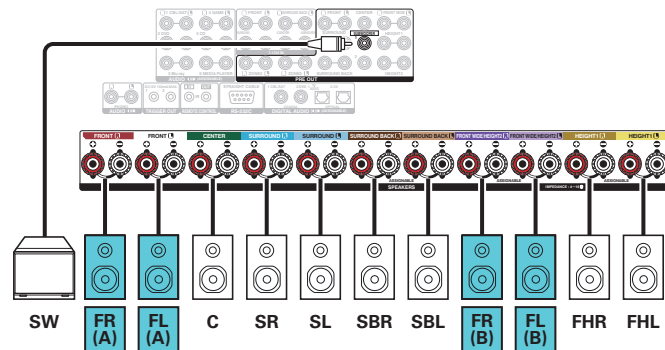
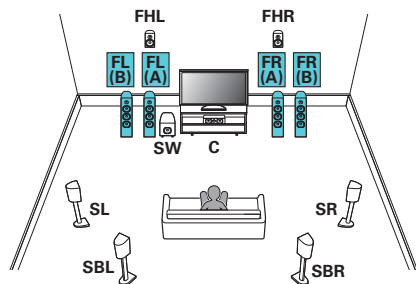
ダイレクトモードやステレオモードで使用する 2 チャンネル再生専用スピーカーと、7.1 マルチチャンネル再生専用スピーカーを接続することができます。2 チャンネル再生専用スピーカーはバイアンプ接続できます。サウンドモードに応じてマルチチャンネル再生専用スピーカーと 2 チャンネル再生専用スピーカーを自動的に切り替えて再生します。



□ 7.1 チャンネル再生 + 2 台目のフロントスピーカー

フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B をお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。

最大 9 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

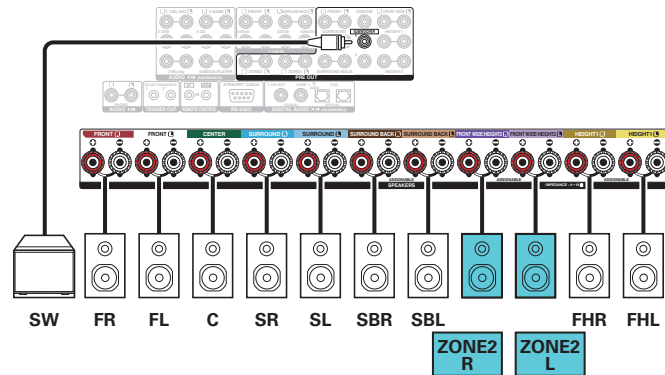
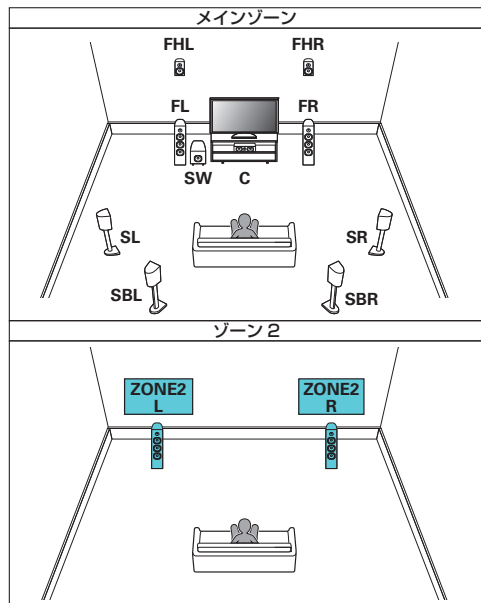


□ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン) + 2チャンネル再生(ゾーン2またはゾーン3)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン2 では 2 チャンネル再生をおこなうシステムです。

(ゾーン2 の代わりにゾーン3 の音声をスピーカーから出力することができます(アサインモード: 7.1 ch + ZONE3))。

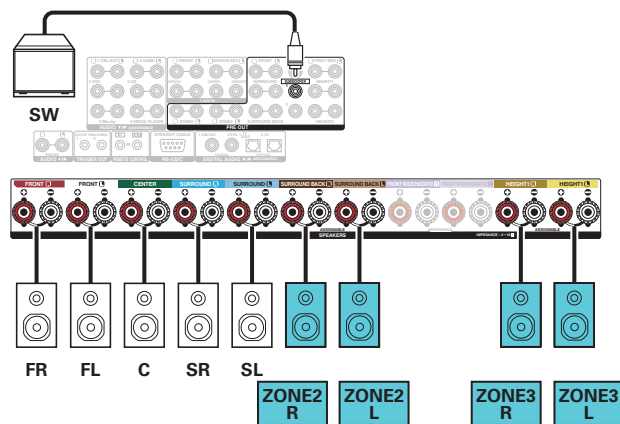
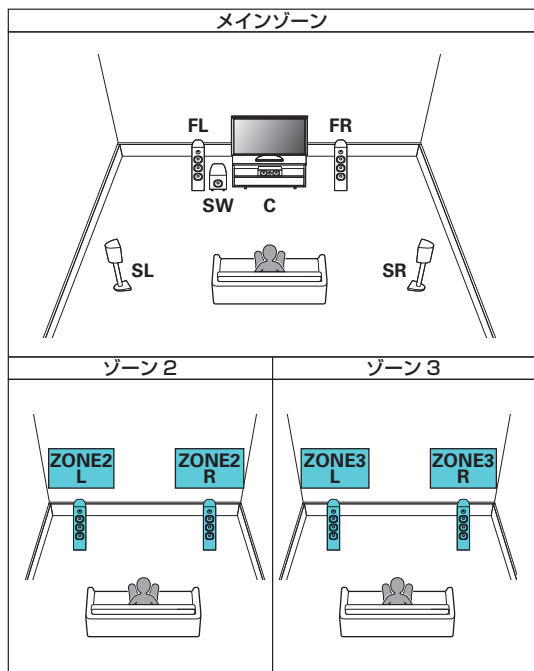
最大 9 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。





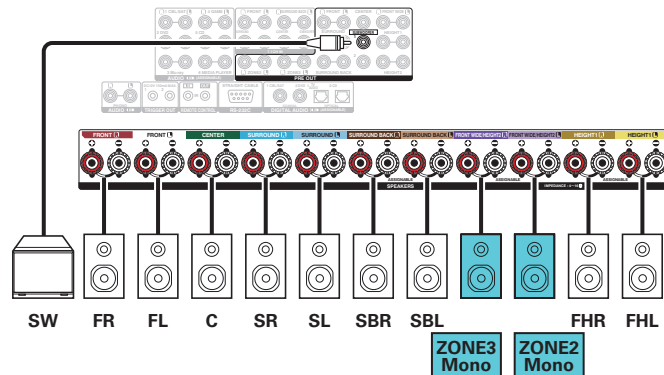
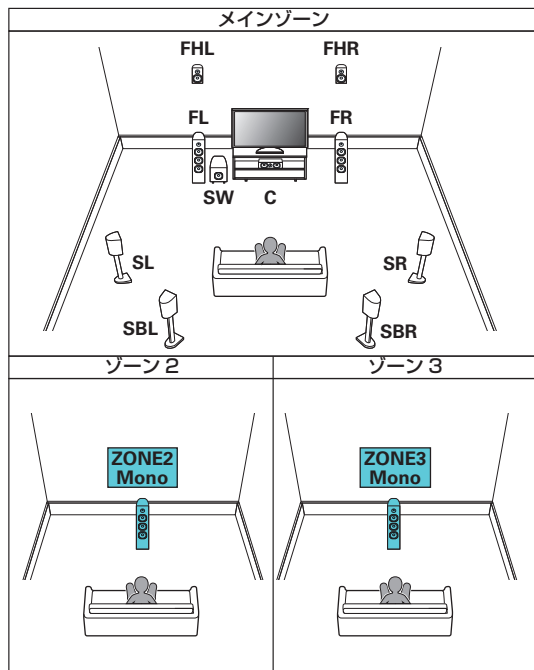
□ 5.1 チャンネル再生(メインゾーン) + 2チャンネル再生(ゾーン2) + 2チャンネル再生(ゾーン3)

メインゾーンでは 5.1 チャンネルの再生をおこない、ゾーン 2 とゾーン 3 でそれぞれ 2 チャンネルの再生をおこなうシステムです。



□ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン) + 1 チャンネル再生(ゾーン2) + 1 チャンネル再生(ゾーン3)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン 2 とゾーン 3 ではそれぞれモノラル再生をおこなうシステムです。最大 9 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

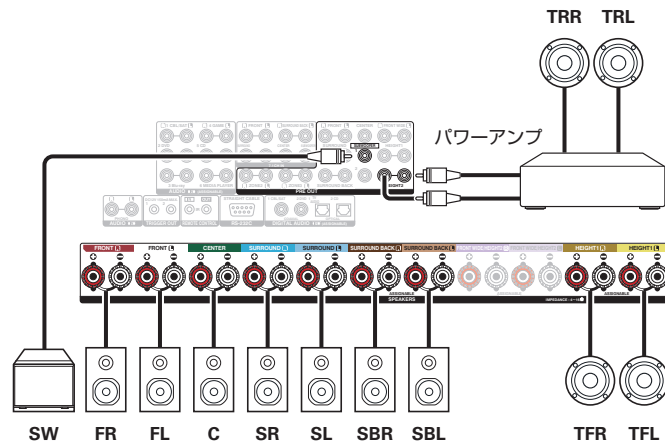
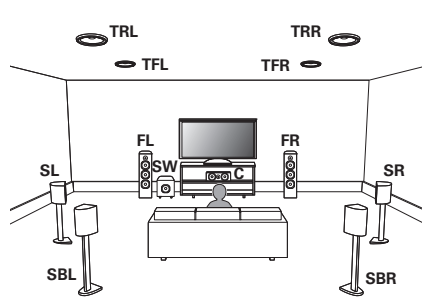


■ Dolby Atmos

Dolby Atmos 再生をおこなうための最適なスピーカーシステムです。

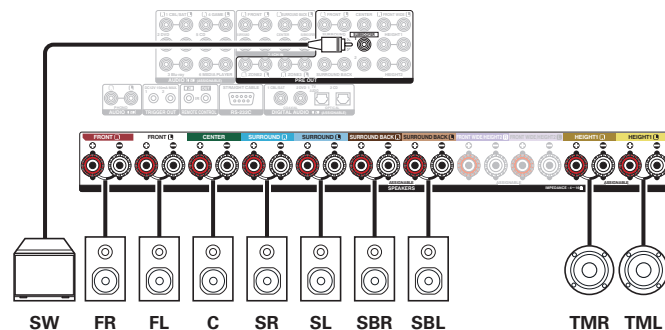
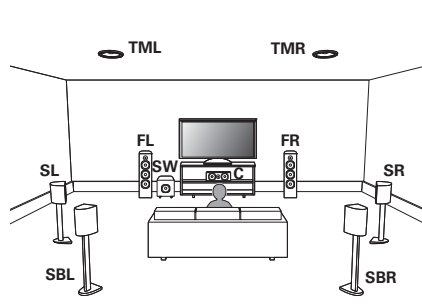
□ 11.1 チャンネルシステム

外部のパワーアンプを使用し、11.1 チャンネルの再生をおこなうシステムです。



□ 9.1 チャンネルシステム

本機のみで Dolby Atmos 再生をおこなうシステムです。



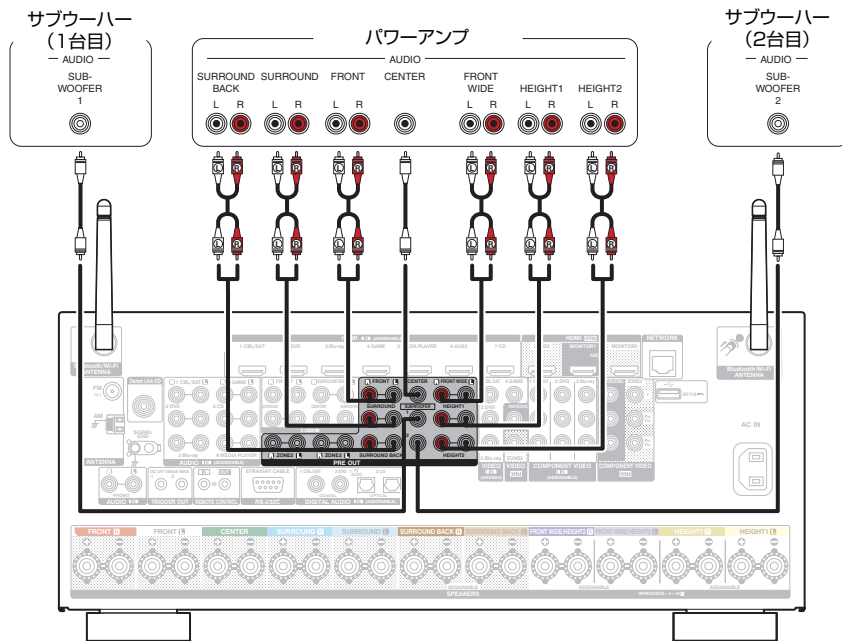
- フロントハイトおよびリアハイトスピーカーを使用して Dolby Atmos 再生をおこなう場合は、“アサインモード”を“9.1ch”または“11.1ch”に設定し、“ハイトスピーカー”を“4 台のハイトスピーカー”に設定してください。
- Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して Dolby Atmos 再生をおこなう場合は、“アサインモード”を“9.1ch”または“11.1ch”に設定し、“ハイトスピーカー”を“Dolby スピーカーを使用”に設定してください。



■ 外部のパワーアンプを接続する

外部のパワーアンプを本機のプリアウト端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。

ご使用になる端子を選んで接続してください。



- 全てのチャンネルを外部アンプを使用して PRE OUT 端子に接続する場合は、“アサインモード”を“プリアンプ”に設定してください。(142ページ)
本機の内部パワーアンプの動作を停止して、パワーアンプからプリアンプへの干渉を減らすことができます。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル(L)に接続してください。

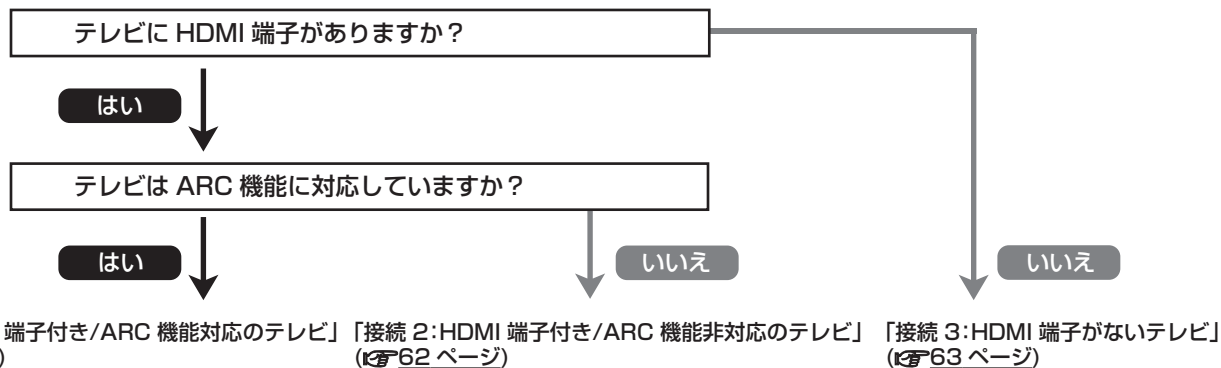


テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。

接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。

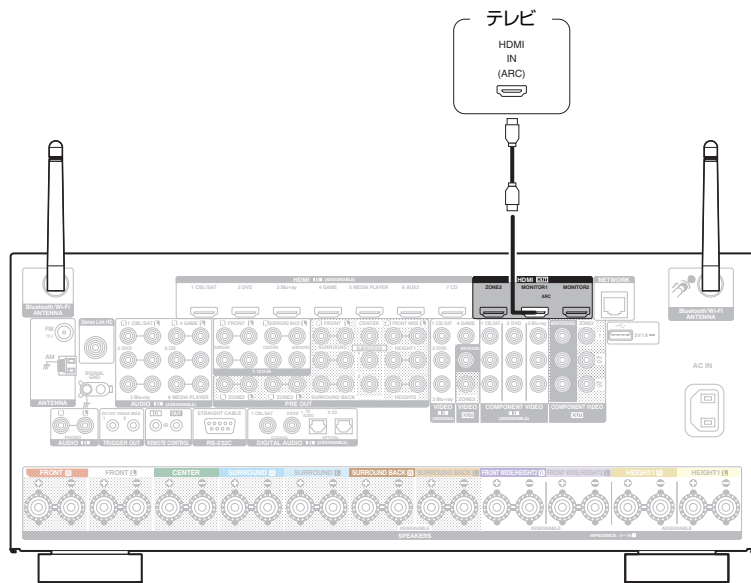
ARC(Audio Return Channel)機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



接続 1: HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC 機能対応のテレビを接続します。

ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(P.189 ページ)



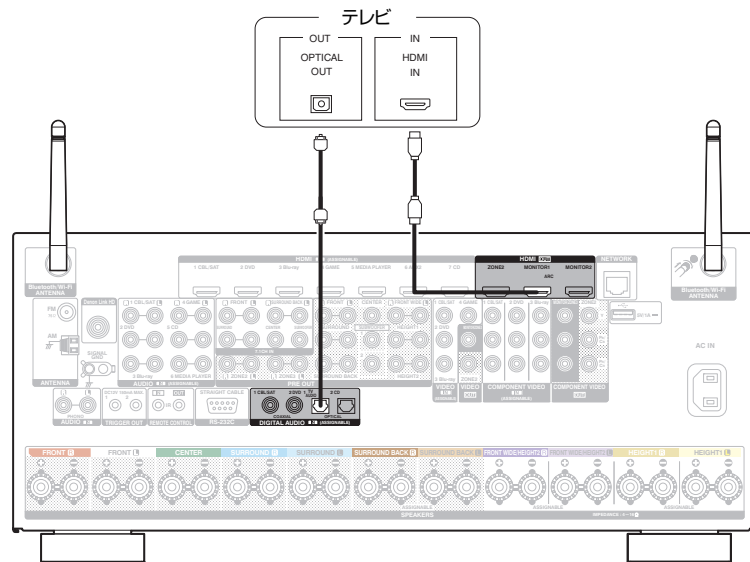
ARC 機能を使用する場合は、HDMI MONITOR 1 端子に接続してください。



接続2:HDMI端子付き/ARC機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。

本機を經由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。





再生機器を接続する

本機には 3 種類(HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ)の映像入力端子と 3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。

本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。

HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」([図 65 ページ](#))
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」([図 66 ページ](#))
- 「Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する」([図 67 ページ](#))
- 「ビデオカメラやゲーム機などを接続する」([図 68 ページ](#))
- 「レコードプレーヤーを接続する」([図 69 ページ](#))
- 「マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する」([図 70 ページ](#))



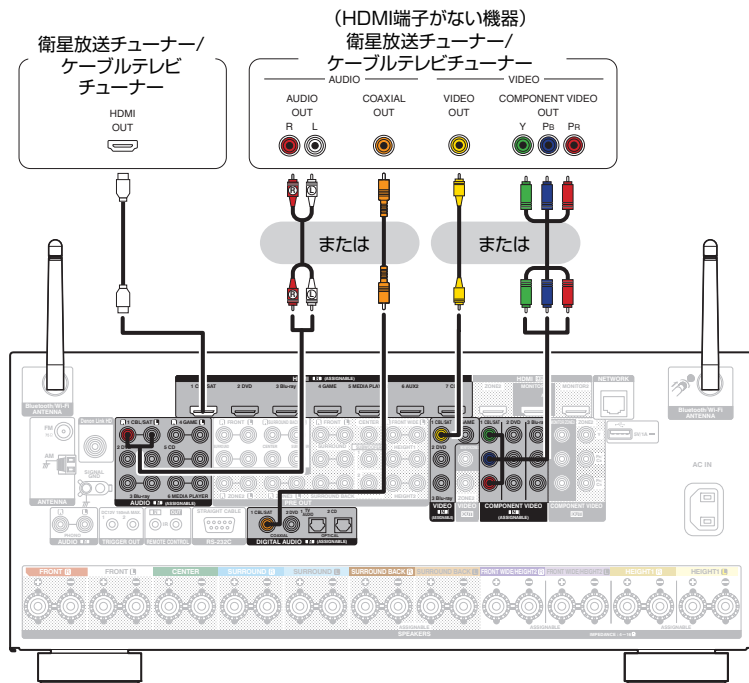
- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおり機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、COMPONENT VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、「入力端子の割り当て」をご覧ください。[\(図 198 ページ\)](#)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの「HDMI オーディオ出力」を「TV」に設定してください。[\(図 187 ページ\)](#)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。



セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。

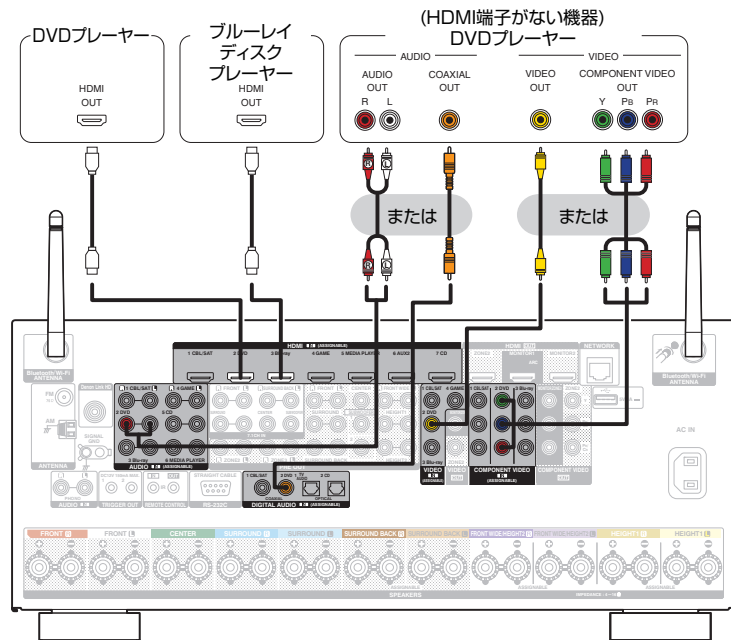
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。

本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。

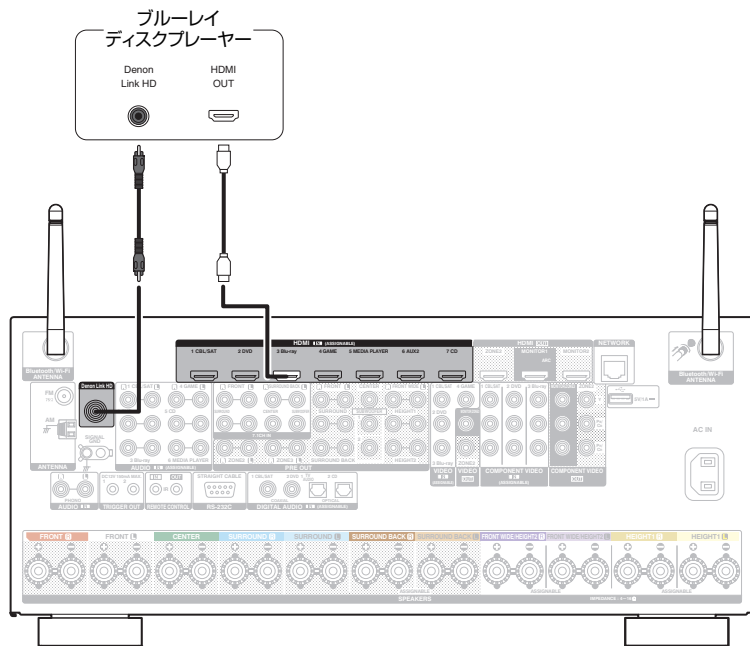


Denon Link HD 対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する場合は、「Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(P.67 ページ)をご覧ください。



Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する

Denon Link HD 機能に対応しているプレーヤーを Denon Link HD で接続すると、HDMI 端子のみで接続するよりも高品質な再生ができます。



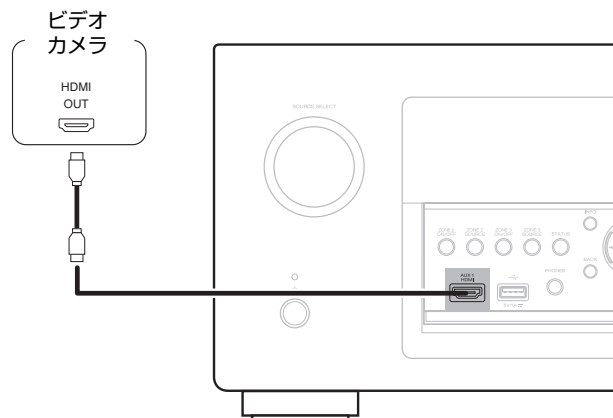
- この接続をおこなう場合は、HDMI と Denon Link HD 両方の接続が必要です。
- メニューの“入力モード”を“オート”または“HDMI”に設定してください。(201 ページ)



ビデオカメラやゲーム機などを接続する

ビデオカメラの接続例です。

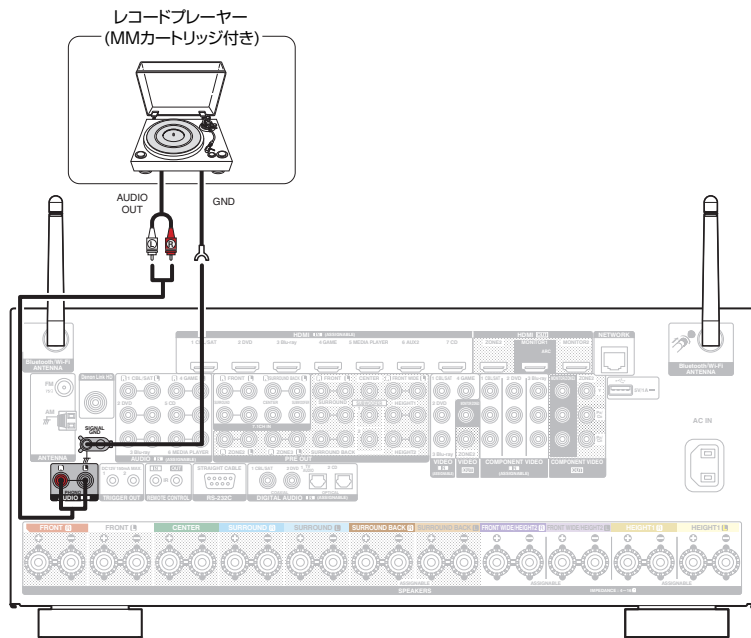
この端子には、ビデオカメラやゲーム機などの再生機器を接続します。



レコードプレーヤーを接続する

本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りの MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。

本機の入力ソースを“Phono”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



ご注意

本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。



マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する

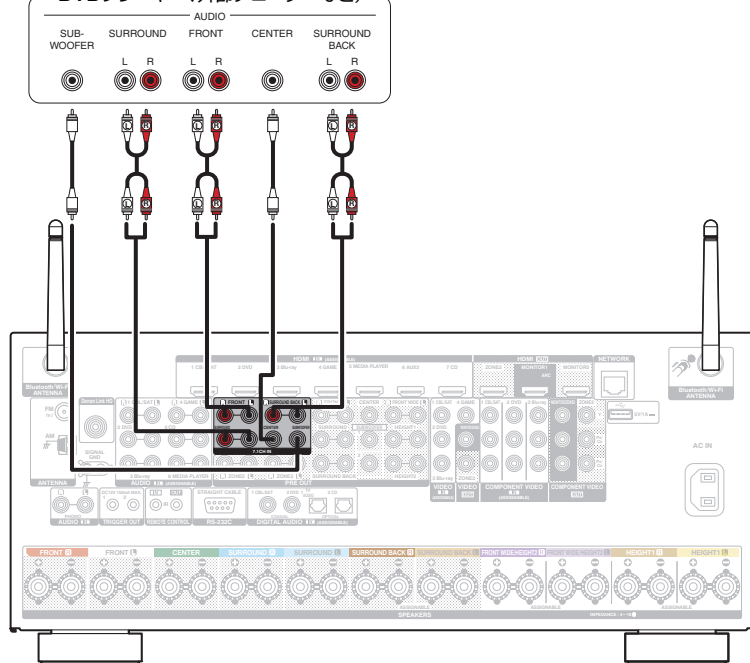
7.1CH IN 端子にマルチチャンネル出力端子付きの機器を接続すると、音楽や動画を楽しむことができます。

7.1CH IN 端子に入力したアナログ信号を再生する場合は、「入力モード」を「7.1CH IN」に設定してください。(P.201 ページ)

マルチチャンネル出力端子付きの機器

(ブルーレイディスクプレーヤー、

DVDプレーヤー、外部デコーダーなど)



映像信号は、ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続できます。

「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(P.66 ページ)

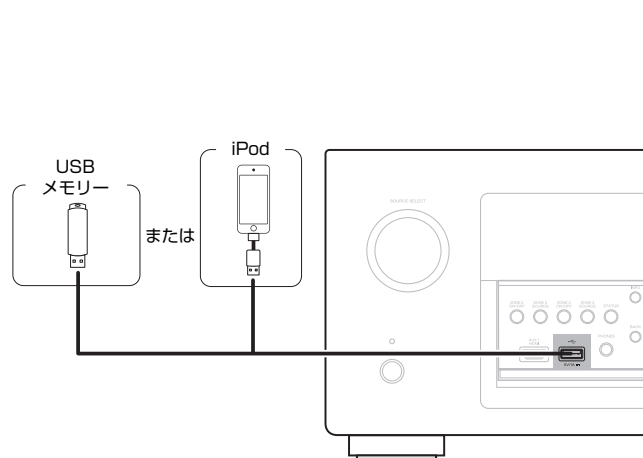


USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

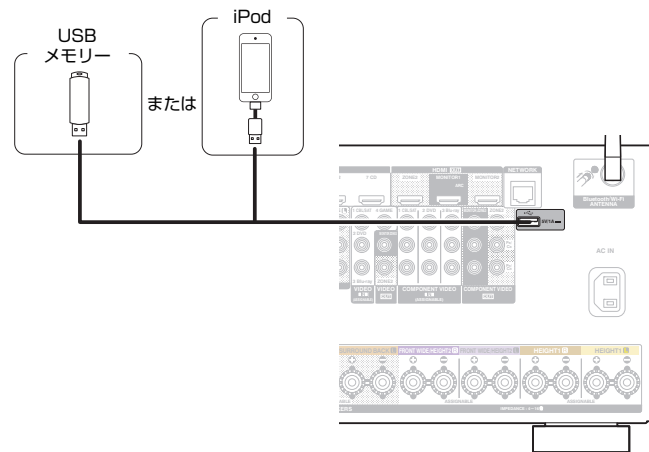
本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルを使用してください。

操作のしかたは、「iPod を再生する」(P.84 ページ)または「USB メモリーを再生する」(P.89 ページ)をご覧ください。

【フロントパネル】



【リアパネル】



すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。



ご注意

- フロントパネルとリアパネルの USB 端子を同時に使用することはできません。ご使用になる端子を選んで接続してください。(P.87 ページ)
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。



■ 対応している iPod/iPhone

• iPod classic



iPod classic
80GB



iPod classic
160GB (2007)



iPod classic
160GB (2009)

• iPod nano



iPod nano
3rd generation
(video)
4GB 8GB



iPod nano
4th generation (video)
8GB 16GB



iPod nano
5th generation (video camera)
8GB 16GB



iPod nano
6th generation
8GB 16GB



iPod nano
7th generation
16GB

• iPod touch



iPod touch
2nd generation
8GB 16GB 32GB



iPod touch
3rd generation
32GB 64GB



iPod touch
4th generation
8GB 16GB 32GB 64GB



iPod touch
5th generation
16GB 32GB 64GB

• iPhone



iPhone 3G
8GB 16GB



iPhone 3GS
8GB 16GB 32GB



iPhone 4
8GB 16GB 32GB



iPhone 4S
16GB 32GB 64GB



iPhone 5
iPhone 5c iPhone 5s
16GB 32GB 64GB



FM アンテナや AM ループアンテナを接続する

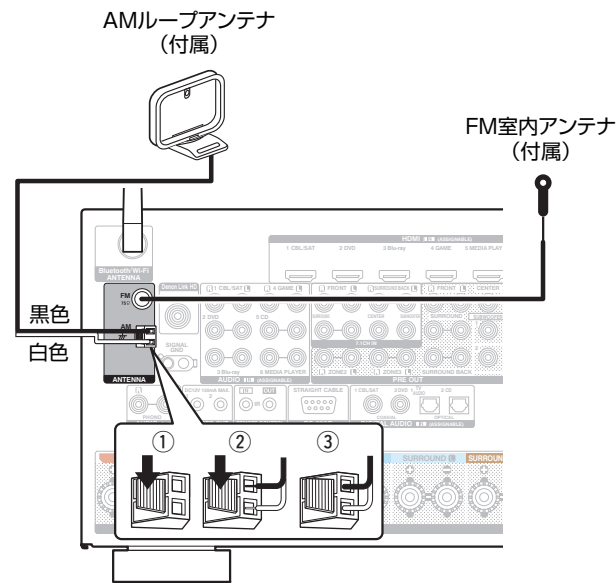
アンテナを接続したあとに放送を受信し、最も雑音の少ない位置にテープなどでアンテナ線を固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.98 ページ))



放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

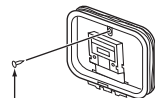
- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

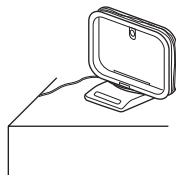


くぎや画びょうなど

置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

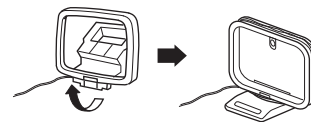
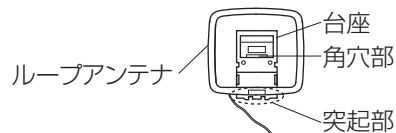
組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。



■ AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

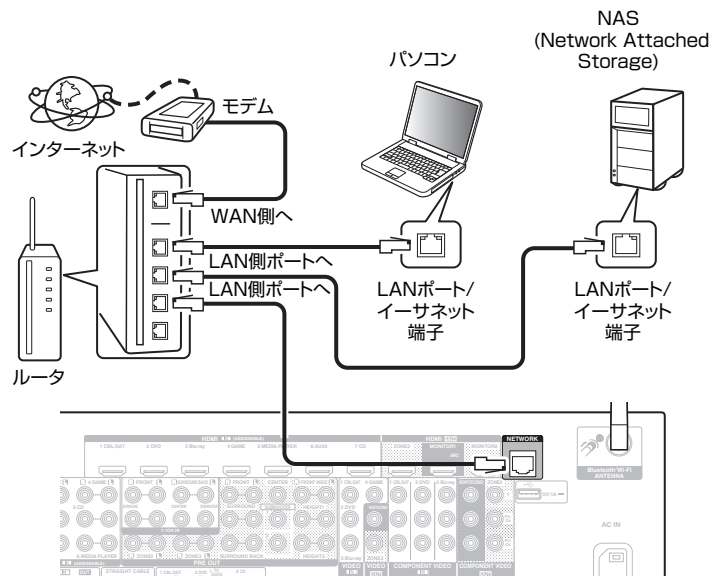
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- Flickr サイト上の写真の閲覧
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

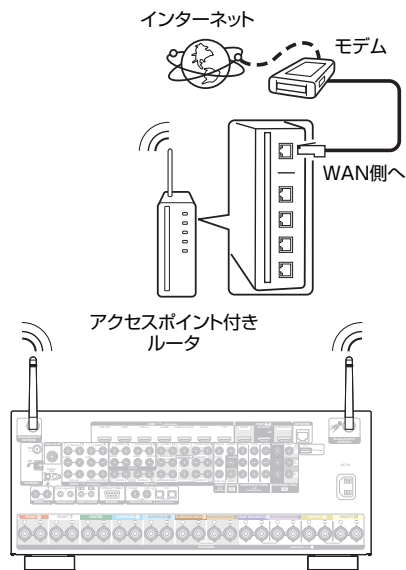
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルータと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルに接続し、アンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルータとの接続方法は、「Wi-Fi 設定」(P.246 ページ)をご覧ください。



- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。
 - DHCP サーバー内蔵
LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
 - 100BASE-TX スイッチ内蔵
複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- WPS (Wi-Fi Protected Setup) 機能に対応したルータを使用すると、簡単に Wi-Fi 接続することができます。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。(P.245 ページ)

ご注意

- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルータ等に LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。

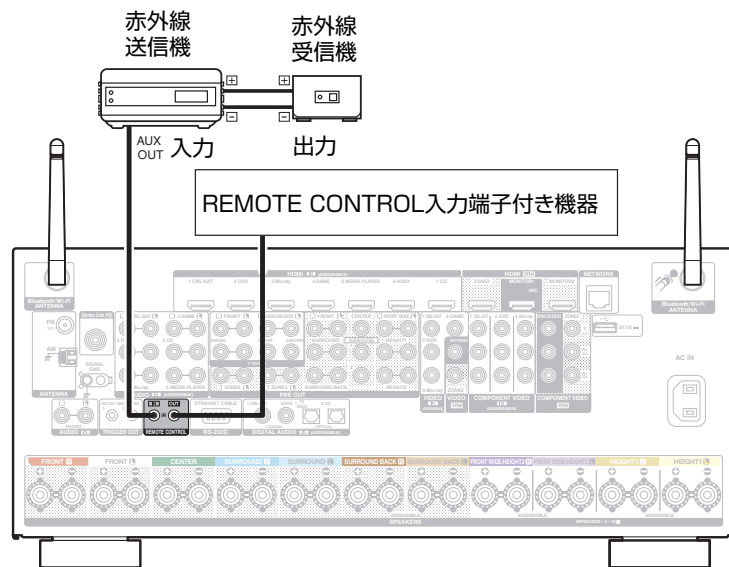


外部のコントロール機器を接続する

リモートコントロール端子

本機をリモコン信号が届かない場所(キャビネットへの設置など)に設置しても、別売りのリモコンレシーバーユニットを本機に接続すれば本機をリモコンで操作することができます。

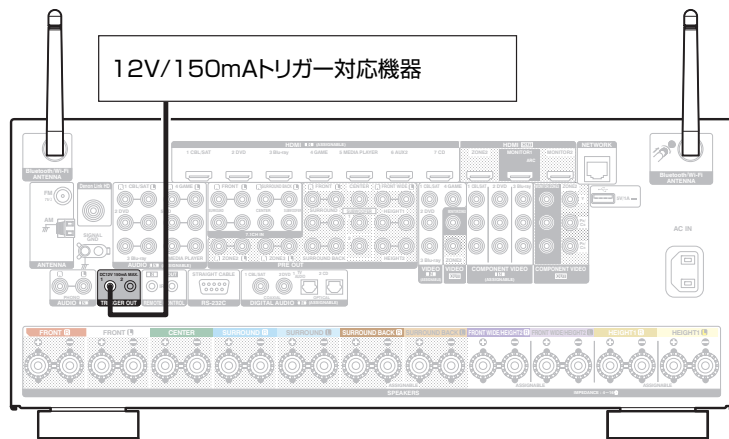
また、ゾーン2およびゾーン3(別の部屋)からリモコンで操作することもできます。



トリガー出力端子

トリガー入力端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができます。

本機のトリガー出力端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。



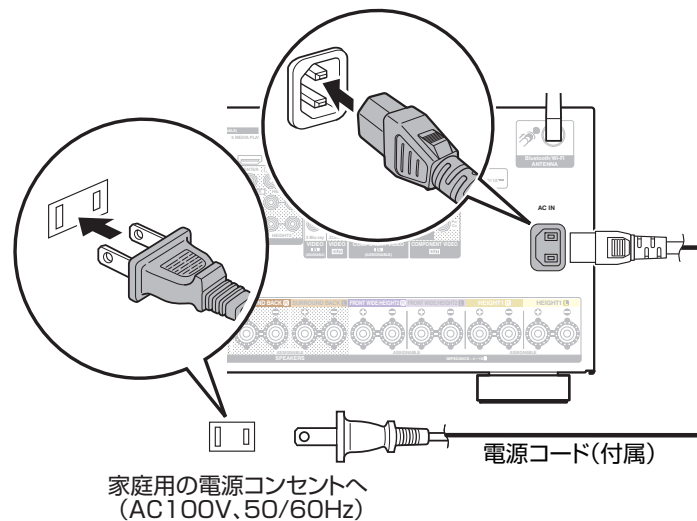
ご注意

- トリガー出力端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、トリガー出力端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってからトリガー出力端子の接続を外してください。



電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



■ 目次

基本操作

電源を入れる	82
入力ソースを選ぶ	82
音量を調節する	83
一時的に音を消す(ミュートイング)	83
サウンドモードを選ぶ	131

機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する	83
iPod を再生する	84
USB メモリーを再生する	89
Bluetooth 機器の音楽を再生する	94
FM 放送または AM 放送を聴く	97

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く	105
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	109
Flickr サイト上の写真を閲覧する	113
AirPlay 機能	117

便利な機能

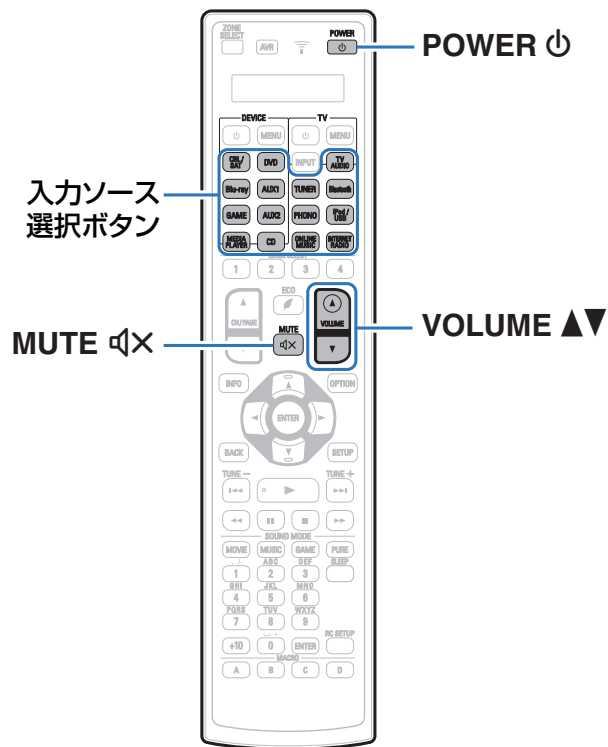
便利な機能	120
HDMI コントロール機能	148
スリープタイマー機能	149
クイックセレクトプラス機能	151

その他の機能

ウェブコントロール機能	154
ゾーン 2/ゾーン 3(別の部屋)での再生	156



基本操作



電源を入れる

1 POWER を押して、電源を入れる。



- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 再生する入力ソース選択ボタンを押す。
入力ソースをダイレクトに選択できます。



本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。



音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュートイング)

1 MUTE を押す。

- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に を表示します。



- メニューの“ミュートインングレベル”で設定したレベルまで音量が減衰します。[\(P.177 ページ\)](#)
- ミュートインングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE を押してください。

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を本機の入力に設定する。

2 POWER を押して、本機の電源を入れる。

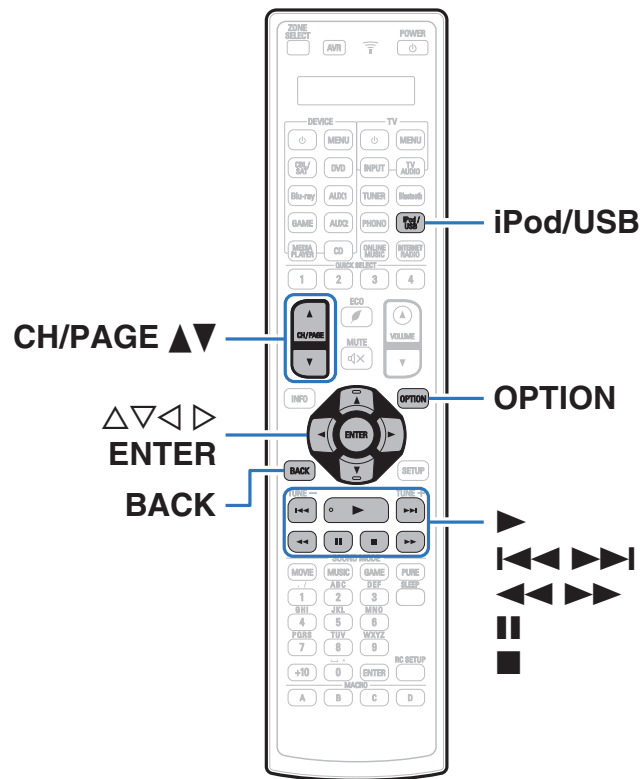
3 DVD または Blu-ray を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする([P.131 ページ](#))



iPod を再生する



- iPod に付属している USB ケーブルを使用して iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。
- 本機で再生できる iPod は、「対応している iPod/iPhone」(P.73 ページ)をご覧ください。
- iPhone、iPod touch、iPad または iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生する場合は「AirPlay 機能」(P.117 ページ)をご覧ください。



iPod の音楽を聴く

1 iPod を本機の USB 端子に接続する。(参照 71 ページ)

2 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。

- 使用する USB 端子を選択してください。(参照 87 ページ)
お買い上げ時の設定ではフロントパネル側の USB 端子が使用できます。
- 本体のディスプレイに“Browse from iPod”を表示します。
- テレビの画面には何も表示しません。

3 iPod の画面を見ながら iPod 本体を操作して、音楽を再生する。



- “iPod ブラウズモード”には、“From iPod”と“On-Screen”があります。お買い上げ時の設定は、iPod の画面を見ながら iPod 本体を操作する“From iPod”です。
- iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作する“On-Screen”に変更したい場合は、「iPod ブラウズモードの設定」(参照 86 ページ)をご覧ください。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

■ オプションメニューでできる操作

“iPod ブラウズモード” (参照 86 ページ) の設定が “From iPod” のときに操作できます。

- 「使用する USB 端子を設定する (USB 端子の選択)」 (参照 87 ページ)
- 「iPod ブラウズモードの設定」 (参照 86 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する (ダイアログエンハンサー)」 (参照 125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する (チャンネルレベル調節)」 (参照 126 ページ)
- 「トーンを調節する (トーンコントロール)」 (参照 127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す (ビデオセレクト)」 (参照 128 ページ)
- 「視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード)」 (参照 129 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (All Zone Stereo)」 (参照 130 ページ)



iPod ブラウズモードの設定

iPod の各種リストや再生中の表示をテレビ画面に表示します。
ここでは、“On-Screen” で iPod 内の曲を再生するまでの手順を説明します。

- 1 入力ソースが“iPod/USB”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

- 2 “iPod ブラウズモード”を選び、ENTER を押す。
“iPod ブラウズモード”画面を表示します。

- 3 ◀▶を押して“On-Screen”を選び、ENTER を押す。
 - “From iPod”と“On-Screen”の操作一覧は次のとおりです。

iPod ブラウズモード		From iPod	On-Screen
再生できる ファイル	音楽ファイル	✓	✓
	映像ファイル	*	
操作できる ボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod	✓	

* 音声のみ再生します。

- 4 Δ▽▶を押して再生したいファイルを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。

操作ボタン	機能
▶	再生
	一時停止
■	停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀◀▶▶	(長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し)停止
Δ▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
CH/PAGE ▲▼ リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動	

- 操作ボタンの動作が異なる場合があります。



- “iPod ブラウズモード”を“On-Screen”に設定した状態で再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。
- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。



■ オプションメニューでできる操作

“iPod ブラウズモード” の設定が “On-Screen” のときに操作できます。(🔍 86 ページ)

- 「使用する USB 端子を設定する(USB 端子の選択)」(🔍 87 ページ)
- 「iPod ブラウズモードの設定」(🔍 86 ページ)
- 「リピート再生をする」(🔍 88 ページ)
- 「ランダム再生をする」(🔍 88 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(🔍 125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(🔍 126 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(🔍 127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(🔍 128 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(🔍 130 ページ)

使用する USB 端子を設定する(USB 端子の選択)

□ 対応する入力ソース：
iPod / USB

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “USB 端子の選択” を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** で使用する USB 端子を選ぶ。

フロント (お買い上げ時の設定)：	フロントパネル側の USB 端子を使用します。
リア：	リアパネル側の USB 端子を使用します。
- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



リピート再生をする

- 1 “iPod ブラウズモード” を “On-Screen” に設定しているときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して “リピート” を選び、ENTER を押す。
- 3 $\triangleleft \triangleright$ を押してリピート再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	リピート再生モードを解除します。
1 曲:	再生中の曲をリピート再生します。
すべて:	現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。
- 4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。



“リピート” の設定は、入力ソースごとに記憶します。

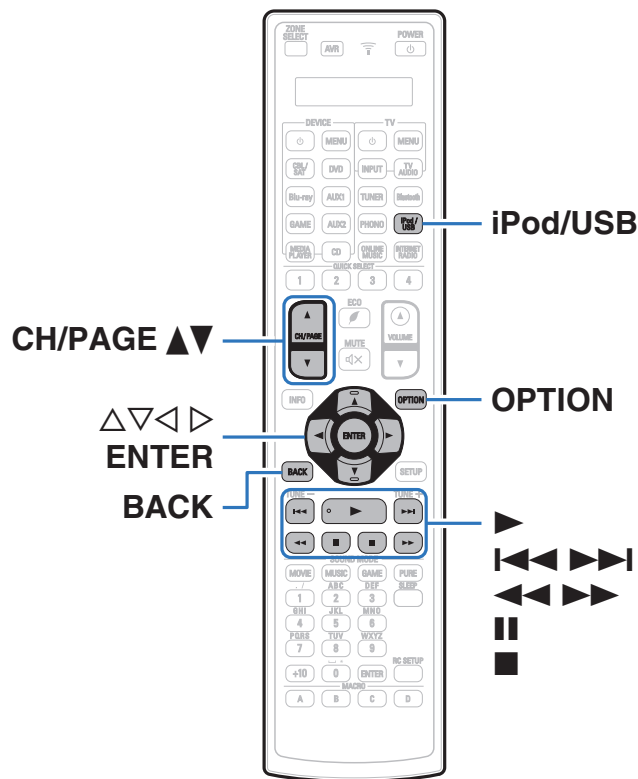
ランダム再生をする

- 1 “iPod ブラウズモード” を “On-Screen” に設定しているときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して “ランダム” を選び、ENTER を押す。
- 3 $\triangleleft \triangleright$ を押して、ランダム再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	ランダム再生モードを解除します。
オン:	現在再生中のフォルダ内にあるすべての曲をランダムに再生します。
- 4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。
 - ランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにフォルダ内の曲からランダムに再生する曲を選択します。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。
 - “ランダム” の設定は、入力ソースごとに記憶します。



USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生できます。
- 本機は、マストストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声/画像フォーマットの種類は、次のとおりです。
詳しくは、“USB メモリーの再生について” をご覧ください。
(P.311 ページ)

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- ALAC
- AIFF
- DSD
- JPEG



USB メモリーに保存されているファイルを再生する

- 1 USB メモリーを本機の USB 端子に接続する。
([P.71](#) ページ)
- 2 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。



使用する USB 端子を選択してください。
([P.87](#) ページ) お買い上げ時の設定ではフロントパネル側の USB 端子が使用できます。

- 3 $\Delta \nabla \triangleright$ を押して再生したいファイルを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。

操作ボタン	機能
$\blacktriangleright$	再生
$\parallel$	一時停止
$\blacksquare$	停止
$\ll \ll \gg \gg$	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
$\ll \gg$	(長押し) 早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し) 停止
$\Delta \nabla$	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し) 早戻し/早送り
CH/PAGE $\Delta \nabla$	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。
- 本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像 (JPEG) ファイルを再生します。

ご注意

USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。



■ オプションメニューでできる操作

- 「使用する USB 端子を設定する(USB 端子の選択)」( [87 ページ](#))
- 「リピート再生をする」( [121 ページ](#))
- 「ランダム再生をする」( [121 ページ](#))
- 「キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)」( [123 ページ](#))
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)」( [124 ページ](#))
- 「スライドショーの再生間隔を設定する」( [125 ページ](#))
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」( [125 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( [126 ページ](#))
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( [127 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( [128 ページ](#))
- 「視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)」( [129 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」( [130 ページ](#))



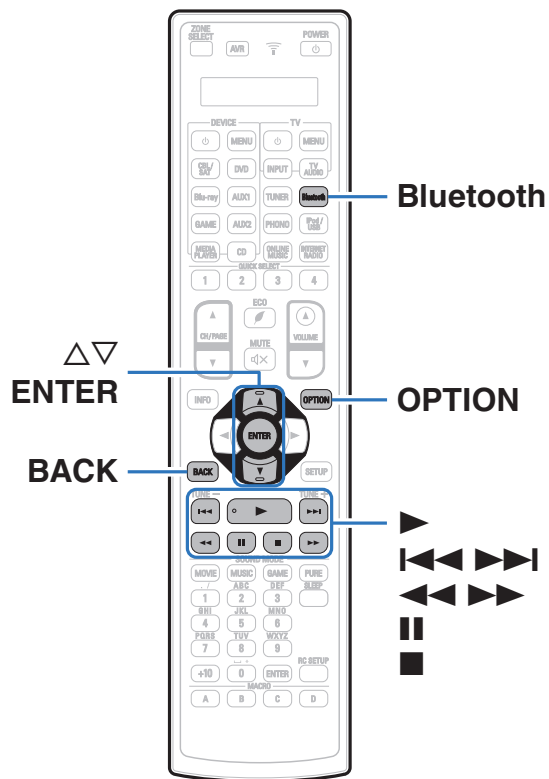
Bluetooth 機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。

約 10m の範囲内で通信できます。

ご注意

Bluetooth 機器側の音楽を再生するには、Bluetooth 機器側が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。



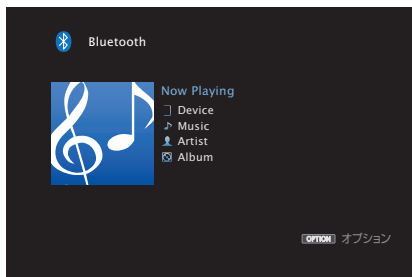
Bluetooth 機器とペアリングする

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。
一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 再生の準備をする。

- ① 付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを、リアパネルの Bluetooth/Wi-Fi ANTENNA 端子に接続する。
([P.24](#) ページ)
- ② POWER  を押して、本機の電源を入れる。

2 Bluetooth を押して、入力ソースを“Bluetooth”に切り替える。



はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。

- 本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。
また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離(1m 程度)でおこなってください。



- 2 台目の Bluetooth 機器と接続する場合には、Bluetooth を約 3 秒間長押しするか、オプションメニューから“ペアリングモード”を選択してペアリングしてください。(P.96 ページ)
- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- 本機のディスプレイに数値が表示された場合は、Bluetooth 機器の画面に表示された数値と同じ値であることを確認し、本機と Bluetooth 機器ともに“ペアリング”を選択してください。
- Bluetooth 機器側の画面でパスワードを要求された場合は、“0000”を入力してください。



Bluetooth 機器の音楽を再生する

音楽を再生する前に、次のことを確認してください。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっていること
- ペ어링が完了していること

1 Bluetooth を押して、入力ソースを“Bluetooth”に切り替える。

本機が最後に接続した Bluetooth 機器に自動的に接続します。

2 Bluetooth 機器の再生をはじめる。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。

操作ボタン	機能
▶	再生
	一時停止
■	停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀◀▶▶	(長押し) 早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し) 停止
△▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し) 早戻し/早送り



- 本機の電源がオンの状態のとき、Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に入力ソースを“Bluetooth”に切り替えます。
- 本機の“IP コントロール”設定を“常時オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと自動的に本機の電源をオンします。(P.249 ページ)
- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。
- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は“(ピリオド)”に置き換えて表示します。



ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器側で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「ペアリングモードでペアリングする」( 96 ページ)
- 「リピート再生をする」( 121 ページ)
- 「ランダム再生をする」( 121 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」( 125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( 126 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( 127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( 128 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」( 130 ページ)



ペアリングモードでペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

1 入力ソースが“Bluetooth”のときにOPTIONを押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽を押して“ペアリングモード”を選び、ENTERを押す。

ペアリングモードになります。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。

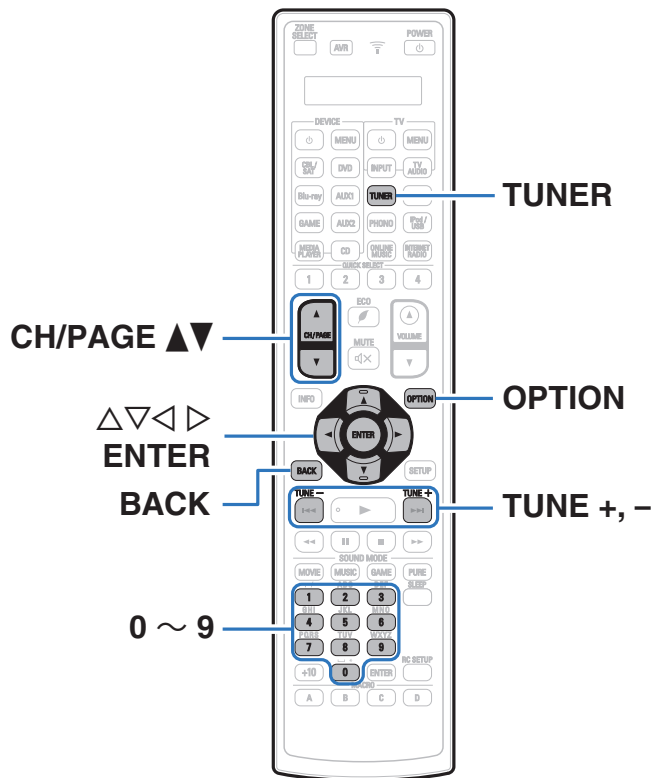


- 本機のディスプレイに数値が表示された場合は、Bluetooth 機器の画面に表示された数値と同じ値であることを確認し、本機と Bluetooth 機器ともに“ペアリング”を選択してください。
- Bluetooth 機器側の画面でパスワードを要求された場合は、“0000”を入力してください。



FM 放送または AM 放送を聴く

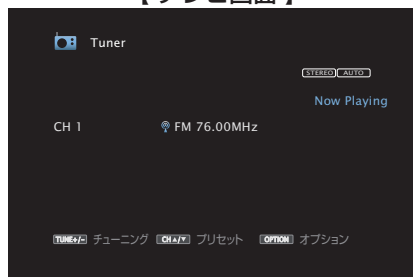
本機に内蔵のチューナーを使用して、FM 放送および AM 放送を聴くことができます。
事前に必ず FM アンテナおよび AM ループアンテナを本機に接続してください。



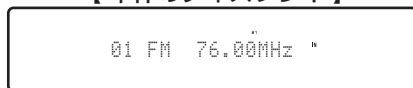
FM 放送または AM 放送を聴く

- 1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(P.74 ページ))
- 2 TUNER を押して、入力ソースを “Tuner” に切り替える。

【 テレビ画面 】



【 本体のディスプレイ 】



- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 ▲▼ を押して “FM/AM” を選び、ENTER を押す。
受信バンド入力画面を表示します。

- 5 ◀▶ を押して “FM” または “AM” を選び、ENTER を押す。

FM: FM 放送を聴くときに選択します。

AM: AM 放送を聴くときに選択します。

- 6 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。
受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。



FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する “オート” モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する “マニュアル” モードがあります。お買い上げ時の設定は “オート” モードです。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する “ダイレクトチューニング” モードがあります。

“オート” モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は “マニュアル” モードまたは “ダイレクトチューニング” モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, -	放送局の選択(アップ/ダウン)
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
0~9	プリセットチャンネルの選択/ ダイレクト選局



■ オプションメニューでできる操作

- 「周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)」( 99 ページ)
- 「受信モードを変更する(チューニングモード)」( 100 ページ)
- 「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)」( 100 ページ)
- 「聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)」( 101 ページ)
- 「プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)」( 102 ページ)
- 「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」( 103 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」( 125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( 126 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( 127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( 128 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」( 130 ページ)

周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

- 1 入力ソースが“Tuner” のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ ∇ を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。
周波数入力画面を表示します。
- 3 Δ ∇ または 0~9 を押して数字を選び、 $\triangleright$ を押す。
 - ・ $\triangleleft$ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。
- 4 手順 3 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。
- 5 入力が完了したら、ENTER を押す。
放送局を受信します。



受信モードを変更する(チューニングモード)

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。
- 3 $\triangleleft\rangle$ を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で1ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)

自動で最大 56 局までプリセットできます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“オートプリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。
- 3 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。
 - プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。



プリセットメモリーは上書きされます。



聴いている放送局をプリセットする (プリセットメモリー)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- 1 プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.98 ページ))
- 2 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 3 **△▽** を押して“プリセットメモリー”を選び、**ENTER** を押す。
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。
- 4 **△▽** または **0~9** を押してプリセットしたいチャンネルを選び、**ENTER** を押す。
現在受信している放送局をプリセットします。
 - ・続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1~4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1~8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9~16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17~24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25~32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33~40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41~48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49~56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

- 1 **CH/PAGE ▲▼** または **0~9** を押して、プリセットした放送局を選ぶ。



プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。

8 文字まで入力できます。

- 1 入力ソースが“Tuner” のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 △▽ を押して“プリセットネーム” を選び、ENTER を押す。
プリセットネーム画面を表示します。
- 3 ◀▶ を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。
- 4 △▽ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。

- 5 △▽ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。
プリセットネームの編集画面を表示します。
 - “初期化” を選択すると、周波数表示に戻ります。
- 6 文字を入力して“OK” を押す。
 - 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.168 ページ)をご覧ください。
- 7 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER
を押す。
“プリセットスキップ”画面を表示します。

3 □ スキップしたい放送局をグループごとに設定する
とき
① ◀▶を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
② △を押して“No.*-* をスキップ設定にします”を選び、ENTER を押す。
選択したグループ“*-*”に含まれるすべての放送局をスキップします。
(*は選択しているグループ番号です。)

□ スキップしたい放送局ごとに設定するとき

- ① ◀▶を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ② △▽を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。
- ③ ◀▶を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局をスキップします。

4 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットスキップを解除する

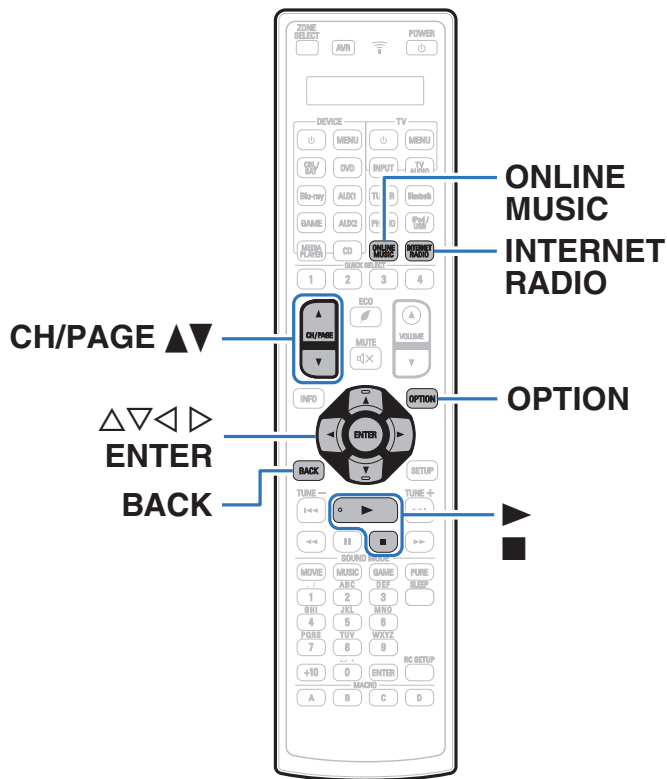
- 1 “プリセットスキップ” 画面を表示中、◀▶を押してスキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。
- 2 △▽を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。
- 3 ◀▶を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

プリセットスキップの解除をグループごとにおこなうことはできません。



インターネットラジオを聴く



- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、vTuner ラジオ局のデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオ局の再生について」(P.314 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- MPEG-4 AAC



インターネットラジオを聴く

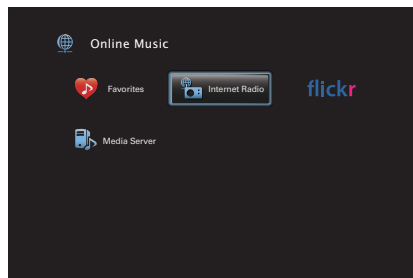
1 再生の準備をする。

- ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れます。(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」([P.76](#) ページ))

2 ONLINE MUSIC を押す。

- INTERNET RADIO を押すと、入力ソースの“Internet Radio”をダイレクトに選択できます。

3 △▽◀▶を押して“Internet Radio”を選び、ENTERを押す。



4 △▽を押して再生したいラジオ局の検索方法を選び、ENTERを押す。

国名：	各地域を選択します。 一般的なインターネットラジオ局を表示します。
ラジオ局の検索：	本機で受信できるすべてのインターネットラジオ局を表示します。
Podcasts の検索：	本機で受信できるポッドキャスト内のインターネットラジオ局を表示します。
お奨めのラジオ局：	おすすめのインターネットラジオ局を表示します。
radiodenon.com：	vTuner でお気に入り登録しているインターネットラジオ局を表示します。vTuner でお気に入り登録のしかたは、「vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する」(P.108 ページ)をご覧ください。
最近再生したラジオ局：	最近再生したインターネットラジオ局を表示します。最大 20 局まで“最近再生したラジオ局”へ自動的に記憶します。
文字列による検索：	キーワード検索したインターネットラジオ局を表示します。文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.168 ページ)をご覧ください。



- 5** **△▽▶を押してラジオ局を選び、ENTER を押す。**
バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

操作ボタン	機能
▶	再生
■	停止
ENTER	(長押し)停止
CH/PAGE▲▼ リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動	



- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。
- ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。

ご注意

ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

前回再生していたインターネットラジオ局を再生する

1 INTERNET RADIO を押す。

入力ソースを“Internet Radio”に切り替えると、前回再生していたインターネットラジオ局を再生します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)」
(123 ページ)
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)」
(124 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(126 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(128 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(130 ページ)



vTunerでインターネットラジオ局をお気に入り登録する

世界中にはたくさんのインターネットラジオ局があり、本機はそれらを受信できます。しかし、ラジオ局が多すぎるために聴きたい放送を探すのは大変です。そこで本機専用のインターネットラジオ局検索ウェブサイト vTuner を使用してください。お手持ちのパソコンを使用して、インターネットラジオ局の検索と登録ができます。本機では vTuner に登録したラジオ局を再生できます。

- 1 本機の MAC アドレスを確認する。
(「情報」(P.245 ページ))
 - MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要です。
- 2 お手持ちのパソコンから vTuner のサイト
(<http://www.radiodenon.com>)にアクセスする。
- 3 本機の MAC アドレスを入力し、“Go” をクリックする。

4 パソコンの E-mail アドレスと任意のパスワードを入力する。

5 お好みに検索条件(ジャンル/地域/言語など)を選ぶ。
• キーワードを入力し、聴きたい曲を探すこともできます。

6 表示されたリストからお好みのラジオ局を選び、お気に入り登録アイコンをクリックする。

7 お気に入りグループ名を入力し、“Go” をクリックする。

選択されたラジオ局が入ったお気に入りグループを新たに作成します。

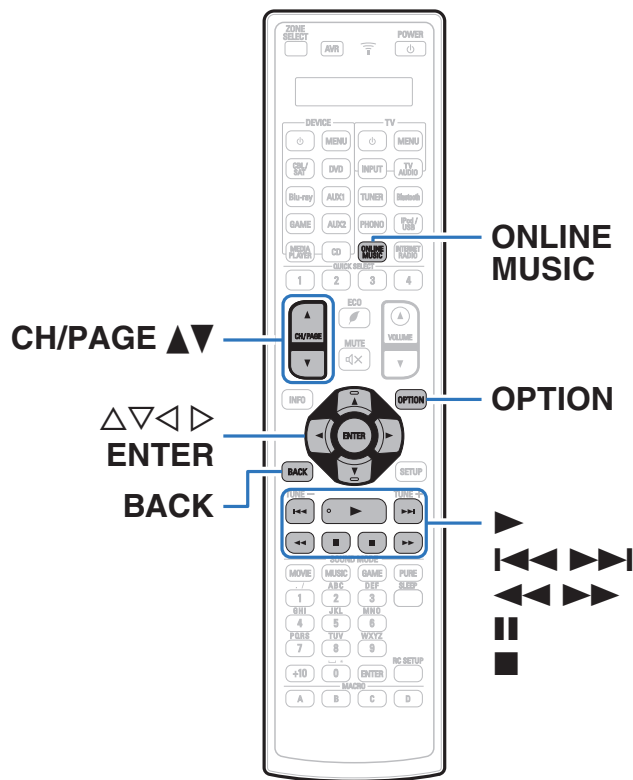
- vTuner のお気に入り登録したインターネットラジオ局は、本機の “radiodenon.com” から再生できます。
(P.106 ページ)



vTuner のリストにないラジオ局を追加することもできます。



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ(NAS)に保存されている音楽ファイルやプレイリスト(m3u, wpl)を再生できます。
- 本機のネットワークオーディオ再生機能では、次の技術を利用してサーバーに接続します。
Windows Media Player Network Sharing Service
- 本機で再生できる音声/画像フォーマットの種類は、次のとおりです。
詳しくは、「パソコンやNASに保存されているファイルの再生について」(P.313 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- ALAC
- AIFF
- DSD
- JPEG



メディアの共有設定をおこなう

パソコンや NAS に保存されている音楽ファイルをネットワーク上で共有するための設定をおこないます。
メディアサーバーを使用する場合は、あらかじめ必ずこの設定をおこなってください。

■ Windows Media Player 12(Windows 7/ Windows 8)を使用する場合

- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 “ストリーム” から “その他のストリーミング オプション...” を選ぶ。
- 3 “Denon AVR-X7200W” のドロップダウンリストで “許可” を選ぶ。
- 4 “この PC とリモート接続のメディアプログラム...” のドロップダウンリストで “許可” を選ぶ。
- 5 画面に従い、設定を終了する。

■ Windows Media Player 11 を使用する場合

- 1 パソコンで Windows Media Player 11 を起動する。
- 2 “ライブラリ” から “メディアの共有” を選ぶ。
- 3 “メディアを共有する” をチェックして “Denon AVR-X7200W” を選び、“許可” をクリックする。
- 4 手順 3 と同様に、メディアコントローラーとして使用したい機器(他のパソコンやモバイル端末)のアイコンを選び、“許可” をクリックする。
- 5 “OK” をクリックして終了する。

■ NAS に保存したメディアを共有する

本機およびメディアコントローラーとして使用したい機器(他のパソコンやモバイル端末)が NAS にアクセスできるように NAS の設定を変更してください。詳しくは、ご使用の NAS の取扱説明書をご覧ください。



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

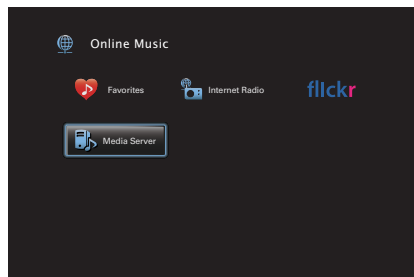
音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

1 再生の準備をする。

- ① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる。
(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」(P.76 ページ))
- ② パソコンの準備をする。(P. パソコンの取扱説明書)

2 ONLINE MUSIC を押す。

3 △▽◀▶を押して“Media Server”を選び、ENTERを押す。



4 △▽を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTERを押す。

5 ▼△▶を押してファイルを選び、ENTERを押す。 バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

操作ボタン	機能
▶	再生
	一時停止
■	停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀◀▶▶	(長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し)停止
△▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動





- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player(バージョン 11 以上)を使用することで表示できます。
- Windows Media Player(バージョン 11 以上)などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。
- 本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像(JPEG)ファイルを再生します。

ご注意

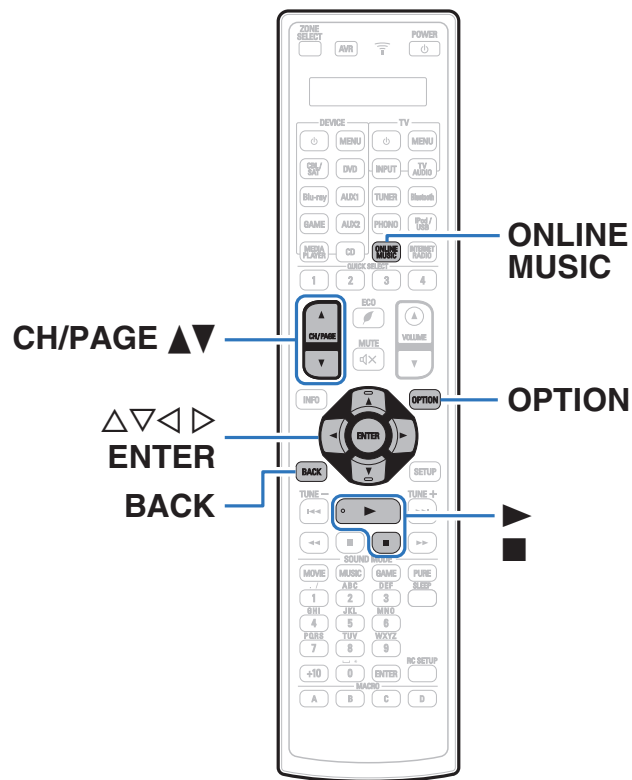
- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声途切れることがあります。この場合は、有線 LAN で接続してください。
- 静止画像(JPEG)ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「リピート再生をする」(121 ページ)
- 「ランダム再生をする」(121 ページ)
- 「キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)」(123 ページ)
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)」(124 ページ)
- 「スライドショーの再生間隔を設定する」(125 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(125 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(126 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(127 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(128 ページ)
- 「視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)」(129 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(130 ページ)



Flickr サイト上の写真を閲覧する



- Flickr はオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧できます。アカウントは必要ありません。
自分で撮影した写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにはアカウントが必要です。
詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
<http://www.flickr.com/>
- 任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧できます。



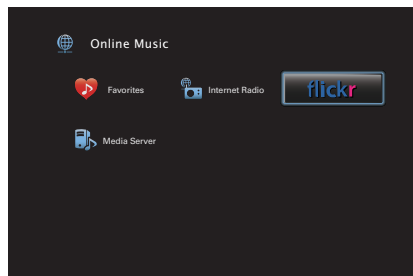
任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

1 再生の準備をする。

- ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れます。(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」([167](#) ページ))

2 ONLINE MUSIC を押す。

3 △▽◀▶を押して“Flickr”を選び、ENTERを押す。



4 △▽を押して“Add Flickr Contact”を選び、ENTERを押す。

5 “Contact”に追加したいscreen name(スクリーン・ネーム:閲覧したいユーザー名)を入力する。

- 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」([168](#) ページ)をご覧ください。

6 “Contact”を入力後、“OK”を押す。

screen name が“Contact”に登録され、Flickr のトップ画面に手順 5 で入力した screen name を表示します。

- 存在しない screen name を入力すると、“入力したコンタクトが見つかりませんでした”を表示します。screen name を確認し、正しく入力してください。

7 △▽を押して“Contact”に追加した screen name を選び、ENTERを押す。



8 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER を押す。

Favorites :	ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。
Photostream :	公開している写真一覧を表示します。
PhotoSets :	フォルダ(写真アルバム)リストを表示します。
Contacts :	ご指定のユーザーがコンタクト登録している screen name を表示します。
Remove this Contact :	ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。
Add this Contact :	ご指定のユーザーをコンタクトに追加します。

9 △▽▷ を押して写真を選び、ENTER を押す。

選択した写真を表示します。

操作ボタン	機能
▶	再生
■	停止
ENTER	再生 (長押し)停止
△ ▽	前の写真を表示/次の写真を表示
CH/PAGE ▲ ▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 △▽を押して“All Content”を選び、ENTERを押す。

2 △▽を押してフォルダを選び、ENTERを押す。

Interestingness : コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。

Recent : 最近投稿された写真を表示します。

Search by text : キーワードで写真を検索します。

3 △▽▷を押して写真を選び、ENTERを押す。
選択した写真を表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「スライドショーの再生間隔を設定する」( 125 ページ)
- 「視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード)」( 129 ページ)

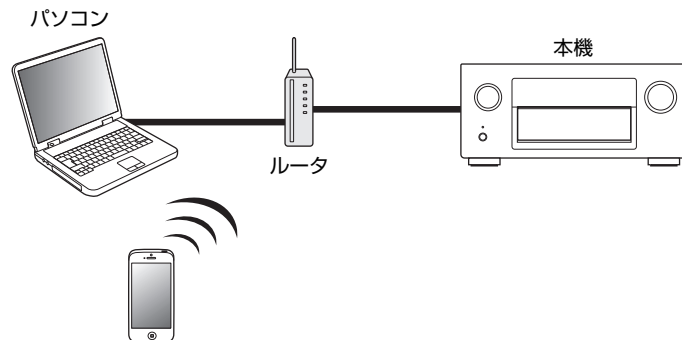


AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



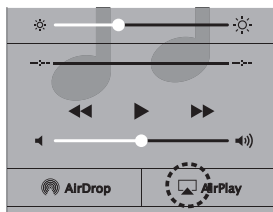
- AirPlay の操作中は、メニュー画面に  を表示します。
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に “Online Music” に切り替わります。
- 本機の $\triangleleft$ を押すか他の入力ソースに切り替えと、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認ができます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の “ヘルプ” をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。



iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

- 1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
 - 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。
- 2 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。
iPhone、iPod touch または iPad の画面に  を表示します。
- 3 AirPlay アイコン  をタップする。



- 4 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

iTunes の曲を本機で再生する

- 1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes 10 以降をインストールする。
- 2 本機の電源を入れる。
本機の“IP コントロール”設定を“常時オン”にしてください。[\(p.249 ページ\)](#)

ご注意
メニューの“IP コントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- 3 iTunes を起動し、AirPlay アイコン  をクリックして、本機を選ぶ。



- 4 iTunes で曲を選び、再生する。
本機で再生をはじめます。



複数のスピーカー(機器)を選ぶ

ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生できます。

- 1 AirPlay アイコン  をクリックして、“複数の”を選ぶ。
- 2 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

ご注意

AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。
再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

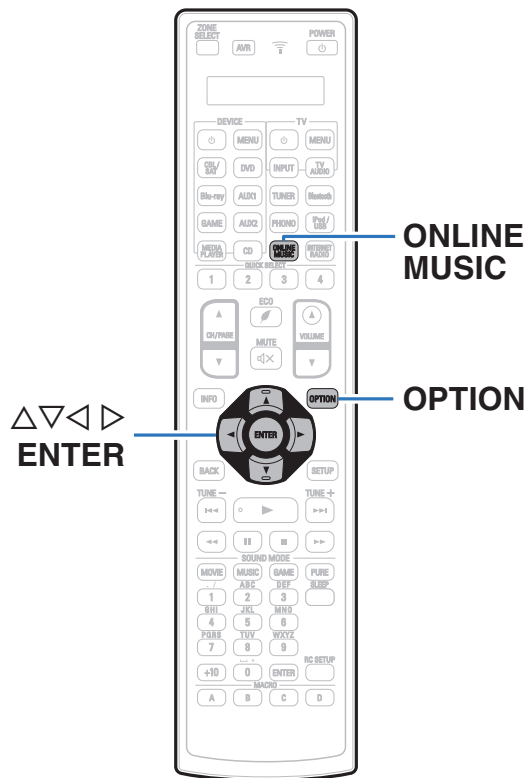
本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

- 1 iTunes のメニューの“編集” - “設定”を選ぶ。
- 2 iTunes の設定のウィンドウで“デバイス”を選ぶ。
- 3 “リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”にチェックを入れ、“OK”をクリックする。



便利な機能

ここでは、各入力ソースで可以使用の便利な機能の操作方法を説明します。



リピート再生をする

□ 対応する入力ソース:

USB / Media Server / Bluetooth

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“リピート”を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、リピート再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	リピート再生モードを解除します。
1 曲:	再生中の曲をリピート再生します。
すべて:	現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



- Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルのリピート設定に対応していない場合は、設定できません。
- “リピート”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

ランダム再生をする

□ 対応する入力ソース:

USB / Media Server / Bluetooth

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“ランダム”を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、ランダム再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	ランダム再生モードを解除します。
オン:	現在再生中のフォルダ内にあるすべての曲をランダムに再生します。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



- ランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにフォルダ内の曲からランダムに再生する曲を選択します。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。
- Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルのランダム設定に対応していない場合は、設定できません。
- “ランダム”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



お気に入りに登録する

お気に入りのコンテンツは、合計 100 件まで登録できます。

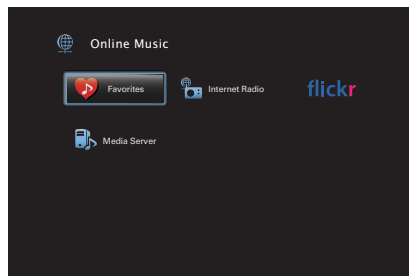
□ 対応する入力ソース:

Internet Radio / Media Server

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “お気に入りに登録” を選び、**ENTER** を押す。
“お気に入りに登録しました” を表示し、再生中のコンテンツをお気に入りに登録します。
 - 登録が完了すると再生画面に戻ります。

“お気に入りに登録” に登録したコンテンツを再生する

- 1 **ONLINE MUSIC** を押す。
- 2 **△▽◀▶** を押して “Favorites” を選び、**ENTER** を押す。



- 3 **△▽** を押して再生したいコンテンツを選び、**ENTER** を押す。
再生をはじめます。



お気に入りに登録したコンテンツを削除する

- 1 ONLINE MUSIC を押す。
- 2 $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ を押して “Favorites” を選び、ENTER を押す。
- 3 $\Delta \nabla$ を押してお気に入りから削除したいコンテンツを選び、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して “お気に入りから削除” を選び、ENTER を押す。
“お気に入りから削除しました” を表示し、選択したコンテンツをお気に入りから削除します。
・ 削除が完了すると、元の画面に戻ります。

キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)

- 対応する入力ソース：
USB / Internet Radio / Media Server

- 1 リストを表示中に、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して “テキスト検索” を選び、ENTER を押す。
キーボード入力画面を表示します。
- 3 検索したいインターネットラジオ局またはファイルの頭文字を入力して、“OK” を押す。
 - ・ 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.168 ページ)をご覧ください。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して再生したいコンテンツを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。



“テキスト検索” では表示されているリストの中からインターネットラジオ局またはファイルを検索します。

ご注意

リストによっては、テキスト検索できない場合があります。



音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)

□ 対応する入力ソース:USB

- 1 静止画像を再生する。
 - USB メモリーの静止画像を再生する。
( [90 ページ](#))
- 2 音楽ファイルを再生する。
( [90 ページ](#))
- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を押す。
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を表示します。

□ 対応する入力ソース: Internet Radio / Media Server

- 1 静止画像を再生する。
 - メディアサーバー内の静止画像を再生する。
( [109 ページ](#))
 - Flickr の静止画像を再生する。
( [113 ページ](#))
- 2 メディアサーバー内の音楽ファイルを再生するか、インターネットラジオ局を再生する。
( [105、109 ページ](#))
- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を押す。
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を表示します。



スライドショーの再生間隔を設定する

USB メモリーやメディアサーバーに保存された静止画像(JPEG) ファイルおよび Flickr サイト上の写真のスライドショーを再生するときの再生間隔を設定します。

□ 対応する入力ソース:

USB / Media Server / Flickr

- 1 リストを表示中に、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して“スライドショーの再生間隔”を選び、ENTER を押す。
- 3 $\triangleleft \triangleright$ を押して、表示時間を設定する。

オフ:	スライドショーの再生をしません。
5s~60s	スライドショーで再生するときの画像 (お買い上げ時の設定: 5s): 1 枚あたりの表示時間を設定します。

- 4 ENTER を押す。



“スライドショーの再生間隔”の設定は、すべての入力ソースに反映します。

せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)

センターチャンネルの周波数帯域を調節し、映画のせりふや、音楽のボーカルを強調して、聴きやすくします。

- 1 OPTION を押す。
- 2 $\Delta \nabla$ を押して“ダイアログエンハンサー”を選び、ENTER を押す。
- 3 $\triangleleft \triangleright$ を押して、好みの強調効果を選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	せりふやボーカルを強調しません。
弱 / 中 / 強:	せりふやボーカルを強調します。

- 4 ENTER を押す。



- “ダイアログエンハンサー”の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”、“Virtual”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。



入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更することができます。入力ソースごとに設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 $\Delta\nabla$ を押して “チャンネルレベル調節” を選び、ENTER を押す。

チャンネルレベルの調整画面を表示します。

3 $\Delta\nabla$ を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。

4 $\triangleleft\triangleright$ を押して音量を調整する。

-12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- 各チャンネルの調整値を “0.0dB” (お買い上げ時の設定)に戻したい場合は、“リセット” を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節” の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの “HDMI オーディオ出力” の設定が “TV” の場合は設定できません。
([187 ページ](#))



トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“トーンコントロール”を選び、**ENTER** を押す。
トーンコントロール画面を表示します。
- 3 **◀▶** を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。

オン:	低音や高音のトーンを調節できます。
オフ (お買い上げ時の設定):	トーンを調節せずに再生します。

- 4 手順3で“オン”を選び、**▽**を押して調節する音域を選ぶ。

低音: 低音を調節します。

高音: 高音を調節します。

- 5 **◀▶** を押してトーンを調節し、**ENTER** を押す。

-6 dB~+6 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- “トーンコントロール”の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、設定できません。(P.179 ページ)
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“TV”の場合は設定できません。(P.187 ページ)
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。



音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)

本機では音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映すことができます。入力ソースごとに設定できます。

□ 対応する入力ソース:

iPod/USB / CD* / Tuner / Online Music /
Bluetooth / Phono

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれかを割り当てていない場合に設定できます。

1 音声の再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。

3 ◀▶を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	ビデオセレクトモードが無効です。
オン:	ビデオセレクトモードが有効です。

4 手順3で“オン”を選び、▽を押して“ソース選択”を選ぶ。

5 ◀▶を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。



“ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



視聴環境に合わせて画質を調整する (ピクチャーモード)

□ 対応する入力ソース:

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX1 /
AUX2 / Media Player / iPod/USB /
Online Music / CD* / TV Audio*

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれかを割り当てている場合に設定できます。

1 映像の再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽を押して“ピクチャーモード”を選び、ENTER を押す。

3 ◀▶を押して、ピクチャーモードを選ぶ。

オフ:	本機による画質調整をおこないません。
スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を見るのに適したモードです。
ビビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動で設定します。

4 ENTER を押す。



“ピクチャーモード”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (All Zone Stereo)

メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 およびゾーン 3 (別の部屋)でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体で BGM を流したい場合に便利です。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 $\Delta\nabla$ を押して “All Zone Stereo” を選び、ENTER を押す。

3 “スタート” を選び、ENTER を押す。

- ゾーン 2 およびゾーン 3 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、All Zone Stereo モードで再生をはじめます。
- ゾーン 2 またはゾーン 3 を All Zone Stereo に参加させない場合は、ENTER を押してチェックマークを外してから “スタート” を押してください。

■ All Zone Stereo モードを解除する

1 All Zone Stereo モードで再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 $\Delta\nabla$ を押して “All Zone Stereo” を選び、ENTER を押す。

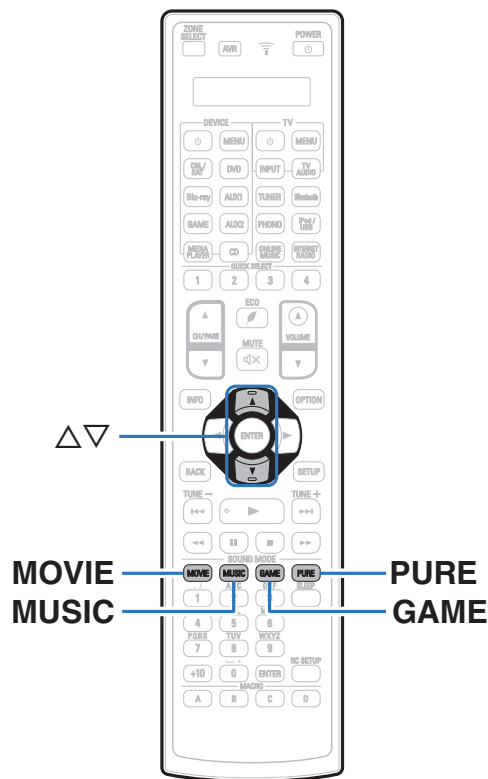
3 “ストップ” を選び、ENTER を押す。



- メインゾーンの電源をオフにしたときも All Zone Stereo モードを解除します。
- All Zone Stereo モード中は、サウンドモードの “Multi Ch Stereo” および “Stereo” のみ選択できます。
- メニューの “HDMI オーディオ出力” の設定が “TV” の場合は、All Zone Stereo モードを使用できません。[\(p.187 ページ\)](#)
- 入力モードが “7.1CH IN” のときは設定できません。



サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクやDVDはもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。



ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。



サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

MOVIE： サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC： サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME： サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

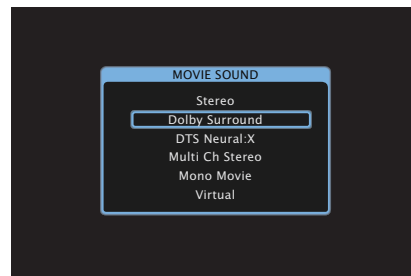


- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードを切り替える

- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードの選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に △▽ を押しても、サウンドモードを選択できません。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最も好みのサウンドモードをお楽しみください。

【例】MOVIE を押したとき



本機では、ディスクに収録されている Dolby や DTS などのフォーマットどおりのサラウンド再生だけでなく、ご使用のスピーカー環境に合わせた拡張タイプのサウンドモードや、Rock Arena、Jazz Club などの雰囲気表現したサラウンド再生をおこなうオリジナルサウンドモードが選択できます。



ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

- 1 PURE を押して、“Direct” を選ぶ。
ダイレクト再生をはじめます。



DSD 信号を再生しているときは“DSD Direct”を表示します。

ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。

本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

- 1 PURE を押して、“Pure Direct” を選ぶ。
ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。



ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。

- ダイアログエンハンサー (125 ページ)
- トーンコントロール (127 ページ)
- リストアラー (176 ページ)
- MultEQ® XT32 (179 ページ)
- Dynamic EQ (179 ページ)
- Dynamic Volume (180 ページ)
- グラフィック EQ (182 ページ)

ご注意

- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モードを選択すると、ディスプレイは約 5 秒後に消灯します。



オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないます。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

1 PURE を押して、“Auto” を選ぶ。

オートサラウンド再生をはじめます。



■ サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Dolby Surround	Dolby Surround Upmixer を使用して、様々なソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。Top Middle などの天井スピーカーを使用すると立体的な音場をお楽しみいただけます。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Atmos*	Dolby Atmos で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して、適切なスピーカーから出力する為、どのようなスピーカー配置でも自然な音像を作り出すことができます。天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。

* このモードは、スピーカー構成が 5.1 チャンネル以下のときは選択できません。



DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
DTS Neo:X	DTS Neo:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースや 5.1/6.1/7.1 チャンネルのサラウンドソースを最大 11.1 チャンネルのサウンドで再生するマトリクスデコード技術です。 音楽再生に適した“Music”モード、映画再生に適した“Cinema”モードおよびゲームに最適な“ゲーム”モードがあります。
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES Dscrt6.1 *	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリット方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES Mtrix6.1 *	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左/サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左/サラウンド右/サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

* メニューの“スピーカー構成” - “S.バック”の設定が“無し”以外のときに選択できます。(235 ページ)



アップデート (DTS:X)

サウンドモードの種類	説 明
DTS:X	DTS:X で収録されたディスクの再生に適したモードです。 DTS:X コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して、適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー配置でも自然な音像を作り出すことができます。ハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Neural:X	DTS Neural:X Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 フロントハイトスピーカーなどのハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。



- DTS:X や DTS Neural:X は、DTS:X 対応ファームウェアへアップデートした後に選択できます。
- DTS:X 対応後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。



PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch In	このモードは、マルチチャンネルの PCM/DSD ソースを再生しているときに選択できます。

Audyssey DSX®サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Audyssey DSX® (A-DSX)*	このモードは、5.1 チャンネルシステムに新しいチャンネル(フロントワイドまたはフロントハイト) を作り出して再生します。フロントワイド、フロントハイトチャンネルの追加により、より立体感や臨場感のあるサラウンド効果を体感できます。

* このモードは、“スピーカー構成” の“フロントハイト” または“フロントワイド” 設定が“無し” 以外のとき、および“センター” の設定が“無し” 以外のときに設定できます。(P.234 ページ)

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
MPEG2 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選択できます。MPEG-2 AAC により高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。



オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。フロントスピーカー(左/右)と同じ音声を、サラウンドスピーカー(左/右)およびサラウンドバックスピーカー(左/右)からそれぞれ再生します。
Wide Screen	大きなスクリーンで映画を見ているような雰囲気を楽しむモードです。
Super Stadium	スポーツプログラムの観戦に適したモードです。
Rock Arena	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Jazz Club	ライブハウスでのコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Classic Concert	クラシックコンサートプログラムの鑑賞に適したモードです。
Mono Movie	モノラルの映画ソースをサラウンドサウンド再生するモードです。モノラル録音ソースを“Mono Movie” モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声は片寄るため、両チャンネルに入力してください。
Video Game	ビデオゲームのサラウンドサウンド再生に適したモードです。
Matrix	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Auto	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby Atmos、DTS、DTS-HD、DTS:X、DTS-ES、PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないます。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。



ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 • フロントスピーカー(左/右)とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
Pure Direct	“Direct” モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 より音質を高めるために次の回路を停止します。 • 本体のディスプレイ表示回路(ディスプレイが消灯します。) • アナログビデオ入出力回路



■ 入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”で音場効果を調節すると、より好みのサウンドでお楽しみいただけます。(P.170 ページ)

入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
2チャンネル *1	Stereo	○	○	○
	Dolby Surround	○	○	○
	DTS Neo:X Cinema *2	○		
	DTS Neo:X Music *2		○	
	DTS Neo:X Game *2			○
	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Wide Screen *9	○		
	Super Stadium		○	
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Classic Concert		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

*1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。

*2 2チャンネルソースを5.1、7.1 または 9.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。

*9 DTS:X 対応ファームウェアアップデートをおこなった後は、2チャンネルソース再生時に、Wide Screen は選択できません。



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *3	Stereo	○	○	○
Dolby Digital	Dolby Digital	○	○	○
	Dolby Digital + Dolby Surround	○	○	○
	Dolby Digital A-DSX *4	○	○	○
	Dolby Digital + Neo:X Cinema	○		
	Dolby Digital + Neo:X Music		○	
	Dolby Digital + Neo:X Game			○
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD	○	○	○
	Dolby TrueHD + Dolby Surround *5	○	○	○
	Dolby Atmos *6	○	○	○
	Dolby TrueHD A-DSX *4	○	○	○
	Dolby TrueHD + Neo:X Cinema	○		
	Dolby TrueHD + Neo:X Music		○	
	Dolby TrueHD + Neo:X Game			○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないサウンドモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.321 ページ)をご覧ください。

*4 このモードは Audyssey DSX[®]処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。(P.181 ページ)

*5 入力信号に、Dolby Atmos を含んでいない場合に選択できます。

*6 入力信号に、Dolby Atmos を含んでいる場合に選択できます。



入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル*3	Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Dolby Surround *5	○	○	○
		Dolby Atmos *6	○	○	○
		Dolby Digital Plus A-DSX *4	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Neo:X Cinema	○		
		Dolby Digital Plus + Neo:X Music		○	
		Dolby Digital Plus + Neo:X Game			○
	Dolby Atmos	Dolby Atmos	○	○	○
	DTS	DTS Surround	○	○	○
		DTS ES Dscrt 6.1	○	○	○
		DTS ES Mtrx 6.1	○	○	○
		DTS 96/24	○	○	○
		DTS + Dolby Surround	○	○	○
		DTS Surround A-DSX *4	○	○	○
		DTS + Neo:X Cinema	○		
		DTS + Neo:X Music		○	
		DTS + Neo:X Game			○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないサウンドモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.321 ページ)をご覧ください。

*4 このモードは Audyssey DSX®処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。(P.181 ページ)

*5 入力信号に、Dolby Atmos を含んでいない場合に選択できます。

*6 入力信号に、Dolby Atmos を含んでいる場合に選択できます。



入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *3	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES	○	○	○
		DTS-HD MSTR	○	○	○
		DTS-HD MSTR A-DSX *4	○	○	○
		DTS Express	○	○	○
		DTS Express A-DSX *4	○	○	○
		DTS-HD + Dolby Surround	○	○	○
		DTS-HD HI RES A-DSX *4	○	○	○
		DTS-HD + Neo:X Cinema	○		
		DTS-HD + Neo:X Music		○	
		DTS-HD + Neo:X Game			○
	PCMマルチチャンネル	Multi Ch In	○	○	○
		Multi Ch In 7.1	○	○	○
		Multi In + Dolby Surround	○	○	○
		Multi In A-DSX *4	○	○	○
		Multi In + Neo:X Cinema	○		
		Multi In + Neo:X Music		○	
		Multi In + Neo:X Game			○
	MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	○	○	○
		AAC + Dolby Surround	○	○	○
		AAC A-DSX *4	○	○	○
		AAC + Neo:X Cinema	○		
		AAC + Neo:X Music		○	
		AAC + Neo:X Game			○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないサウンドモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.321 ページ)をご覧ください。

*4 このモードは Audyssey DSX®処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。(P.181 ページ)



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *3	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Wide Screen	○		
	Super Stadium		○	
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Classic Concert		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないサウンドモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.321 ページ)をご覧ください。



アップデート (DTS:X)

入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル	2チャンネル *1	DTS Neural:X *2	○	○	○
		DTS:X	○	○	○
	DTS:X	DTS:X MSTR	○	○	○
	Dolby Digital	Dolby Digital + Neural:X	○	○	○
	Dolby TrueHD	Dolby TrueHD + Neural:X	○	○	○
	Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus + Neural:X	○	○	○
	DTS	DTS + Neural:X	○	○	○
	DTS-HD/DTS Express	DTS-HD + Neural:X	○	○	○
	PCMマルチチャンネル	Multi Ch In + Neural:X	○	○	○

*1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。

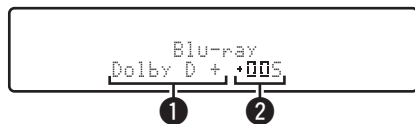
*2 2チャンネルソースを 5.1、7.1 または 9.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。



- DTS:X や DTS Neural:X は、DTS:X 対応ファームウェアへアップデートした後に選択できます。
- DTS:X 対応後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。



■ ディスプレイの表示について



① 使用するデコーダーをあらわします。

- Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“Dolby D +” と表示します。

② 音声を生成するデコーダーをあらわします。

- “DDS” は、Dolby Surround デコーダーを使用していることをあらわします。



HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

- 1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(P.189 ページ)
- 2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。
- 6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI ZONE2 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。
- メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに、HDMI ZONE2 機能を使用すると、HDMI ZONE2 機能が十分に機能しない場合があります。



スリープタイマー機能

ZONE SELECT



SLEEP

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。



スリープタイマーを設定する

1 ZONE SELECT を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

[M]、[22] または [23] 表示が点灯します。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

- ディスプレイの **S** 表示が点灯して、スリープタイマーが始まります。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

SLEEP を押して、“Off” を選ぶ。
ディスプレイの **S** 表示が消灯します。



本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。



クイックセレクトプラス機能

ZONE SELECT



QUICK SELECT 1 ~ 4

QUICK SELECT 1~4 ボタンに入力ソース、音量レベル、サウンドモードの設定など記憶できます。

次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を QUICK SELECT 1~4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

クイックセレクトプラス機能は、ゾーンごとに記憶できます。



本体の QUICK SELECT ボタンでは、メインゾーンのみ操作できます。



設定を呼び出す

1 ZONE SELECT を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

[M]、[Z2] または [Z3] 表示が点灯します。

2 QUICK SELECT を押す。

押したボタンに記憶している設定内容を読み出します。

- お買い上げ時の入力ソースおよび音量の設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】

ボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	CBL/SAT	40
QUICK SELECT 2	Blu-ray	40
QUICK SELECT 3	Media Player	40
QUICK SELECT 4	Online Music	40

【ゾーン2】 / 【ゾーン3】

ボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	CBL/SAT	40
QUICK SELECT 2	Blu-ray	40
QUICK SELECT 3	Media Player	40
QUICK SELECT 4	Online Music	40



設定を変更する

1 次の内容を記憶させたい状態にする。

メインゾーンでは次の①～⑨の設定を記憶し、ゾーン2とゾーン3では次の①、②の設定を記憶することができます。

- ① 入力ソース(182 ページ)
- ② 音量(183 ページ)
- ③ サウンドモード(131 ページ)
- ④ Audyssey(Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®, Audyssey LFC™)(178～181 ページ)
- ⑤ 「リストアラー」(176 ページ)
- ⑥ 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(126 ページ)
- ⑦ 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(128 ページ)
- ⑧ 「視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)」(129 ページ)
- ⑨ 「ビデオ出力」(187 ページ)



次の入力ソースで、ラジオの受信中や曲の再生中に、QUICK SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局または再生中の曲を記憶します。

- Tuner / Internet Radio / Media Server / Favorites / iPod/USB

2 ZONE SELECT を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

[M]、[Z2] または [Z3] 表示が点灯します。

3 ディスプレイに “Quick* Memory”、“Z2 Quick* Memory” または “Z3 Quick* Memory” が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。

現在の設定を記憶します。

* は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

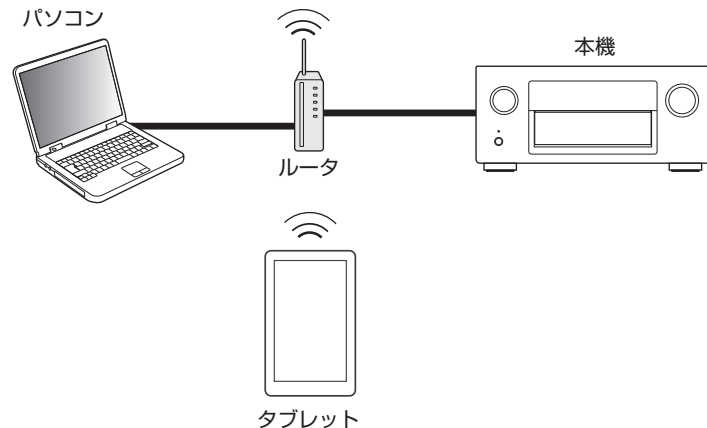
■ クイックセレクト名を変更する

本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示するメインゾーンのクイックセレクト名をお好みの名前に変更できます。変更のしかたは、メニューの “クイックセレクト名の変更” をご覧ください。(256 ページ)



ウェブコントロール機能

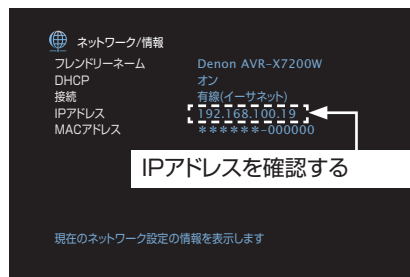
ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能をご使用になるには、本機とパソコン、またはタブレットが同じネットワークに正しく接続されている必要があります。([ホームネットワーク(LAN)に接続する](P.26 ページ))
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。そのような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

ウェブコントロール機能で本機をコントロールする

- 1 メニューの“IP コントロール” の設定を“常時オン”にする。(P.249 ページ)
- 2 メニューの“情報” で、本機の IP アドレスを確認する。(P.245 ページ)

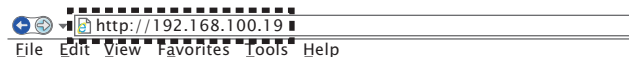


- 3 ブラウザを起動する。

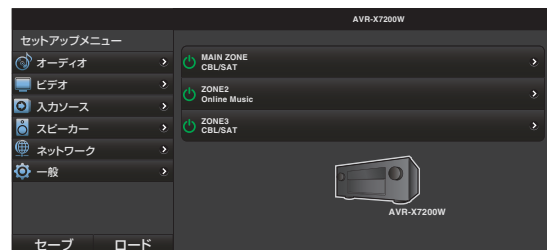


4 ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。

例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。



5 トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。



- パソコンからウェブコントロールを使用すると、“セーブ” および “ロード” 機能にて本機の各種の設定内容を記憶したり、呼び出したりすることができます。
 - 設定を保存する: Setup Menu 画面の “セーブ” をクリックする。
 - 設定を呼び出す: Setup Menu 画面の “ロード” をクリックする。
- 次のウェブブラウザを使用することをおすすめします。
 - Internet Explorer 10 以上
 - Mozilla Firefox 24 以上
 - Google Chrome 29 以上
 - Safari 5.x 以上



ゾーン2/ゾーン3(別の部屋)での再生

本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン2 およびゾーン3)で映像や音声を楽しむことができます。メインゾーン、ゾーン2 およびゾーン3 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

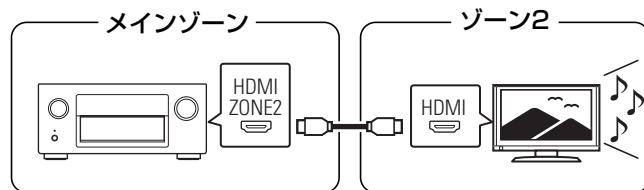
ゾーンの接続

ゾーン2 およびゾーン3 で映像や音声を再生するには、次の3とおりの方法があります。

- HDMI ZONE2 端子を使用した接続(🔗 156 ページ)
- 映像出力端子とスピーカー出力端子を使用した接続(🔗 157 ページ)
- 映像出力端子と外部のパワーアンプを使用した接続(🔗 159 ページ)

■ 接続1:HDMI ZONE2 端子を使用した接続

HDMI ZONE2 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1~7 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン2 で再生できます(HDMI ZONE2 機能)。



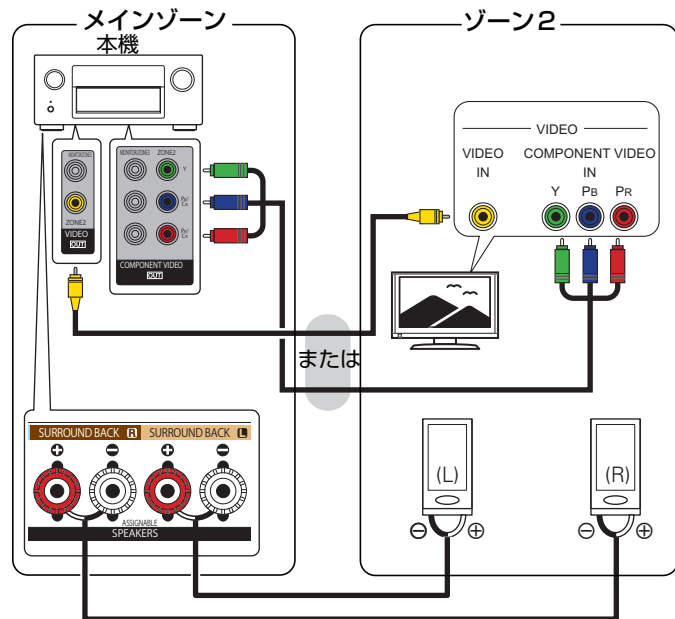
HDMI ZONE2 OUT 端子にテレビを接続し、メインゾーンとゾーン2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声は2チャンネルになる場合があります。



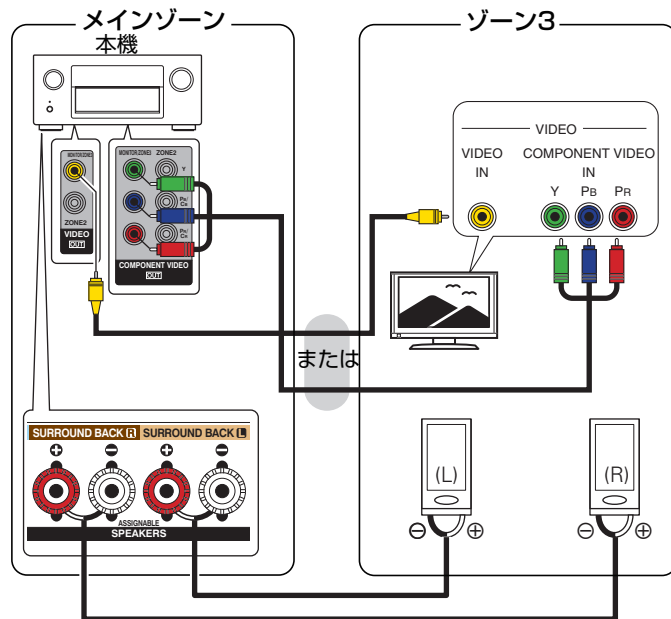
■ 接続 2: 映像出力端子とスピーカー出力端子を使用した接続

メニューの“アサインモード”の設定が次のときに、ゾーン 2 またはゾーン 3 のスピーカーから音声を出力します。(P.214 ページ)

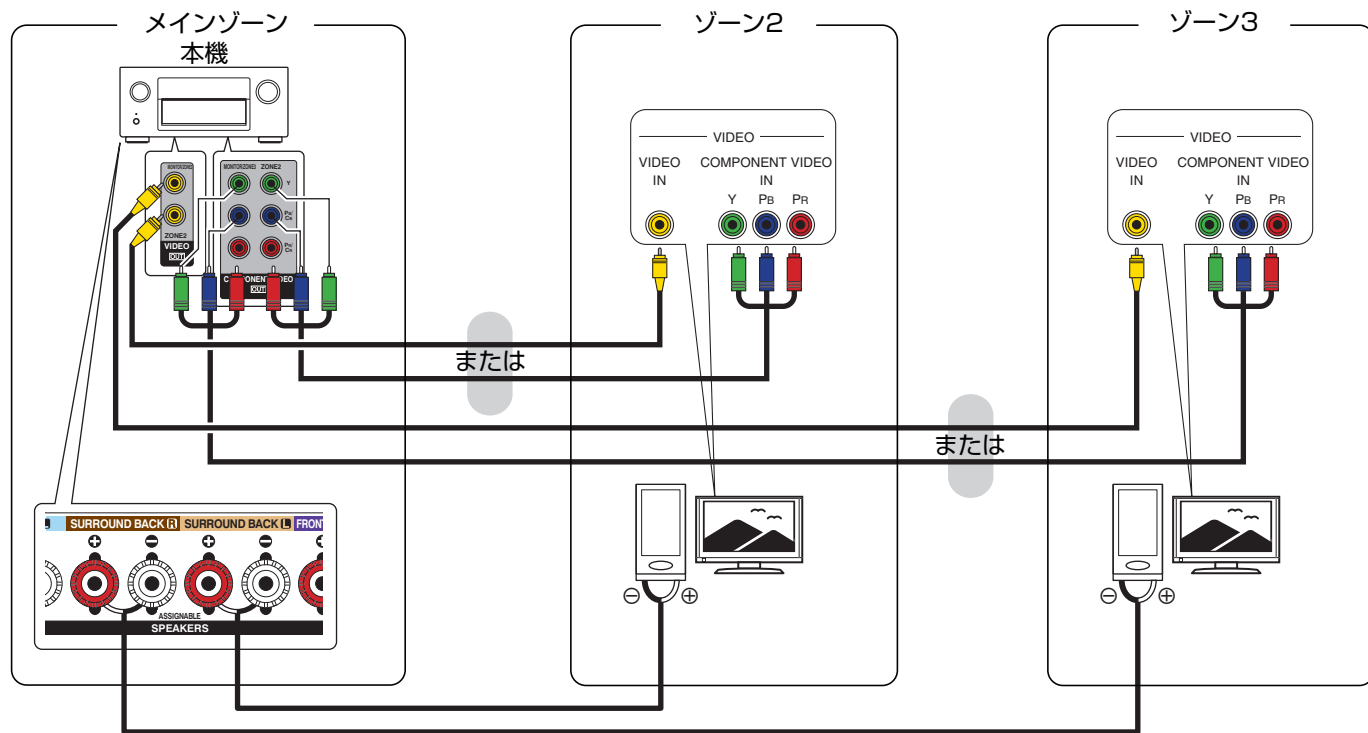
□ アサインモード: 7.1ch + ZONE2



□ アサインモード: 7.1ch + ZONE3

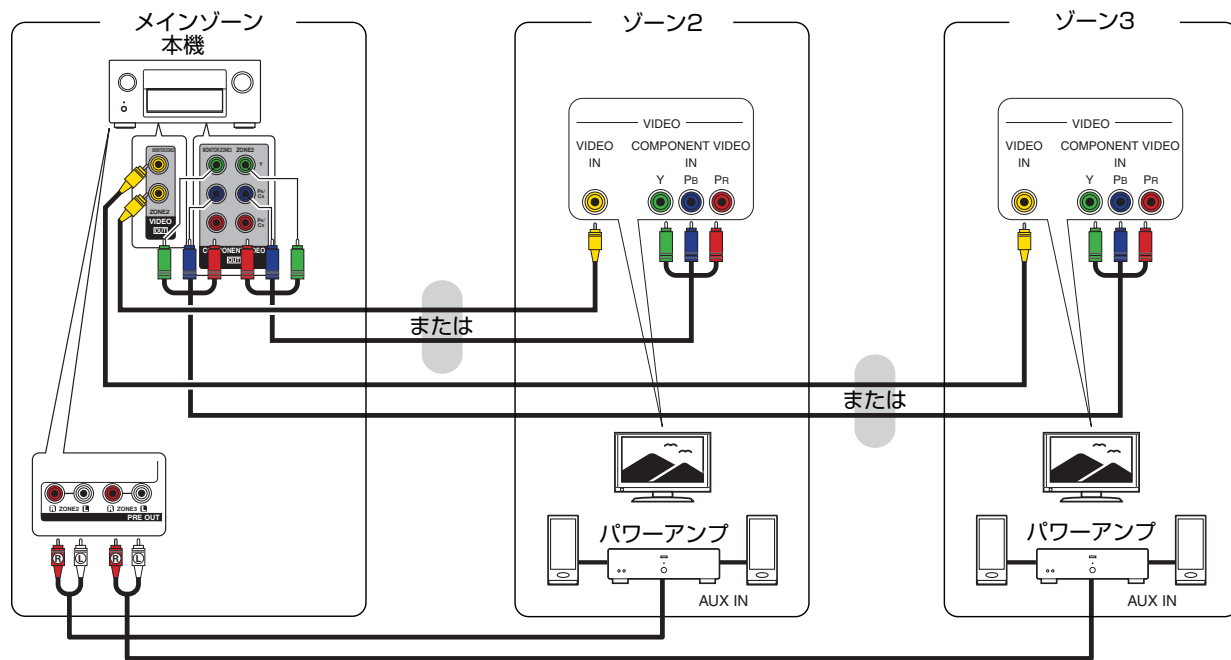


□ アサインモード: 7.1ch + ZONE2/3-MONO



■ 接続 3: 映像出力端子と外部のパワーアンプを使用した接続

本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーンおよびゾーン 3 のパワーアンプで再生します。

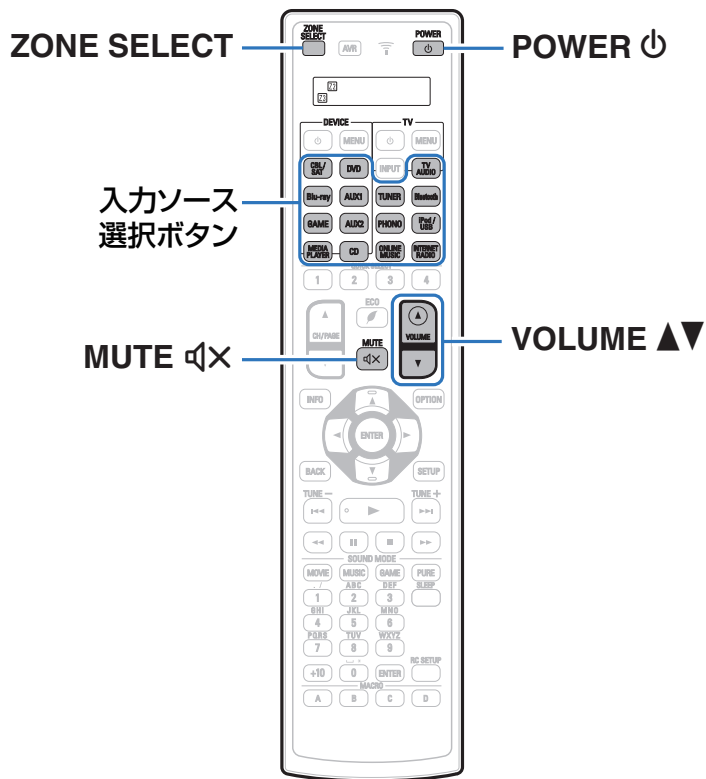




- ゾーン 2 では、アナログオーディオ端子から入力される音声信号と、HDMI 端子またはデジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力される PCM2 チャンネル信号を再生できます。
- PCM 2 チャンネル以外の HDMI 信号をゾーン 2 で再生したい場合は、“HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。[\(P.254 ページ\)](#)
ゾーン 2 で選択している入力ソースに接続された機器から PCM 2 チャンネル信号が出力され、ゾーン 2 で再生することができます。
この場合、メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声も PCM 2 チャンネル信号になります。ただし、再生機器によっては、この設定をおこなっても PCM 信号に変換されない場合があります。
- ゾーン 3 では、アナログオーディオ端子から入力される音声信号と、デジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力される PCM2 チャンネル信号を再生できます。
- メニューの“アナログビデオ出力”を“ゾーン 3”に設定すると、コンポーネントビデオおよびビデオ出力端子をゾーン 3 用として使用できます。[\(P.195 ページ\)](#)
- メニュー画面は、ゾーン 2 には出力しません。



ゾーン2/ゾーン3で再生する



- 1 ZONE SELECT を押して、ゾーンモードを切り替える。
 [2] または [3] 表示が点灯します。
- 2 POWER を押して、ゾーン2またはゾーン3の電源を入れる。
 ディスプレイの **MULTI ZONE** 表示が点灯します。
 - 本体の ZONE2 ON/OFF または ZONE3 ON/OFF を押しても、ゾーン2またはゾーン3の電源をオン/オフできません。
- 3 入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。
 選択した入力ソースの音声を、ゾーン2またはゾーン3のスピーカーに出力します。
 - 本体の ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押してもゾーン2またはゾーン3の入力ソースを選択できません。ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押すたびに、入力ソースが切り替わります。



■ 音量の調節

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- お買い上げ時は、“音量の上限”を“70(-10 dB)”に設定しています。[\(P.255 ページ\)](#)



本体の ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押したあとに MASTER VOLUME を回しても、ゾーン 2 やゾーン 3 の音量を調節できます。

■ 一時的に音を消す(ミュートイング)

MUTE  を押す。

メニューの“ミュートインングレベル”で設定したレベルまで音量が減衰します。[\(P.255 ページ\)](#)

- ミュートイングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。



メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。

本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしています。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 オーディオ	サブウーハーレベルの調節	サブウーハーの音量を調節します。	169
	低音の位相補正	ディスクに収録された低音(LFE)が遅れているときに、位相のずれを補正します。	169
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	170
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	176
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	177
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	177
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	178
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®, Audyssey LFC™ および Audyssey DSX®の設定をします。	178
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	182
 ビデオ	画質調整	映像の画質を調節します。	184
	HDMI 設定	HDMI の映像/音声出力に関する設定をします。	186
	ビデオ出力の設定	映像出力に関する設定をします。	191
	アナログビデオ出力	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を使用するゾーンを割り当てます。	195
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	196
	TV フォーマット	ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	197



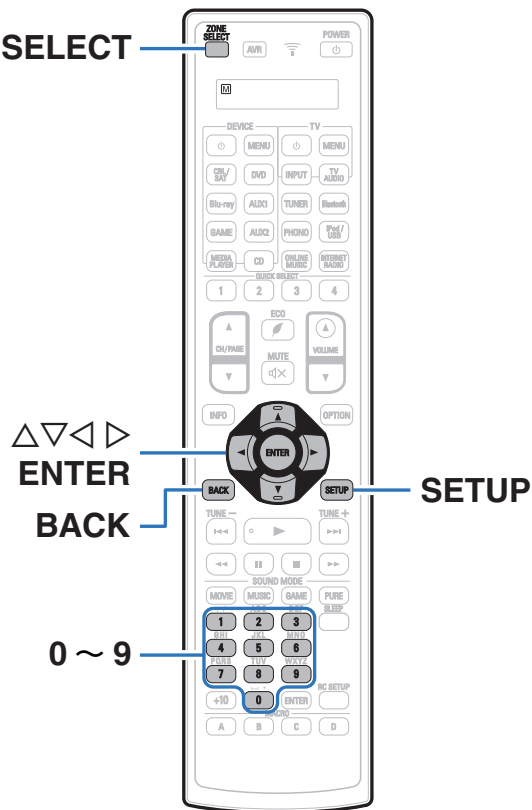
設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	198
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	200
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	200
	ソースレベル	音声入力のリ再生レベルを補正します。	200
	オーディオ入力の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	201
 スピーカー	Audyssey®セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的に おこないます。	203
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更する ときにおこなってください。	214
 ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	245
	接続	ホームネットワーク (LAN) に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定 します。	245
	詳細な設定	IP アドレスを手動で設定したり、プロキシサーバーを使用しているときに設定します。	248
	IP コントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	249
	フレンドリーネーム	“フレンドリーネーム” とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名 前に変更できます。	250
	診断	ネットワークの接続を確認します。	250
	メンテナンスモード	当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに 使用します。	251



設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	252
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	252
	ゾーン 2 の設定/ ゾーン 3 の設定	ゾーン 2 およびゾーン 3 で再生する音声の設定をします。	254
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	256
	クイックセレクト名の変更	クイックセレクト名をお好みの名前に変更します。	256
	リモコン ID	本機が応答するリモコンコードの ID を設定します。	256
	トリガーアウト 1/ トリガーアウト 2	トリガーアウト機能を動作させる条件を選択します。	257
	フロントディスプレイ	本体のディスプレイの明るさを調節します。	257
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	258
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	260
	ファームウェア	アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	260
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	262
 セットアップアシ スタント	初めから設定を行う	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の 9 ページ
	言語の設定	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	ネットワークの設定 入力の設定		



ZONE SELECT



メニュー操作のしかた

- 1 ZONE SELECT を押して、リモコンで操作するゾーンをメインゾーンに設定する。
[M] 表示が点灯します。
- 2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 3 $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ を押して設定または操作したいメニューを選び、ENTER を押す。
- 4 $\triangleleft \triangleright$ を押して、お好みの設定に変更する。
- 5 ENTER を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、BACK を押してください。
 - メニューを終了するときは、メニュー表示中に SETUP を押してください。メニュー表示が消灯します。



文字入力について

- 本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更できます。
 - プリセットネーム (102 ページ)
 - テキスト検索 (123 ページ)
 - 入力ソース名の変更 (200 ページ)
 - フレンドリーネーム (250 ページ)
 - ゾーン名の変更 (256 ページ)
 - クイックセレクト名の変更 (256 ページ)
 - ネットワーク機能に関する文字入力
- 文字の入力方法には、次の 2 つの方法があります。
 - キーボード画面で文字を入力する (168 ページ)
 - 数字ボタンを使用して文字を入力する (168 ページ)



キーボード画面で文字を入力する

1 文字の入力をおこなう画面を表示する。

【例】“入力ソース名の変更”画面



2 △▽◀▶を押して、←または→を選ぶ。

3 ENTERを押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。

- ENTERを押すたびに、カーソルが1文字ずつ移動します。

4 △▽◀▶を押して入力したい文字を選び、ENTERを押す。

5 手順2～4をくり返して、名前を変更する。

6 △▽◀▶を押して“OK”を選び、ENTERを押す。

数字ボタンを使用して文字を入力する

1 キーボード画面を表示中に、0～9を押す。

数字ボタン入力画面に切り替わります。

2 ◀▶を押して変更したい文字にカーソルを合わせ、入力したい文字が表示されるまで、数字ボタン(0～9)を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

1 ABC	1. @ - _ / : ' "	6 MNO	MNOmno6
2 DEF	2 ABCabc2	7 PQRS	PQRSpqrs7
3 GHI	3 DEFdef3	8 TUV	TUVtuv8
4 JKL	4 GHIghi4	9 WXYZ	WXYZwxyz9
5 JKL	5 JKLjkl5	0	0 (空白) ! " # \$ % & ' () * + , ; < = > ? [\] ^ _ { }

3 手順2をくり返して名前を変更し、ENTERを押して入力した文字を確定する。



オーディオ

音声に関する設定をします。

サブウーハーレベルの調節

サブウーハーの音量を調節します。

■ サブウーハーレベルの調節

サブウーハーレベルを調節するかしないかを設定します。

オン:	サブウーハーレベルの調節を有効にします。
-----	----------------------

オフ (お買い上げ時の設定):	サブウーハーレベルの調節を無効にします。
--------------------	----------------------

■ サブウーハー 1 レベル / サブウーハー 2 レベル

サブウーハー 1 およびサブウーハー 2 の音量を調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

低音の位相補正

Blu-ray disc などマルチチャンネルで収録されているコンテンツでは、低音(LFE)が遅れて収録されている場合があります。本機能を使用すると、この低音(LFE) の遅れを補正します。

0ms ~ 16ms(お買い上げ時の設定:0ms)



- ディスクによって低音(LFE) の遅れが異なります。お好みで設定してください。
- “低音の位相補正” の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
- 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定可能です。
- サウンドモードが “Direct” または “Pure Direct” のときは設定できません。
- 入力モードが “7.1 CH IN” のときは設定できません。



サウンドパラメーター

サウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.317 ページ)をご覧ください。



- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サウンドパラメーター” の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

■ シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン: “シネマ EQ” を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “シネマ EQ” を使用しません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮” で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン

(お買い上げ時の設定):

“ダイナミックレンジ圧縮” の設定および “ダイアログノーマライゼーション” (P.258 ページ) を有効にした内容で出力します。

オフ:

“ダイナミックレンジ圧縮” の設定および “ダイアログノーマライゼーション” が無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。



“ラウドネスマネージメント” は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD および Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。



■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。



- “ダイナミックレンジ圧縮” は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD および Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。
- お買い上げ時の設定は“オフ”です。入力信号が Dolby TrueHD および Dolby Atmos ソースの場合、お買い上げ時の設定は“オート”になります。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

□ 入力モードが“7.1CH IN” 以外のとき

-10 dB~0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

□ 入力モードが“7.1CH IN” のとき

0dB / +5dB / +10dB / +15dB
(お買い上げ時の設定:+15dB)



各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。

- Dolby Digital ソース:0 dB
- DTS の映画ソース:0 dB
- DTS の音楽ソース:-10 dB



アップデート (DTS:X)

■ ダイアログコントロール

映画のせりふや音楽のボーカルの音量を調節し、聴きやすくします。

0～6(お買い上げ時の設定:0)



ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに設定できます。

アップデート (DTS:X)

■ DTS Neural:X

DTS Neural:X は、DTS:X 信号に含まれるチャンネルベース信号を抽出し、お使いのスピーカーの設置環境に合わせて最適なサラウンド効果を与えます。

オン
(お買い上げ時の設定): “DTS Neural:X” を使用します。

オフ: “DTS Neural:X” を使用しません。



サウンドモードが “DTS:X” または “DTS:X MSTR” のときに設定できます。



■ センターゲイン

センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。

0.0～1.0



- サウンドモードが DTS Neo:X のときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

■ センターの広がり

センターチャンネルの音声をフロント左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。
主にステレオ音楽コンテンツの再生に最適なサラウンド効果を与えます。

オン: “センターの広がり” を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “センターの広がり” を使用しません。



サウンドモードが “Dolby Surround” のときに設定できます。

■ ディレイタイム

映像に対する音声の遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。

0 ms～300 ms(お買い上げ時の設定: 30 ms)



サウンドモードが “Matrix” のときに設定できます。

■ エフェクトレベル

音響効果のレベルを調節します。

1～15(お買い上げ時の設定: 10)



サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。



■ ルームサイズ

音場空間の大きさのイメージを設定します。

小:	小さな音場空間のイメージ
やや小:	やや小さな音場空間のイメージ
標準 (お買い上げ時の設定):	標準的な音場空間のイメージ
やや大:	やや大きな音場空間のイメージ
大:	大きな音場空間のイメージ



“ルームサイズ” は、再生する部屋の大きさをあらわすものではありません。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
オフ:	サブウーハーを使用しません。



サウンドモードが“Direct” または“Stereo” で、メニューの“サブウーハーモード” の設定が“LFE+メイン” のときに設定できます。
([P.241 ページ](#))



■ スピーカー選択

音声を出力するスピーカーを設定します。

□ サウンドモードが“DTS Neo:X” のとき

サラウンドバック:	サラウンドバックスピーカーから音声を出力します。
ハイト:	フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
ワイド:	フロントワイドスピーカーから音声を出力します。
サラウンドバック/ハイト:	サラウンドバックおよびフロントハイトスピーカーから音声を出力します。
サラウンドバック/ワイド:	サラウンドバックおよびフロントワイドスピーカーから音声を出力します。
ハイト/ワイド:	フロントハイトおよびフロントワイドスピーカーから音声を出力します。



これは、サラウンドバックスピーカー、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを使用しているときに選択できます。

□ サウンドモードがオリジナルサウンドモードのとき

フロア	(お買い上げ時の設定): ハイトスピーカーを使用せずに再生します。
フロア&ハイト:	ハイトスピーカーを使用して再生します。
フロント:	サラウンドスピーカーを含めた前側のスピーカーのみを使用して再生します。

■ 初期化

“サラウンドパラメーター” の設定をお買い上げ時の設定に戻します。



リストアラー

MP3、WMA (Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強: 高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです (64kbps 以下)。

中: 圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します (96kbps 以下)。

弱: 高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです (96kbps 以上)。

オフ: “リストアラー” を使用しません。



- アナログ入力や PCM 信号 (サンプリング周波数=44.1/48kHz) が入力されたときに設定できます。
- 入力ソースが “Online Music”、“iPod/USB” および “Bluetooth” のときのお買い上げ時の設定は、“弱”です。それ以外の入力ソースのお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- サウンドモードが “Direct” または “Pure Direct” のときは設定できません。
- 入力モードが “7.1CH IN” のときは設定できません。
- “リストアラー” の設定は、入力ソースごとに記憶します。



オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。

0 ms～200 ms(お買い上げ時の設定:0 ms)



- メニューの“ビデオモード”が“オート”または“ゲーム”のときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。(p.191 ページ)
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。
- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 - 98
(お買い上げ時の設定): 0(最小)～98の範囲で表示します。

-79.5 dB - 18.0 dB: ---dB(最小)、-79.5dB～18.0dBの範囲で表示します。



“表示方法”の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB)/ 70(-10 dB)/ 80(0 dB)

オフ(お買い上げ時の設定)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

以前の音量
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 設定した音量になります。

■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音
(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 下げて再生します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 下げて再生します。



バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(P.325 ページ)をご覧ください。



- “MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“リファレンスオフセット”、“Dynamic Volume”、“Audyssey LFC™”、“抑制量” および “Audyssey DSX®” の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが “Direct” または “Pure Direct” の場合、“MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ” および “Dynamic Volume” の設定はできません。
- 入力モードが “7.1CH IN” のときは設定できません。



■ MultEQ® XT32

MultEQ® XT32 は、Audyssey® セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3 種類の補正カーブから選択できます。

“Reference” に設定することをおすすめします。

Reference (お買い上げ時の設定):	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さな部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT32” を使用しません。



ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT32” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。

Dynamic EQ は、MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン (お買い上げ時の設定):	Dynamic EQ を使用します。
オフ:	Dynamic EQ を使用しません。



メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。(p. 127 ページ)



■ リファレンスオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ[®]は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB :	クラシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB :	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB :	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。



メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。(P. 179 ページ)

■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

Heavy:	音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Medium:	音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Light:	音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	Dynamic Volume を使用しません。



Audyssey[®]セットアップで“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。(P. 203 ページ)



■ Audyssey LFC™

低音周波数帯域を調節し、隣の部屋に低音や振動が漏れることを防ぎます。

オン: “Audyssey LFC™” を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “Audyssey LFC™” を使用しません。

■ 抑制量

抑制する低域の量を調節します。
隣の部屋に低音が漏れるのを防ぎたい場合は、より高い値を設定してください

1～7(お買い上げ時の設定:4)



メニューの “Audyssey LFC™” の設定が “オン” のときに設定できます。

■ Audyssey DSX®

新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。

ワイド: フロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX®を設定します。

ハイト: フロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX®を設定します。

ワイド/ハイト: フロントワイドチャンネルおよびフロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX®を設定します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “Audyssey DSX®” を設定しません。



- “Audyssey DSX®” は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを使用しているときに設定できます。
- “Audyssey DSX®” は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。
- 2チャンネル信号を再生しているとき、“Audyssey DSX®” は使用できません。
- 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“Audyssey DSX®” は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。



■ ステージウィドス

フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広さを調節します。

-10~+10(お買い上げ時の設定:0)

■ ステージハイト

フロントハイトスピーカー使用時にサウンドステージの高さを調節します。

-10~+10(お買い上げ時の設定:0)

グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。



- 設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- “MultEQ® XT32” の設定が“オフ” のときに設定できます。(P.179 ページ)
- サウンドモードが“Direct” または“Pure Direct” のときは設定できません。
- 入力モードが“7.1CH IN” のときは設定できません。

■ グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	グラフィックイコライザーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	グラフィックイコライザーを使用しません。



■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左/右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ EQ 調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。“スピーカーの選択方法”で選択したスピーカーを調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz /
2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
-20.0 dB ~ +6.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0 dB)



フロント Dolby, サラウンド Dolby およびバック Dolby スピーカーは、63 Hz/125 Hz/250 Hz/500 Hz/1 kHz のみ設定できます。

■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた、Flat の補正カーブをコピーします。



“カーブコピー”は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。

■ 初期化

“グラフィック EQ”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。



ビデオ

映像に関する設定をします。

画質調整

映像の画質を調節します。



- メニューの“ビデオコンバージョン”の設定が“オン”のときに設定できます。(192 ページ)
- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときに設定できます。(199 ページ)
- “コントラスト”、“ブライトネス”、“色の濃さ”、“ノイズ除去”および“エンハンサー”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。
- “画質調整”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- “画質調整”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。

■ ピクチャーモード

ビデオコンテンツや視聴環境に合わせて、お好みのピクチャーモードを選択します。

スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を見るのに適したモードです。
ビビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動でおこないます。
オフ:	本機による画質調整をおこないません。





- ISF Day/ISF Night の 2 つのモードは、ISF 認定を受けた映像技術者が専用の調整モードを用いることで、設置条件に合わせたカラーキャリブレーション調整をおこなうことができます。ISF 認定の技術者による設定と調整をおこなうことをおすすめします。
- オプションメニューの“ピクチャーモード”でも設定できます。
( 129 ページ)
- お買い上げ時の設定は次のとおりです。
 - 入力ソースが“Online Music”または“iPod/USB”のとき：ストリーミング
 - 入力ソースが“Online Music”および“iPod/USB”以外のとき：オフ

■ コントラスト

映像の明暗の差を調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)

■ ブライツネス

映像の明るさを調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)

■ 色の濃さ

色の濃さを調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)



■ ノイズ除去

映像全体のノイズを軽減します。

弱 / 中 / 強 / オフ (お買い上げ時の設定: オフ)

■ エンハンサー

映像の輪郭を強調します。

0 ~ +12 (お買い上げ時の設定: 0)

HDMI 設定

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

ご注意

“HDMI バススルー” および “HDMI コントロール” を “オン” に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ オートリップシンク

出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。

オン
(お買い上げ時の設定): 自動的に補正します。

オフ: 自動的に補正しません。



■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ
(お買い上げ時の設定): 本機に接続したスピーカーで再生します。

TV: 本機に接続したテレビで再生します。



- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(「HDMI コントロール機能」(P.148 ページ))
- “HDMI オーディオ出力” の設定が “TV” で本機の電源が入っている場合、HDMI OUT 端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ ビデオ出力

使用する HDMI モニター端子を選択します。

オート(デュアル)
(お買い上げ時の設定): HDMI MONITOR 1 または HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。

モニター 1: HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。

モニター 2: HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。



- HDMI MONITOR1 および HDMI MONITOR2 端子にテレビを接続した場合、“解像度” の設定が “オート” のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。“解像度” の設定が “オート” 以外のときは、映像が出力されない場合があります。その場合は、両方のテレビが対応している解像度を設定してください。(P.193 ページ)
- テレビが対応している解像度は、“HDMI モニター 1” および “HDMI モニター 2” で確認できます。(P.258 ページ)



■ バーチカルストレッチ

映像信号を垂直方向に伸張するかしないかの設定をします。

オン: 映像信号を垂直方向に伸張します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 映像信号を垂直方向に伸張しません。

ご注意

“バーチカルストレッチ”は、“i/p スケーラー” の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(P.192 ページ)

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン: 本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません。



■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン:	HDMI コントロール機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	HDMI コントロール機能を使用しません。



- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(P.148 ページ)

ご注意

“HDMI コントロール” の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ パススルーソース

電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後のソース (お買い上げ時の設定):	前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。
------------------------	---------------------------

CBL/SAT / DVD /
Blu-ray / Game /
AUX1 / AUX2 /
Media Player / CD*: 選択した入力ソースをパススルーします。

- * “入力端子の割り当て” の設定で、CD に HDMI 端子が割り当てられているときのみ、“パススルーソース” を “CD” に設定できます。(P.198 ページ)



“パススルーソース” は、“HDMI コントロール” または “HDMI パススルー” の設定が “オン” のときに設定できます。



■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。
オフ:	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。



“TV Audio 切り替え”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。

■ パワーオフコントロール

本機と外部機器の電源オフを連動します。

すべて (お買い上げ時の設定):	本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
ビデオ:	“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”のいずれかが割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。(199 ページ)
オフ:	本機はテレビの電源に連動しません。



“パワーオフコントロール”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。



ビデオ出力の設定

映像出力に関する設定をします。



- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO” (199ページ)を割り当てているときに設定できます。
- “解像度”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”は、“i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
- “ビデオ出力の設定”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。
- “ビデオコンバージョン”、“i/p スケーラー”、“解像度”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ ビデオモード

映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。

オート (お買い上げ時の設定):	HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。
ゲーム:	ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。ゲーム機のコントローラーのボタン操作に対して映像が遅れている場合に、映像の遅れを最小にします。
ムービー:	ゲーム以外のコンテンツに適した映像処理をおこないます。



“ビデオモード”の設定が“オート”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。



■ ビデオコンバージョン

入力された映像信号を接続されたテレビに合わせて自動的に変換します。(「ビデオコンバージョン機能」(P.309 ページ))

オン (お買い上げ時の設定):	入力された映像信号を変換します。
オフ:	入力された映像信号を変換しません。

■ i/p スケーラー

i/p スケーラー処理をおこなう映像入力信号を設定します。i/p スケーラーは、入力された映像信号の解像度を“解像度”で設定した値に変換します。(P.193 ページ)

□ 入力ソースが“iPod/USB” および “Online Music” 以外のとき

アナログ (お買い上げ時の設定):	アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。
アナログ&HDMI:	アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
HDMI:	HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
オフ:	i/p スケーラー機能を使用しません。



□ 入力ソースが“iPod/USB” および “Online Music” のとき

オン
(お買い上げ時の設定): i/p スケーラー機能を使用します。

オフ: i/p スケーラー機能を使用しません。



- “アナログ&HDMI” は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。
- 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。
- i/p スケーラー機能は、入力された信号が “x.v.Color”、3D、sYCC601 color, Adobe RGB color, Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。

■ 解像度

出力する解像度を設定します。“解像度” は、アナログビデオ入力と HDMI 入力の HDMI 出力に対してそれぞれ設定できます。

オート
(お買い上げ時の設定):

HDMI MONITOR 出力端子に接続しているテレビが対応している解像度を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。

480p/576p / 1080i /

720p / 1080p /

1080p:24Hz /

4K / 4K(60/50):

出力したい解像度を選択します。



- “i/p スケーラー” の設定が “アナログ&HDMI” のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。(P.192 ページ)
- “1080p:24Hz” に設定すると、フィルムソース(24Hz)のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p” に設定することをおすすめします。
- 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。



■ プログレッシブモード

映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。

オート (お買い上げ時の設定):	映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。
ビデオ:	ビデオ素材の再生に適しています。
ビデオ&フィルム:	ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。



"i/p スケーラー" の設定が "オフ" 以外のときに設定できます。
(192 ページ)

■ アスペクト比

HDMI 端子へ出力する映像信号のアスペクト比(縦横比)を設定します。

16:9 (お買い上げ時の設定):	16:9 のアスペクト比で出力します。
4:3:	16:9 のテレビの画面左右に黒帯をつけて 4:3 のアスペクト比で出力します。(ただし、480p/576p 出力時は除きます。)



"i/p スケーラー" の設定が "オフ" 以外のときに設定できます。
(192 ページ)



アナログビデオ出力

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を使用するゾーンを割り当てます。

■ ゾーン

MAIN ZONE (お買上げ時の設定):	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を メインゾーンで使用します。
ZONE3 :	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子および VIDEO MONITOR OUT 端子を ゾーン 3 で使用します。



オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下
(お買い上げ時の設定): 画面の下部に表示します。

上: 画面の上部に表示します。

オフ: 表示しません。



音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

■ 情報

入力ソースの切り替えや、サウンドモードを変更したときなどの情報表示の設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 情報を表示します。

オフ: 情報を表示しません。

■ 再生画面

入力ソースが“Online Music”、“iPod/USB”、“Bluetooth”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン
(お買い上げ時の設定): 常に表示します。

オートオフ: 操作したときに約 30 秒間表示します。



TV フォーマット

ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

■ フォーマット

NTSC (お買い上げ時の設定):	NTSC 方式で出力します。
----------------------	----------------

PAL:	PAL 方式で出力します。
------	---------------



“フォーマット” は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ◀と ▶ を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “*Video Format <NTSC>” を表示します。
2. 本体の ◀または ▶ を押して、映像信号方式を選ぶ。
3. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

ご注意

接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。



入力ソース

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおり接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子、コンポーネントビデオ入力端子およびビデオ入力端子の割り当てを変更してください。



各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	入力端子				
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	COMP	VIDEO
CBL/SAT	1	COAX1	1	1	1
DVD	2	COAX2	2	2	2
Blu-ray	3	-	3	3	3
Game	4	-	4	-	4
Media Player	5	-	6	-	-
TV Audio	-	OPT1	-	-	-
AUX1	Front	-	Front	-	Front
AUX2	6	-	-	-	-
CD	-	OPT2	5	-	-

❑ 衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合：

“入力端子の割り当て” - “DIGITAL” で割り当てた音声信号と、“HDMI” で割り当てた映像信号を組み合わせる場合は、“入力モード”を“デジタル”に設定してください。
(P.201 ページ)



■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / Front: 選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。

—: 選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。



メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることはできません。
( 189 ページ)

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

COAX1 (Coaxial) / COAX2 / OPT1 (Optical) / OPT2: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。

—: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / Front: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。

—: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。

■ COMP (コンポーネントビデオ)

入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3: 選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。

—: 選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。

■ VIDEO

入力ソースに割り当てられているビデオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / Front: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。

—: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。



入力ソース名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。
ご使用の機器名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

CBL/SAT / DVD / Blu-ray /
Game / AUX1 / AUX2 /
Media Player / CD /
TV Audio / Phono:

選択した入力ソースの表示名を変更します。

初期化: 変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。



12 文字まで入力できます。文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.168 ページ)をご覧ください。

使用ソースの選択

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

使用する
(お買い上げ時の設定): 選択した入力ソースを使用します。

使用しない: 選択した入力ソースを使用しません。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

■ ソースレベル

□ 入力ソースの設定が “iPod/USB”、“Online Music”、“Bluetooth” および “Tuner” のとき

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ アナログ入力 / デジタル入力

□ 入力ソースの設定が “iPod/USB”、“Online Music”、“Bluetooth” および “Tuner” 以外のとき

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- メニューの“入力端子の割り当て”の設定で、“ANALOG”を割り当てた入力ソースに対してアナログ入力レベルを調節できます。(P.198 ページ)
- メニューの“入力端子の割り当て”の設定で、“DIGITAL”を割り当てた入力ソースに対してデジタル入力を調節できます。(P.198 ページ)
- “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



オーディオ入力の選択

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。



“オーディオ入力の選択”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ 入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル:	デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ:	アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
7.1CH IN:	7.1CH IN 端子からの入力信号のみを再生します。



- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイのDOLBY表示が点灯します。DOLBY表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。(P.198 ページ)
- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 1 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは、サウンドモードを選択できません。



■ デコードモード

入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。
通常は、“オート” に設定してください。“PCM” や “DTS” は、頭切れやノイズが気になるときに設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM:	PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。
DTS:	DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。



メニューの“入力端子の割り当て”(198 ページ)の設定で
“HDMI” または “DIGITAL” に割り当てた入力ソースのときに設定
できます。



スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey®セットアップ”と呼びます。

既に“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。

手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(P.234 ページ)

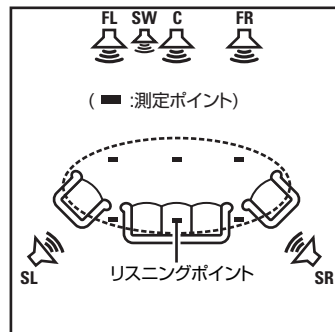
Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように6箇所以上(最大で8箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。

2箇所目以降の測定では、1箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から60cm以内にセットアップマイクを設置してください。



Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey LFC™の機能が有効になります。(P.178～181 ページ)



- FL フロントスピーカー(左)
- FR フロントスピーカー(右)
- C センタースピーカー
- SW サブウーハー
- SL サラウンドスピーカー(左)
- SR サラウンドスピーカー(右)



■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときの座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT32 は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

■ Audyssey Sub EQ HT™について

Audyssey Sub EQ HT™は、2本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

Audyssey Sub EQ HT™をおこなうためには、“チャンネルセレクト”の設定で“測定(2台)”を選択してください。

( 206 ページ)

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの VOLUME ▲▼ または本体の MASTER VOLUME を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



スピーカー設定の流れ (Audyssey®セットアップ)

準備



測定



解析&保存



解析結果の確認



終了

- 1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さを視聴者が座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

- 2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

- **ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合**

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

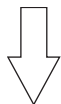
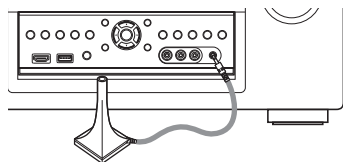
- **ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合**

次のように設定してください。

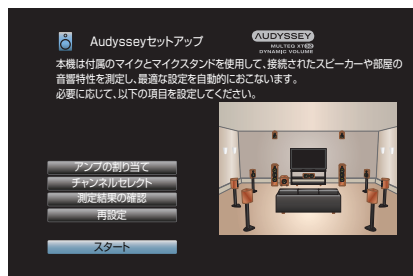
- 音量の設定: 12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定: 最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定: オフ
- スタンバイモードの設定: オフ



3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



4 “スタート”を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

• アンプの割り当て

本機の SURROUND BACK、FRONT WIDE/HEIGHT2 および HEIGHT1 スピーカー端子は、ご使用になるスピーカー環境に合わせて出力する信号を切り替えることができます。(アンプの割り当て(214ページ))

• チャンネルセレクト

使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます。

5 画面の指示に従って、“次へ”を押して進める。



6 次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTERを押す。

1箇所目の測定をはじめます。



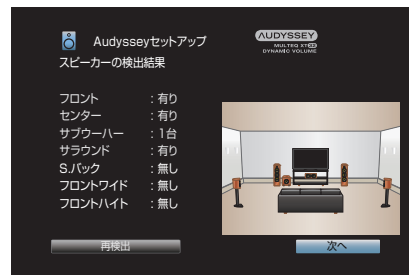
- 測定には数分間かかります。

ご注意

テレビ画面に“注意！”が表示された場合:

- 「エラーメッセージについて」(P.211 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
- サブウーハーの音量が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。「サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた」(P.212 ページ)でサブウーハーの音量を調節してください。

7 検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTERを押す。



8 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTERを押す。

2箇所目の測定をはじめます。

最大8箇所まで測定できます。



2箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、**④**で“測定終了”を選択してENTERを押し、手順11へ進んでください。

□ Audyssey®セットアップを中止するとき

- ① BACKを押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② **④**を押して“有り”を選び、ENTERを押す。

9 手順8をくり返して3～8箇所を測定する。

10 “次へ”を選び、ENTERを押す。



測定結果の解析および保存をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

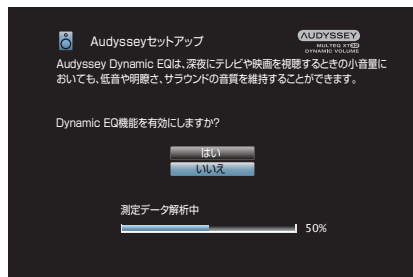
ご注意

測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。



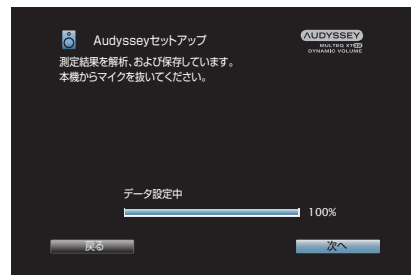
11 Audyssey Dynamic EQ[®]や Audyssey Dynamic Volume[®]の設定をする。

解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。



- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。
深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてくださいになる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。
テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

12 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、“次へ”を押す。



13 測定結果を確認する場合は、“詳細”を選びENTERを押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。



エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey® セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	• セットアップマイクが検出されない。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	• 部屋の騒音が大きい。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	• 表示されたスピーカーが検出されない。	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	• 表示されたスピーカーの位相が逆です。	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋的环境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、▷ を押して“続行”を選び、ENTER を押してください。



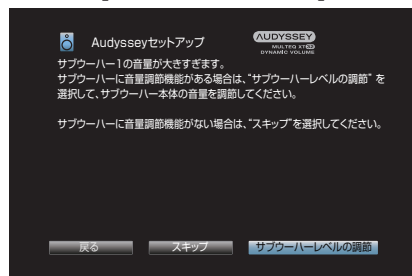
■ サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた

Audyssey®セットアップ測定での各サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。

サブウーハーレベルの測定で、サブウーハーレベルが 72～78dB 以外のときにエラーメッセージを表示します。

アンプ(アクティブ型)を内蔵したサブウーハーを使用する場合は、サブウーハーレベルが 72～78dB の範囲内になるように、サブウーハーの音量を調整してください。

【エラーメッセージ】

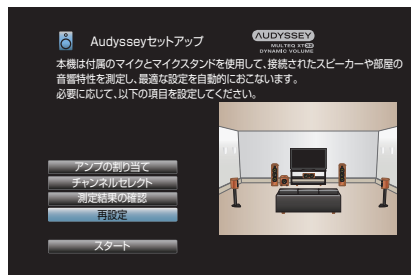


- 1 “サブウーハーレベルの調節” を選び、ENTER を押す。
- 2 お手持ちのサブウーハーの音量を測定レベルが 72～78dB 以内になるように調節する。
- 3 測定レベルが 72～78dB 以内になったら、“次へ”を選び、ENTER を押す。
 - サブウーハーを 2 台ご使用になる場合は、2 台目のサブウーハーの調整をはじめます。手順 2、3 をくり返してください。



Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XT32 が当初計算した値)に戻すことができます。



マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の選択ができなくなります。(P.178～180 ページ)
- “マニュアルセットアップ” の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。

■ アサインモード

パワーアンプの使用方法を選択します。

選択したモードによっては、スピーカー構成の詳細設定が必要になります。アサインモードを選んだあと、対応する詳細設定をおこなってください。

11.1ch :

- 本機内部の 9 チャンネルのパワーアンプとプリアウト端子に接続した外部のパワーアンプを使用し、最大 11.1 チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大 13.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 11.1 チャンネルで再生します。(P.217 ページ)

9.1ch (お買い上げ時の設定) :

- 本機内部のすべてのパワーアンプをメインゾーン用に割り当て、最大 9.1 チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 9.1 チャンネルで再生します。(P.221 ページ)



7.1ch +
ZONE2:

- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。(P.223 ページ)

7.1ch +
ZONE3:

- ゾーン 3 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。(P.224 ページ)

5.1ch +
ZONE2/3:

- ゾーン 2 用とゾーン 3 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分ずつ割り当てます。

7.1ch +
ZONE2/3-
MONO:

- ゾーン 2 用とゾーン 3 用に、本機内部のパワーアンプを 1 チャンネル分ずつ割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。(P.225 ページ)

7.1ch(Bi-
Amp):

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて 音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。(P.226 ページ)

5.1ch(Bi-
Amp) +
ZONE2:

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。



9.1ch/2ch
Front :

- 2チャンネル再生のスピーカー接続用に、本機内部のパワーアンプを2チャンネル分割り当てます。
- ダイレクトモードやステレオモードの2チャンネル再生と、マルチチャンネルサラウンド再生時のフロントスピーカーを切り替えて再生します。(P.227 ページ)

2チャンネル再生用のスピーカーの設定をおこなう場合は、“2チャンネル再生” もおこなってください。(P.242 ページ)

7.1ch/2ch
Front (Bi-Amp) :

- 2チャンネル再生用スピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを4チャンネル分割り当てます。
 - ダイレクトモードやステレオモードの2チャンネル再生と、マルチチャンネルサラウンド再生時のフロントスピーカーを切り替えて再生します。
- 2チャンネル再生用のスピーカーの設定をおこなう場合は、“2チャンネル再生” もおこなってください。(P.242 ページ)

7.1ch +
Front B :

- 2台目のフロントスピーカーの接続用に、本機内部のパワーアンプを2チャンネル分割り当てます。
- フロントスピーカーAまたはフロントスピーカーBを切り替えて再生します。(P.228 ページ)

フロントスピーカーの切り替えは、“フロントスピーカー” の設定でおこなってください。(P.242 ページ)

Dolby
Atmos :

- Dolby Atmos の再生に適したスピーカー用に、本機内部のパワーアンプを割り当てます。(P.229 ページ)

フロントハイト、リアハイト、Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して、Dolby Atmos 再生をおこなう場合は、“アサインモード” を“11.1ch” または“9.1ch” に設定してください。

プリアンプ:

- すべてのスピーカーを外付けのパワーアンプを使用して接続し、本機をプリメインアンプとして使用します。

- メインゾーン用に最大 13.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 11.1 チャンネルで再生します。(P.230 ページ)

カスタム:

- 本機内部のアンプを、お好みで割り当てます。
- メインゾーン用に最大 13.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 11.1 チャンネルで再生します。(P.232 ページ)



■ “アサインモード” の設定が “11.1ch” のときの 詳細設定

“アサインモード” が “11.1ch” のときは、次の項目を設定してください。

□ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトスピーカーの数を選択します。

2 台のハイトスピーカー (お買い上げ時の設定)：	ハイトスピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4 台のハイトスピーカー：	ハイトスピーカーを 2 組(4 台)使用します。
Dolby スピーカーを使用：	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトスピーカーの種類を選択します。

【 “ハイトスピーカー” の設定が “2 台のハイトスピーカー” の場合 】

使用するハイトチャンネルを選択します。

選択項目 \ 音声出力端子	HEIGHT1
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト



【“ハイトスピーカー”の設定が“4台のハイトスピーカー”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	フロントハイト	トップミドル
フロントハイト&トップリア	フロントハイト	フロントハイト	トップリア
フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	フロントハイト	リアハイト
トップフロント&トップリア (お買い上げ時の設定)	トップフロント	トップフロント	トップリア
トップフロント&リアハイト	トップフロント	トップフロント	リアハイト
トップミドル&リアハイト	トップミドル	トップミドル	リアハイト

【“ハイトスピーカー”の設定が“Dolby スピーカーを使用”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロント Dolby (お買い上げ時の設定)	フロント Dolby	フロント Dolby	割り当てません
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	割り当てません
バック Dolby	バック Dolby	バック Dolby	割り当てません
フロント Dolby&トップリア	フロント Dolby	フロント Dolby	トップリア
フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	フロント Dolby	リアハイト
フロントハイト&S.Dolby	フロントハイト	フロントハイト	サラウンド Dolby
フロントハイト&バック Dolby	フロントハイト	フロントハイト	バック Dolby
トップフロント&S.Dolby	トップフロント	トップフロント	サラウンド Dolby
トップフロント&バック Dolby	トップフロント	トップフロント	バック Dolby
フロント Dolby&S.Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
フロント Dolby&バック Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	バック Dolby



□ Wide/Height2

FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子から出力するチャンネルを選択します。

フロントワイド (お買い上げ時の設定):	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子からフロントワイドチャンネルを出力します。
トップリア *:	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子から HEIGHT2 に割り当てたチャンネルを出力します。 フロントワイドチャンネルはプリアウト端子をご使用ください。

* 表示される選択項目は、“ハイトレイアウト”の設定で HEIGHT2 に割り当てられたチャンネル名を表示します。



一部の設定では、“Wide/Height2” の設定ができません。

□ プリアウト

メインゾーンで使用する外付けのパワーアンプを接続するプリアウト端子を選択します。

【“ハイトスピーカー”の設定が“2 台のハイトスピーカー”の場合】

フロント:	フロントチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロントハイト *:	HEIGHT1 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。

* 表示される選択項目は、“ハイトレイアウト”の設定で HEIGHT1 スピーカー端子に割り当てられたスピーカー名を表示します。



【“ハイトスピーカー”の設定が“4 台のハイトスピーカー”、“Wide/Height2”の設定が“フロントワイド”の場合】

トッブリア*:	HEIGHT2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
トッブフロント&トッブリア*:	HEIGHT1 チャンネル(左/右)と HEIGHT2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント&トッブリア*:	フロントチャンネル(左/右)と HEIGHT2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。

* “ハイトレイアウト”で選択されたスピーカー名が表示されます。



プリアウト端子を 1 組使用することによって、Dolby Atmos、Dolby Surround、DTS:X や DTS Neural:X 再生時に最大 11.1 チャンネルの音声を出力できます。また、プリアウト端子を 2 組使用すると、Dolby Atmos や Dolby Surround の他に、Audyssey DSX®再生時も最大 11.1 チャンネルの音声を出力できます。

【“ハイトスピーカー”の設定が“4 台のハイトスピーカー”、“Wide/Height2”の設定が“フロントワイド”以外の場合】

フロントワイド:	フロントワイドチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント&フロントワイド:	フロントチャンネルフロントチャンネル(左/右)とフロントワイドチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。

【“ハイトスピーカー”の設定が“Dolby スピーカーを使用”の場合】
“ハイトレイアウト”や“Wide/Height2”の設定によって選択可能な設定が変わります。

フロント:	フロントチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント Dolby*:	HEIGHT1 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
サラウンド Dolby*:	HEIGHT2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント Dolby & S.Dolby*:	HEIGHT1 チャンネル(左/右)と HEIGHT2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント & S.Dolby*:	フロントチャンネル(左/右)と Height2 チャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロントワイド:	フロントワイドチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。
フロント & フロントワイド:	フロントチャンネル(左/右)とフロントワイドチャンネル(左/右)のプリアウト端子を、外付けのパワーアンプに接続します。

* “ハイトレイアウト”で選択されたスピーカー名が表示されます。



■ “アサインモード” が “9.1ch” のときの詳細設定

“アサインモード” が “9.1ch” のときは、次の項目を設定してください。

□ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトスピーカーの数を選択します。

無し:	ハイトスピーカーを使用しません。
2 台のハイトスピーカー (お買い上げ時の設定):	ハイトスピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4 台のハイトスピーカー:	ハイトスピーカーを 2 組(4 台)使用します。
Dolby スピーカーを使用:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトスピーカーの種類を選択します。

“ハイトスピーカー” の設定が “2 台のハイトスピーカー”、“4 台のハイトスピーカー” または “Dolby スピーカーを使用” のときに選択できます。

【 “ハイトスピーカー” の設定が “2 台のハイトスピーカー” の場合 】

使用するハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1
フロントハイト (お買い上げ時の設定)		フロントハイト
トップフロント		トップフロント
トップミドル		トップミドル
トップリア		トップリア
リアハイト		リアハイト

【 “ハイトスピーカー” の設定が “4 台のハイトスピーカー” の場合 】
使用する 2 組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロントハイト&トップミドル		フロントハイト	トップミドル
フロントハイト&トップリア		フロントハイト	トップリア
フロントハイト&リアハイト		フロントハイト	リアハイト
トップフロント&トップリア (お買い上げ時の設定)		トップフロント	トップリア
トップフロント&リアハイト		トップフロント	リアハイト
トップミドル&リアハイト		トップミドル	リアハイト



【“ハイトスピーカー”の設定が“Dolby スピーカーを使用”の場合】

使用する 2 組のハイトチャンネルを選択します。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1	HEIGHT2
フロント Dolby (お買い上げ時の設定)	フロント Dolby	割り当てません
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	割り当てません
バック Dolby	バック Dolby	割り当てません
フロント Dolby&トップリア	フロント Dolby	トップリア
フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
フロントハイト&S.Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
トップフロント&S.Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
フロント Dolby&S.Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “7.1ch + ZONE2” のときの詳細設定

“アサインモード” が “7.1ch + ZONE2” のときは、次の項目を設定してください。

□ ゾーン2用スピーカー

ゾーン2の音声を出力するスピーカー端子を選択します。
ゾーン2用に選択したスピーカー端子のチャンネルは、メインゾーンでは出力できません。

FRONT WIDE/ HEIGHT2 (お買い上げ時の設定):	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子からゾーン2の音声を出力します。
HEIGHT1:	HEIGHT1 スピーカー端子からゾーン2の音声を出力します。
SURROUND BACK:	SURROUND BACK スピーカー端子からゾーン2の音声を出力します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“ゾーン2用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択できます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “7.1ch + ZONE3” のときの詳細設定

“アサインモード” が “7.1ch + ZONE3” のときは、次の項目を設定してください。

□ ゾーン3用スピーカー

ゾーン3の音声を出力するスピーカー端子を選択します。
ゾーン3用に選択したスピーカー端子のチャンネルは、メインゾーンでは出力できません。

FRONT WIDE/ HEIGHT2 (お買い上げ時の設定):	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子からゾーン3の音声を出力します。
HEIGHT1:	HEIGHT1 スピーカー端子からゾーン3の音声を出力します。
SURROUND BACK:	SURROUND BACK スピーカー端子からゾーン3の音声を出力します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“ゾーン3用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択できます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “7.1ch + ZONE2/3-MONO” のときの詳細設定

“アサインモード” が “7.1ch + ZONE2/3-MONO” のときは、次の項目を設定してください。

□ ゾーン 2/3 用スピーカー

ゾーン 2 およびゾーン 3 の音声を出力するスピーカー端子を選択します。

ゾーン 2/ゾーン 3 用に選択したスピーカー端子のチャンネルは、メインゾーンでは出力できません。

FRONT WIDE/ HEIGHT2	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子の L チャンネルからゾーン 2、R チャンネル（お買い上げ時の設定）：からゾーン 3 の音声を出力します。
HEIGHT1：	HEIGHT1 スピーカー端子の L チャンネルからゾーン 2、R チャンネルからゾーン 3 の音声を出力します。
SURROUND BACK：	SURROUND BACK スピーカー端子の L チャンネルからゾーン 2、R チャンネルからゾーン 3 の音声を出力します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“ゾーン 2/3 用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択できます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト （お買い上げ時の設定）	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “7.1ch(Bi-Amp)” のときの詳細設定

“アサインモード” が “7.1ch(Bi-Amp)” のときは、次の項目を設定してください。

□ バイアンプ用スピーカー

フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用するスピーカー端子を選択します。

バイアンプ用に選んだスピーカー端子のチャンネルは、メインゾーンでは出力できません。

FRONT WIDE/ HEIGHT2	FRONT スピーカー端子と FRONT WIDE/ HEIGHT2 スピーカー端子を使用してバイア (お買い上げ時の設定): ンプ接続をします。
HEIGHT1:	FRONT スピーカー端子と HEIGHT1 ス ピーカー端子を使用してバイアンプ接続をし ます。
SURROUND BACK:	FRONT スピーカー端子と SURROUND BACK スピーカー端子を使用してバイア ンプ接続をします。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“バイアンプ用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/
HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択で
きます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “9.1ch/2ch Front” のときの詳細設定

“アサインモード” が “9.1ch/2ch Front” のときは、次の項目を設定してください。

□ 2チャンネル再生用スピーカー

2チャンネル再生専用のフロントスピーカーを接続するスピーカー端子を選択します。

FRONT WIDE/ HEIGHT2	“FRONT WIDE/HEIGHT2” スピーカー端子に 2 チャンネル再生専用のフロントスピーカーを接続します。
HEIGHT1:	HEIGHT1 スピーカー端子に 2 チャンネル再生専用のフロントスピーカーを接続します。
SURROUND BACK:	SURROUND BACK スピーカー端子に 2 チャンネル再生専用のフロントスピーカーを接続します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“2チャンネル再生用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択できます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “7.1ch + Front B” のときの詳細設定

“アサインモード” が “7.1ch + Front B” のときは、次の項目を設定してください。

□ フロント B 用スピーカー

2 台目のフロントスピーカーを接続するスピーカー端子を選択します。

FRONT WIDE/ HEIGHT2	FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子に 2 台目のフロントスピーカーを接続します。 (お買い上げ時の設定)：す。
HEIGHT1:	HEIGHT1 スピーカー端子に 2 台目のフロントスピーカーを接続します。
SURROUND BACK:	SURROUND BACK スピーカー端子に 2 台目のフロントスピーカーを接続します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトチャンネルを選択します。

“フロント B 用スピーカー” の設定が “FRONT WIDE/HEIGHT2” または “SURROUND BACK” のときに選択できます。

音声出力端子 選択項目	HEIGHT1
無し	ハイトチャンネルを使用しません
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト
フロント Dolby	フロント Dolby
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby



■ “アサインモード” が “Dolby Atmos” のときの 詳細設定

“アサインモード” が “Dolby Atmos” のときは、次の項目を設定してください。

□ レイアウト

Dolby Atmos 再生をおこなうスピーカー配置を選択します。

7.1ch + 4 ハイト:	サラウンドバックチャンネルを含む 7.1 チャンネルのレイアウトに、トップフロントスピーカーとトップリアスピーカーを加えた配置です。トップフロントスピーカーは HEIGHT1 スピーカー端子に接続し、トップリアスピーカーを HEIGHT2 のブリアウト端子に外部のパワーアンプを使用して接続してください。
7.1ch + 2 ハイト (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックチャンネルを含む 7.1 チャンネルのレイアウトに、トップミドルスピーカーを加えた配置です。トップミドルスピーカーは HEIGHT1 スピーカー端子に接続してください。
5.1ch + 4 ハイト:	基本の 5.1 チャンネルレイアウトに、トップフロントスピーカーとトップリアスピーカーを加えた配置です。トップフロントスピーカーは HEIGHT1 スピーカー端子に、トップリアスピーカーを FRONT WIDE/HEIGHT2 スピーカー端子に接続してください。
5.1ch + 2 ハイト:	基本の 5.1 チャンネルレイアウトに、トップミドルスピーカーを加えた配置です。トップミドルスピーカーは HEIGHT1 スピーカー端子に接続してください。



フロントハイト、リアハイト、Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して、Dolby Atmos 再生をおこなう場合は、“アサインモード”を“11.1ch”または“9.1ch”に設定してください。



■ “アサインモード” の設定が “プリアンプ” のときの詳細設定

“アサインモード” が “プリアンプ” のときは、次の項目を設定してください。

□ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトスピーカーの数を選択します。

無し:	ハイトスピーカーを使用しません。
2 台のハイトスピーカー (お買い上げ時の設定):	ハイトスピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4 台のハイトスピーカー:	ハイトスピーカーを 2 組(4 台)使用します。
Dolby スピーカーを使用:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトスピーカーの種類を選択します。

【 “ハイトスピーカー” の設定が “2 台のハイトスピーカー” の場合 】

使用するハイトチャンネルを選択します。

選択項目 \ 音声出力端子	HEIGHT1
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト



【“ハイトスピーカー”の設定が“4台のハイトスピーカー”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	フロントハイト	トップミドル
フロントハイト&トップリア	フロントハイト	フロントハイト	トップリア
フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	フロントハイト	リアハイト
トップフロント&トップリア (お買い上げ時の設定)	トップフロント	トップフロント	トップリア
トップフロント&リアハイト	トップフロント	トップフロント	リアハイト
トップミドル&リアハイト	トップミドル	トップミドル	リアハイト

【“ハイトスピーカー”の設定が“Dolby スピーカーを使用”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロント Dolby (お買い上げ時の設定)	フロント Dolby	フロント Dolby	割り当てません
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	割り当てません
バック Dolby	バック Dolby	バック Dolby	割り当てません
フロント Dolby&トップリア	フロント Dolby	フロント Dolby	トップリア
フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	フロント Dolby	リアハイト
フロントハイト&S.Dolby	フロントハイト	フロントハイト	サラウンド Dolby
フロントハイト&バック Dolby	フロントハイト	フロントハイト	バック Dolby
トップフロント&S.Dolby	トップフロント	トップフロント	サラウンド Dolby
トップフロント&バック Dolby	トップフロント	トップフロント	バック Dolby
フロント Dolby&S.Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
フロント Dolby&バック Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	バック Dolby



■ “アサインモード” の設定が “カスタム” のときの 詳細設定

“アサインモード” が “カスタム” のときは、次の項目を設定してください。

□ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトスピーカーの数を選択します。

無し:	ハイトスピーカーを使用しません。
2 台のハイトスピーカー (お買い上げ時の設定):	ハイトスピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4 台のハイトスピーカー:	ハイトスピーカーを 2 組(4 台)使用します。
Dolby スピーカーを使用:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。

□ ハイトレイアウト

使用するハイトスピーカーの種類を選択します。

【 “ハイトスピーカー” の設定が “2 台のハイトスピーカー” の場合 】

使用するハイトチャンネルを選択します。

選択項目 \ 音声出力端子	HEIGHT1
フロントハイト (お買い上げ時の設定)	フロントハイト
トップフロント	トップフロント
トップミドル	トップミドル
トップリア	トップリア
リアハイト	リアハイト



【“ハイトスピーカー”の設定が“4台のハイトスピーカー”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	フロントハイト	トップミドル
フロントハイト&トップリア	フロントハイト	フロントハイト	トップリア
フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	フロントハイト	リアハイト
トップフロント&トップリア (お買い上げ時の設定)	トップフロント	トップフロント	トップリア
トップフロント&リアハイト	トップフロント	トップフロント	リアハイト
トップミドル&リアハイト	トップミドル	トップミドル	リアハイト

【“ハイトスピーカー”の設定が“Dolby スピーカーを使用”の場合】

使用する2組のハイトチャンネルを選択します。

選択項目	音声出力端子	HEIGHT1	HEIGHT2
フロント Dolby (お買い上げ時の設定)	フロント Dolby	フロント Dolby	割り当てません
サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	割り当てません
バック Dolby	バック Dolby	バック Dolby	割り当てません
フロント Dolby&トップリア	フロント Dolby	フロント Dolby	トップリア
フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	フロント Dolby	リアハイト
フロントハイト&S.Dolby	フロントハイト	フロントハイト	サラウンド Dolby
フロントハイト&バック Dolby	フロントハイト	フロントハイト	バック Dolby
トップフロント&S.Dolby	トップフロント	トップフロント	サラウンド Dolby
トップフロント&バック Dolby	トップフロント	トップフロント	バック Dolby
フロント Dolby&S.Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
フロント Dolby&バック Dolby	フロント Dolby	フロント Dolby	バック Dolby



□ 設定

選択したスピーカー端子から出力する信号を選びます。

- CENTER のスピーカー端子は“センター” および “無し”のみ設定できます。
- SURROUND のスピーカー端子は“サラウンド” および “無し”のみ設定できます。
- HEIGHT1 のスピーカー端子は使用しません。

■ 端子の接続確認

“アンプの割り当て” で設定した内容に対して、スピーカー端子やプリアウト端子の接続方法をメニュー画面に表示します。

スピーカー構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選択します。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大 (お買い上げ時の設定):	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
-------------------	----------------------------

小:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
----	------------------------------



- “サブウーハー” の設定が “無し” の場合、“フロント” の設定は自動的に “大” になります。
- “フロント” の設定が “小” の場合、“フロント” 以外を “大” に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
----	----------------------------

小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
-------------------	------------------------------

無し:	センタースピーカーを使用しません。
-----	-------------------



■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

2 台:	サブウーハーを 2 台使用します。
1 台 (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを 1 台使用します。
無し:	サブウーハーを使用しません。



“サブウーハー”を“無し”に設定しているときに、“フロント”を“小”に設定すると、“サブウーハー”の設定は自動的に“1 台”になります。

■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドスピーカーを使用しません。



“サラウンド”の設定が“無し”のとき“S.バック”、“フロントワイド”、“サラウンド Dolby”および“バック Dolby”の設定は自動的に“無し”になります。

■ S.バック

サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドバックスピーカーを使用しません。

2 台 (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを 2 台使用します。
1 台:	サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACK の L 端子に接続してください。



“S.バック”が“無し”または“1 台”のときは、“バック Dolby”は自動的に“無し”になります。



■ フロントワイド

フロントワイドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントワイドスピーカーを使用しません。

■ フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントハイトスピーカーを使用しません。

■ トップフロント

トップフロントスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップフロントスピーカーを使用しません。

■ トップミドル

トップミドルスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップミドルスピーカーを使用しません。



■ トップリア

トップリアスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップリアスピーカーを使用しません。

■ リアハイト

リアハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	リアハイトスピーカーを使用しません。

■ フロントDolby

フロントドルビースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントドルビースピーカーを使用しません。

■ サラウンドDolby

サラウンドドルビースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドドルビースピーカーを使用しません。



■ バック Dolby

バックドルビースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	バックドルビースピーカーを使用しません。



“アンプの割り当て”で Height1 に割り当てたスピーカーを“無し”に設定した場合、Height2 は自動的に“無し”になります。

距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル (お買い上げ時の設定)

フィート

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m (お買い上げ時の設定) / 0.01 m

1 ft / 0.1 ft

■ 初期化

“距離”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。



■ 距離を設定します

0.00 m～18.00 m / 0.0 ft～60.0 ft



- メニューの“アンプの割り当て” および “スピーカー構成” の設定により、選択できるスピーカーが異なります。(参照 214、234 ページ)
- お買い上げ時の設定：
フロント左 / フロント右 / F.ハイト左 / F.ハイト右 / F.ワイド左 / F.ワイド右 / センター / サブウーハー 1 / サブウーハー 2: 3.60 m (12.0 ft)
上記以外のスピーカー: 3.00 m (10.0 ft)
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 m (20.0 ft) 以下になるように設定してください。

レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

-12.0 dB～+12.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0 dB)



- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”で設定してください。(参照 126 ページ)
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。



クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーの選択方法

クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。

すべて (お買い上げ時の設定):	すべてのスピーカーに対して同じクロスオーバー周波数を設定します。
スピーカー別:	スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- “クロスオーバー周波数”は、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。(P.241 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常“80 Hz”に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が250Hz～20kHzの場合は、“250 Hz”に設定してください。
- “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- メニューの“サブウーハーモード”の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。(P.241 ページ)
- “LFE”の場合は、“スピーカー構成”で“小”に設定しているスピーカーの設定ができます。“大”に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。(P.234 ページ)
- “LFE+メイン”の場合は、“スピーカー構成”の設定に関係なく設定ができます。(P.234 ページ)



低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE (お買い上げ時の設定):	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。



- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカー構成” - “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(P.235 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカー構成” - “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声出力されない場合があります。常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。(P.234 ページ)

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz /
200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A (お買い上げ時の設定):	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。



“アサインモード” が “Front B” のときに設定できます。(P.214 ページ)

2 チャンネル再生の設定

2 チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。

■ 設定

2 チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。

オート “スピーカー” の設定内容を適用します。
(お買い上げ時の設定): (P.203 ページ)

マニュアル: 2 チャンネル再生用のスピーカーの設定をします。この設定を選択した場合は、次の設定をおこなってください。



■ フロント

2 チャンネル再生用のフロントスピーカーの大きさを設定します。

大 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを（お買い上げ時の設定）：使用します。

小 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。



メニューの“スピーカー構成”－“サブウーハー”の設定が“無し”のときは、自動的に“大”になります。(P.235 ページ)

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

有り（お買い上げ時の設定）：サブウーハーを使用します。

無し サブウーハーを使用しません。



メニューの“スピーカー構成”－“サブウーハー”設定が“無し”のときは、自動的に無しになります。(P.235 ページ) また、“フロント”の設定が“小”のときは、自動的に“有り”になります。

■ SW モード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE（お買い上げ時の設定）：“2 チャンネル再生の設定”－“フロント”の設定を“大”に設定した場合は、サブウーハーから LFE 信号のみを出力します。また、“2 チャンネル再生の設定”－“フロント”の設定を“小”に設定した場合は、LFE 信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。

LFE+メイン：LFE 信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。



“2 チャンネル再生の設定”－“サブウーハー”の設定が“有り”のときに設定できます。



■ クロスオーバー

各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz

(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- “2 チャンネル再生の設定” – “サブウーハー” の設定が “有り” のときに設定できます。
- “2 チャンネル再生の設定” – “フロント” の設定が “大” で、“SW モード” の設定が LFE のときは、“フルバンド” が表示され、設定できません。

■ 距離フロント左/距離フロント右

メインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を設定します。

0.00 m~18.00 m(お買い上げ時の設定: 3.60 m) /
0.0 ft~60.0 ft(お買い上げ時の設定: 12.0 ft)



各スピーカーに設定した距離の差は、6.00m(20.0ft) 以下になるように設定してください。

■ レベル FL/レベル FR

各チャンネルのレベルを調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0dB)



ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。DHCP でホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。各機器に IP アドレスを手動で割り当てている場合は、“IP アドレス”の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP / IP アドレス /
MAC アドレス



MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成時に必要です。

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから“有線(イーサネット)”を選択してください。無線 LAN でネットワークに接続する場合、“無線(Wi-Fi)”を選び、“Wi-Fi 設定”を設定してください。

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を選択します。

有線(イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線(Wi-Fi):	無線 LAN(Wi-Fi)機能を使用して、ネットワークに接続します。



次の設定をおこなうと、本機の Wi-Fi 機能を無効にできます。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ◀ と ▶ を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“*Video Format <NTSC>”を表示します。
2. 本体の ▽ を押して、“*Wired LAN <Unlock>”を表示させる。
3. 本体の ◀ または ▶ を押して、“<Lock>”を選ぶ。
4. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。



Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルータとの接続をおこないます。
ルータとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

1. 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選ぶ。
2. パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス (iPhone/iPod/iPad) を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

本機と iOS デバイスの接続のしかたは、USB ケーブルを使用する方法と、無線を使用する方法があります。

□ 無線で接続する場合

1. テレビ画面で“無線接続”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルータに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある“新しい AIRPLAY スピーカーを設定...”から“Denon AVR-X7200W”を選ぶ。
3. iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。



iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 7 以降に対応している必要があります。

□ USB ケーブルを使用する場合

1. テレビ画面で“USB ケーブル”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルータに接続していることを確認し、USB ケーブルでフロントパネルの USB 端子に接続する。
3. テレビ画面で“接続”を選ぶ。
4. iOS デバイスの画面に接続のメッセージが表示されたら、“許可”をタップする。



iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 5 以降に対応している必要があります。



■ WPS ルーター

WPS に対応したルーターを使用して接続します。

接続のしかたには、プッシュボタン方式と PIN コード方式があります。お手持ちのルーターに合わせて、接続方法を選択してください。

□ プッシュボタン方式で接続する場合

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
 - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

□ PIN コード方式で接続する場合

1. テレビ画面で“PIN”を選ぶ。
2. 本機の PIN コードをルーターに登録する。

■ マニュアル

接続したいネットワーク名 (SSID) やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名 (SSID) を入力します。
セキュリティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。
	デフォルトキーを選択します。
デフォルトキー:	“デフォルトキー” は、“WEP” で暗号化されているネットワークに接続する場合に表示します。

2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。



無線 LAN 対応のパソコンやタブレットから、本機の無線 LAN (Wi-Fi) の設定をおこなうこともできます。

ファームウェアのバージョンが iOS 7 以降の機器をご使用になる場合は、“iOS を使用”の「無線で接続する場合」(P. 246 ページ)でおこなってください。

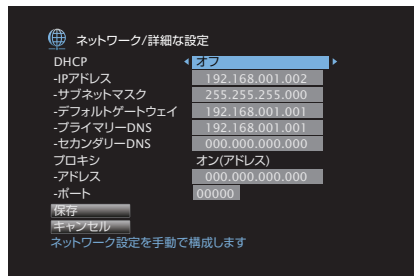
1. 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と STATUS を 3 秒以上長押しする。
2. ディスプレイに“Wi-Fi 機器の Wi-Fi ネットワーク一覧から、“Denon AVR-X7200W”を選んでください。”と表示されたら、ご使用のパソコンやタブレットの無線 LAN を“Denon AVR-X7200W”に接続する。
3. ブラウザを起動し、URL に“192.168.1.16”を入力する。
4. ブラウザを使用して設定を入力し、“接続”を選び、設定を終了する。



詳細な設定

IP アドレスやプロキシの設定をします。

- ブロードバンドルータ(DHCP 機能)をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。
- プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシの設定をしてください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を選択します。

オン ご使用のルータから自動的にネットワーク設定をおこないます。

オフ: 手でネットワークの設定をします。

■ IP アドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。

CLASS A: 10.0.0.1～10.255.255.254

CLASS B: 172.16.0.1～172.31.255.254

CLASS C: 192.168.0.1～192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 を入力します。

■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ(ルータ)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ プライマリー DNS、セカンダリー DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリー DNS”に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリー DNS”に入力してください。



■ プロキシ

インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。

プロキシの設定は、契約しているプロバイダや社内のネットワークなどプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合のみおこなってください。

オン(アドレス):	アドレスで入力する場合に選択します。
オン(ネーム):	ドメイン名で入力する場合に選択します。
オフ (お買い上げ時の設定):	プロキシサーバーを無効にします。

■ ポート

ポート番号を入力します。



- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。(76 ページ)
- インターネットの接続についてわからない場合は、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

IPコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ (お買い上げ時の設定):	スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。
常時オン:	スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。



ウェブコントロール機能や Denon Remote App(デノン・リモート・アプリ)をご使用になる場合は、“IP コントロール”の設定を“常時オン”にしてご使用ください。

ご注意

“IP コントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。



フレンドリーネーム

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みで変更できます。

■ フレンドリーネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。

“その他”を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room / Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den / Office / その他



- 63 文字まで入力できます。
文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.168 ページ)をご覧ください。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、“Denon AVR-X7200W”です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームをお買い上げ時の設定に戻します。

診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK

エラー: LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。



無線 LAN で接続している場合は、“接続 無線 (Wi-Fi)”を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルータまでの通信の確認をします。

OK

エラー: ルータとの通信に失敗しました。ルータの設定を確認してください。

■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK

エラー: インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続環境またはルータの設定を確認してください。



メンテナンスモード

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。

ご注意

当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみ使用してください。



一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English(お買い上げ時の設定: 日本語)



“言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ◀ と ▶ を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “*Video Format <NTSC>” を表示します。
2. 本体の ▽ を押す。
ディスプレイに “*GUI Language <JAPANESE>” を表示します。
3. 本体の ◀ または ▶ を押して、言語を設定する。
4. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力を低減できます。

オン: 消費電力を低減します。

オート: 音量に合わせて、自動的に消費電力を低減します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 消費電力を低減しません。



- 大音量で音声を出力したいときは、“エコモード”を“オフ”に設定することをおすすめします。
- リモコンの ECO 〻 を押しても、エコモードを切り替えることができます。



■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

前回の設定

(お買い上げ時の設定): 前回電源をオフにする前の設定になります。

オン: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。

オート: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。

オフ: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。

■ オンスクリーン表示

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン: テレビ画面に常にメーターを表示します。

オート モードの変更時や音量の変更時にメーターを
(お買い上げ時の設定): 表示します。

オフ: メーターを表示しません。

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

□ メインゾーン

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。

スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60分: 約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。

30分: 約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。

15分: 約 15 分後に本機をスタンバイ状態にします。

オフ

(お買い上げ時の設定): 自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

□ ゾーン2 / ゾーン3

音声や映像の入力があっても、何も操作が無い状態が続いたとき、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8時間: 約 8 時間後にゾーン2/ゾーン3をスタンバイ状態にします。

4時間: 約 4 時間後にゾーン2/ゾーン3をスタンバイ状態にします。

2時間: 約 2 時間後にゾーン2/ゾーン3をスタンバイ状態にします。

オフ

自動的にゾーン2/ゾーン3をスタンバイ状態にしません。
(お買い上げ時の設定):



ゾーン2の設定 / ゾーン3の設定

ゾーン2 およびゾーン3 で再生する音声の設定をします。



“音量の上限” および “電源オン時の音量” の設定値は、音量の “表示方法” の設定に合わせて表示します。(P.177 ページ)

■ 低音

低音を調節します。

-10 dB～+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 高音

高音を調節します。

-10 dB～+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ ハイパスフィルター

低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。

オン: 低域成分をカットして出力します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 低域成分をカットしません。

■ 左レベル

左チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB～+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 右レベル

右チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB～+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ チャンネル

ステレオで再生するかモノラルで再生するかを設定します。

ステレオ
(お買い上げ時の設定): ステレオで再生します。

モノラル: モノラルで再生します。

■ HDMI オーディオ (ゾーン2のみ)

ゾーン2 で HDMI ソースを再生するための音声信号形式を選択します。

無変換
(お買い上げ時の設定): 本機に入力した HDMI 音声信号のまま、ゾーン2 の機器に出力します。

PCM:
本機に入力した HDMI 音声信号を、ゾーン2 のプリアウト端子やスピーカー端子から出力できるように PCM 信号に変換して再生します。



■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変 (お買い上げ時の設定):	音量の調節ができます。
1 - 98 (-79.5 dB - 18.0 dB):	音量をお好みのレベルに固定します。 リモコンで音量の調節はできません。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60 (-20 dB) / 70 (-10 dB) / 80 (0 dB)
(お買い上げ時の設定: 70 (-10 dB))

オフ: 音量の上限を設定しません。



メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。
([P.255 ページ](#))

■ 電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

前回の音量
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98
(-79.5 dB - 18.0 dB): 設定した音量になります。



メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。
([P.255 ページ](#))

■ ミューティングレベル

ミュート時の音量の減衰量を設定します。

消音
(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 下げて再生します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 下げて再生します。



ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3

初期化: 編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。



10 文字まで入力できます。

文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(168 ページ)をご覧ください。

クイックセレクト名の変更

テレビ画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更します。

Quick Select 1 / Quick Select 2 / Quick Select 3 / Quick Select 4

初期化: 編集したクイックセレクト名がお買い上げ時の設定に戻ります。



16 文字まで入力できます。

文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(168 ページ)をご覧ください。

リモコン ID

本機のリモコンで、他の Denon 製 AV アンプが動作してしまうときに設定します。ご使用になるリモコンと本機のリモコン ID を合わせてください。

■ 設定のしかた

- 1 ZONE SELECT を押して、ゾーンモードを切り替える。
 表示が点灯します。
- 2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 3 $\Delta \nabla$ を押して “一般” を選び、ENTER を押す。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して “リモコン ID” を選び、ENTER を押す。
- 5 リモコン本体の ID を変更する。(279 ページ)
- 6 ENTER を押す。
本体のリモコン ID とリモコンで設定した ID を同じ ID に設定します。



トリガーアウト1 / トリガーアウト2

トリガーアウトを動作させる条件を選びます。

トリガーアウトの接続方法については、「トリガー出力端子」(P.79 ページ)をご覧ください。

□ ゾーン(メインゾーン/ゾーン2/ゾーン3)に対して設定するとき

“オン” に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。

□ 入力ソースに対して設定するとき

“オン” に設定された入力ソースを選択したときにトリガーアウトが動作します。

□ HDMI モニターに対して設定するとき

“オン” に設定された HDMI モニターを選択したときに、トリガーアウトが動作します。

オン:	出力の条件にします。
---:	出力の条件にしません。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ ディスプレイの明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常 (お買い上げ時の設定):	通常の明るさです。
薄暗い:	薄暗くします。
暗い:	暗くします。
消灯:	ディスプレイを消灯します。



本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。

■ チャンネルインジケーター

ディスプレイのチャンネル表示を入力信号表示にするか、出力信号表示にするか設定します。

入力:	ディスプレイのチャンネル表示を入力信号表示として使用します。
出力	ディスプレイのチャンネル表示を出力信号表示として使用します。



情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード:	設定しているサウンドモード
入力信号:	入力信号の種類
フォーマット:	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFEの有無)
サンプリング周波数:	入力信号のサンプリング周波数
オフセット:	ダイアログノーマライゼーションの補正値
フラグ:	サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が DTS-ES Matrix のときは "MATRIX"、DTS-ES Discrete 信号などのときは "DISCRETE" を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

HDMI 信号情報

解像度 / カラースペース / ビット数

HDMI モニター 1 / HDMI モニター 2

インターフェース / 対応解像度

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

メインゾーン:	メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。
ゾーン 2:	ゾーン 2 の設定状態を表示します。
ゾーン 3:	ゾーン 3 の設定状態を表示します。



■ ファームウェア

バージョン：現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。

アップデート (DTS:X)

DTS バージョン：現在の DTS バージョンを表示します。



“DTS バージョン” は、ファームウェアアップデートで DTS:X に対応した後に表示します。

■ お知らせ

お知らせを表示します。

また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかしないかを設定します。

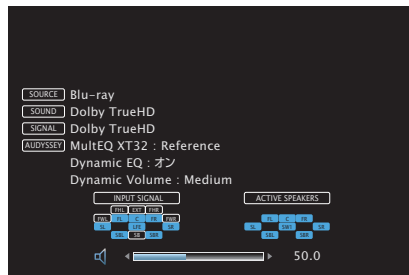
お知らせの表示

オン
(お買い上げ時の設定)： 通知メッセージを表示します。

オフ 通知メッセージを表示しません。



INFO を押すと、現在のソース名、音量、サウンドモード名などを画面下側に表示します。



使用状況の送信設定

当社は今後の製品の改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。

送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善の目的のためにのみ利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい: 本機の使用状況を情報提供します。

いいえ: 本機の使用状況を情報提供しません。

ファームウェア

アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新を実施します。また、アップデートとアップグレードの通知メッセージの表示の設定をします。

■ アップデート

ファームウェアをアップデートします。

アップデートの確認: ファームウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のよいそのアップデート時間を確認できます。

アップデート開始: アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。



アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、次のいずれかのメッセージをディスプレイに表示します。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ表示	説明
Updating fail	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。



■ お知らせ POPUP

最新のファームウェアがリリースされている場合、電源をオンにしたときに本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。
通知メッセージは、電源をオンにしたときに約 40 秒間表示します。

アップデート

オン (お買い上げ時の設定):	アップデートの通知を表示します。
オフ:	アップデートの通知を表示しません。

アップグレード

オン (お買い上げ時の設定):	アップグレードの通知を表示します。
オフ:	アップグレードの通知を表示しません。

■ 新機能の追加

本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。

アップグレード パッケージ: アップグレードする項目を表示します。

アップグレード ステータス: アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。

アップグレード 開始: アップグレードを実行します。
アップグレードを開始すると、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。



- アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。
- お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-----”を表示します。
お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。
本体の △ と INFO を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。
- アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“ファームウェア” - “アップデート”と同様のメッセージを表示します。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。



“アップデート” および “新機能の追加” をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(P.76 ページ)
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまでに、1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータを初期化する場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **電源** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。ディスプレイに “Update Retry” を表示し、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。



“アップデート” および “新機能の追加” に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。

セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン:	設定した内容をロックします。
オフ (お買い上げ時の設定):	設定した内容をロックしません。



設定を解除するときは、“セットアップロック” を “オフ” に設定してください。

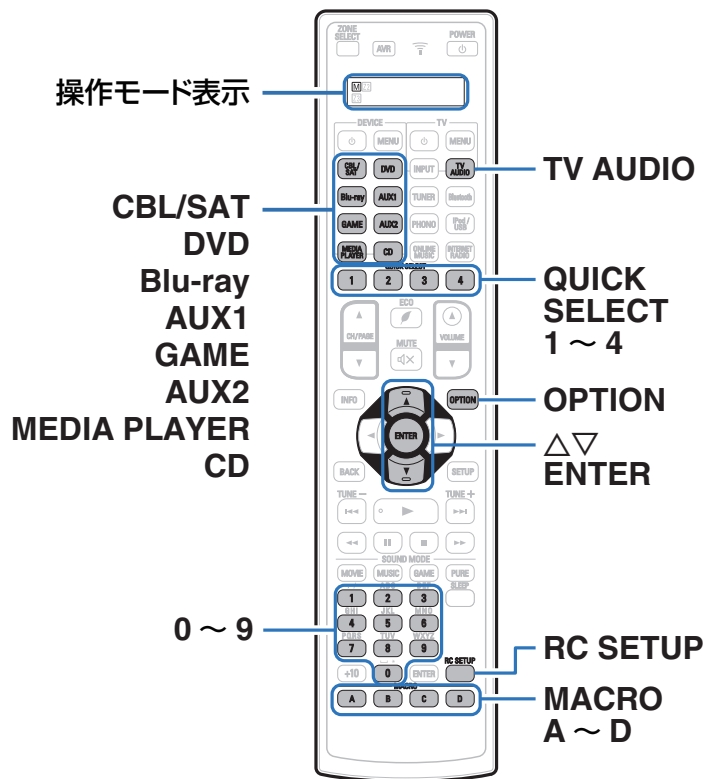
ご注意

“セットアップロック” を “オン” に設定すると、“セットアップロック” 以外の設定項目は表示しません。



リモコンで外部機器を操作する

付属のリモコンに外部機器のプリセットコードを登録すると、お手持ちのテレビやDVD プレーヤーなどの操作がおこなえます。



プリセットコードを登録する

プリセットコードの登録には、Denon 製プレーヤーのプリセットコードを簡単に登録する方法と、各社の機器のプリセット番号を登録する方法があります。

- 「Denon 製プレーヤーの登録方法」(P.264 ページ)
- 「プリセット番号を入力して登録する方法」(P.266 ページ)

■ Denon 製プレーヤーの登録方法

Denon 製のブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーおよび CD プレーヤーは、次の方法で簡単にプリセットコードの登録ができます。

□ ブルーレイディスクプレーヤーを登録する

- 1 リモコンのディスプレイに“OK”表示が点滅するまで、Blu-ray と OPTION を同時に長押しする。

□ DVD プレーヤーを登録する

- 1 リモコンのディスプレイに“OK”表示が点滅するまで、DVD と OPTION を同時に長押しする。

□ CD プレーヤーを登録する

- 1 リモコンのディスプレイに“OK”表示が点滅するまで、CD と OPTION を同時に長押しする。



□ 複数のプレイヤーを同時に登録する

- 1 QUICK SELECT 1～4 のいずれかと OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。

同時に登録したい機器			同時押しするボタン
ブルーレイディスクプレイヤー	DVDプレイヤー	CDプレイヤー	
✓	✓		QUICK SELECT 1 および OPTION
✓		✓	QUICK SELECT 2 および OPTION
	✓	✓	QUICK SELECT 3 および OPTION
✓	✓	✓	QUICK SELECT 4 および OPTION

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。このような場合は、「プリセット番号を入力して登録する方法」(P.266 ページ)をお試しください。



■ プリセット番号を入力して登録する方法

それぞれの入力ソース切り替えボタンに登録可能な機器のグループは、次の表をご覧ください。登録したい機器のプリセット番号は、別ファイル“Remote Control Preset Codes”で、あらかじめ確認してください。

ボタン	登録可能な機器のグループ
	CBL/SAT グループ
	VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ
	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
	CBL/SAT グループ
	VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ
	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
	オーディオグループ
	TV グループ

- 1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。
リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。
- 2 リモコンのディスプレイに“PRSET”が表示されたら、ENTER を押す。
- 3 リモコンのディスプレイに“DEVIC”が表示されたら、プリセット登録したい機器の入力ソース選択ボタン(CBL/SAT、Blu-ray、GAME、MEDIA PLAYER、DVD、AUX1、AUX2 または CD) を押す。
- 4 リモコンのディスプレイに“-----”が表示されたら、0～9 を押して 5 桁のコードを入力する。
ボタンの入力は、30 秒以上の間隔を空けずにおこなってください。
 - 正しく登録できたときは、リモコンのディスプレイに“OK”を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。
 - 正しく登録できなかったときは、リモコンのディスプレイに“FAIL”または“CANCL”を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。手順 1 から操作をやり直してください。





- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- 各ボタンの登録を取り消してお買い上げの状態に戻す場合は、そのボタンに AVR のコード “73347” を設定してください。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。



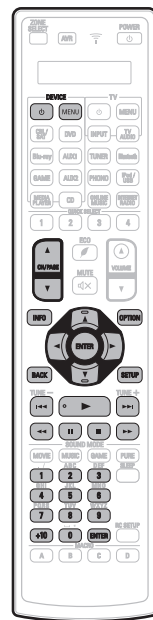
機器を操作する

外部機器を操作するには、プリセットコードを登録した入力ソースボタンを押してから、次の表のボタンを操作してください。



- 外部機器を操作する場合は、リモコンのディスプレイに入力ソース名を表示します。
- TV の操作中は、リモコンのディスプレイに“TV” を表示します。
- 本機のメニュー操作をおこなう場合は、AVR を押してから操作してください。本機を操作中は、リモコンのディスプレイに“AVR” を表示します。

□ CBL/SAT グループの操作 (衛星放送チューナー(SAT)/ケーブルテレビ(CBL)/ メディアプレーヤー/IP テレビ)



操作ボタン	機能
DEVICE	電源オン/オフ
DEVICE MENU	メニュー表示
CH/PAGE	チャンネルの切り替え (アップ/ダウン)
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
	カーソル操作
ENTER(カーソル)	確定
BACK	戻る
SETUP	ホームメニュー
	チャプターのスキップ
	再生
	早戻し/早送り
	一時停止
	停止
0~9, +10	チャンネルの選択
ENTER(数字ボタン)	3桁の数字の確定



DEVICE ボタンは、機器によっては電源オンのみの動作になる場合があります。



□ テレビグループの操作 (TV)



操作ボタン	機能
TV ⏻	テレビの電源のオン/オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TV MENU	テレビのメニュー
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え (アップ/ダウン)
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△ ▽ ◀ ▶	カーソル操作
ENTER (カーソル)	確定
BACK	戻る
SETUP	設定
⏮ ⏭ ⏩ ⏪	チャプターのスキップ
▶	再生
⏮ ⏭ ⏩	早戻し/早送り
⏸	一時停止
■	停止
0~9, +10	チャンネルの選択
ENTER (数字ボタン)	3桁の数字の確定

□ VCR/PVR グループの操作 (ビデオデッキ(VCR))/(デジタルビデオレコーダー (PVR))



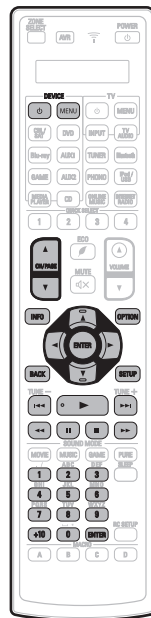
操作ボタン	機能
DEVICE ⏻	電源オン/オフ
DEVICE MENU	メニュー表示
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え (アップ/ダウン)
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△ ▽ ◀ ▶	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	戻る
SETUP	設定
⏮ ⏭ ⏩ ⏪	チャプターのスキップ
▶	再生
⏮ ⏭ ⏩	早戻し/早送り
⏸	一時停止
■	停止
0~9, +10	タイトルまたはチャプターの選択/ チャンネルの選択



- DEVICE **⏻** ボタンおよび TV **⏻** は機器によっては、電源オフができない場合があります。
- TV **⏻** および TV INPUT ボタンは、TV ボタンを押さなくても操作できます。



□ BD/DVD グループの操作 (ブルーレイディスクプレーヤー/HD DVD プレーヤー/ DVD プレーヤー/DVD レコーダー)



操作ボタン	機能
DEVICE	電源オン/オフ
DEVICE MENU	(ポップアップ)メニュー表示
CH/PAGE	チャンネルの切り替え (アップ/ダウン)
INFO	情報表示
OPTION	トップメニュー
	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	戻る
SETUP	設定、ホームメニュー
	チャプターのスキップ
	再生
	早戻し/早送り
	一時停止
	停止
0~9, +10	タイトルまたはチャプターの選択/ チャンネルの選択

□ オーディオグループの操作 (CD プレーヤー/CD レコーダー)



操作ボタン	機能
DEVICE	電源オン/オフ
INFO	情報表示
	カーソル操作
ENTER	確定
	曲のスキップ
	再生
	早戻し/早送り
	一時停止
	停止
0~9, +10	トラックの選択



DEVICE ボタンは、機器によっては電源オンのみの動作になる場合があります。(Denon モデルにおいても、機器によっては電源オンのみの操作になるものがあります。)



学習機能进行操作する

お手持ちの AV 機器が Denon 以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させて使用することができます。

■ 他機のリモコンコードを記憶させる

1 RC SETUP を 3 秒以上長押する。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

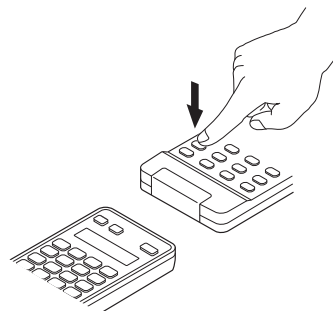
2 Δ を押してリモコンのディスプレイに “LEARN” を表示させ、ENTER を押す。

3 リモコンのディスプレイに “DEVIC” が表示されたら、記憶させたい機器の入力ソース選択ボタンを押す。

- AVR ボタンにリモコンコードを記憶させることはできません。
- 各入力ソース切り替えボタンに AVR プリセット以外のモードをプリセット登録してから学習機能を使用してください。
(「プリセットコードを登録する」[\(P.264 ページ\)](#))

4 リモコンのディスプレイに “KEY” が表示されたら、記憶させたいボタンを押す。

5 リモコンのディスプレイに “READY” が表示されたら、本機のリモコンと他機のリモコンをまっすぐに向かい合わせ、記憶させたい他機のリモコンボタンを長押しする。



- 正しく記憶できた場合は、リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示します。
- 正しく記憶できなかった場合は、リモコンのディスプレイに “FAIL” を 4 回点滅表示します。このような場合は、再度手順 4 をおこなってください。



6 他にも記憶させたいボタンがある場合は、手順 4、5 をくり返しおこなう。

7 リモコンコードの記憶が終わったら、RC SETUP を押す。

リモコンのディスプレイに“OK”を4回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。



- リモコンによっては、記憶できない場合や記憶できても正しく動作しない場合があります。このような場合は、機器の専用リモコンを使用してください。
- 記憶させたボタンは、プリセットメモリーよりも優先して動作します。不要な場合は、学習内容を初期化してください。(P.273 ページ)
- 記憶できるボタン数は、記憶させるリモコンによって変わります。記憶できるボタン数がいっぱいの場合は、リモコンのディスプレイに“FAIL”を表示します。

ご注意

ZONE SELECT、RC SETUP、POWER 、QUICK SELECT 1～4、ECO、SOUND MODE、SLEEP、MACRO A～D および入力ソース選択ボタンにリモコンコードを記憶させることはできません。



■ 記憶させたリモコンコードを初期化する

□ ボタンごとにリモコンコードを初期化する

- 1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。
リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “RESET” を表示させ、ENTER を押す。
- 3 リモコンのディスプレイに “LEARN” が表示されたら、ENTER を押す。
- 4 リモコンのディスプレイに “DEVIC” が表示されたら、初期化したい入力ソース選択ボタンを押す。
- 5 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “ONE” を表示させ、ENTER を押す。
- 6 “KEY” が表示されたら、初期化したいボタンを押す。
リモコンのディスプレイに “RESET” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

□ 機器のモードごとにリモコンコードを初期化する

- 1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。
リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “RESET” を表示させ、ENTER を押す。
- 3 リモコンのディスプレイに “LEARN” が表示されたら、ENTER を押す。
- 4 リモコンのディスプレイに “DEVIC” が表示されたら、初期化したい入力ソース選択ボタンを押す。
- 5 “ALL” が表示されたら、ENTER を押す。
リモコンのディスプレイに “RESET” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。



マクロ機能进行操作する

- マクロ機能を使用すると、通常複数回のボタン操作を必要とする複雑な一連の操作を MACRO ボタンを 1 度押すだけですべての操作がおこなえるようになります。
- 本機では 4 つのマクロを記憶させることができます。
- MACRO ボタン一つに対して、それぞれ最大 18 ステップの操作まで記憶させることができます。

【例】

MACRO ボタンに次の一連の操作を登録すると、MACRO ボタンを押すだけでテレビと本機の電源をオンにし、ブルーレイディスクプレーヤーを再生します。

① テレビの電源を入れる。



② 本機の電源を入れる。



③ 本機の入力ソースを“Blu-ray”に切り替える。



④ ブルーレイディスクプレーヤーの電源を入れる。



⑤ ブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ オートマクロ操作を登録する

お使いのシーンに合わせ、自動的にマクロの設定をおこなうことができます。

1. 映画を見る(MOVIE)
2. 音楽を聴く(MUSIC)
3. テレビ (CBL/SAT) を見る(WATCH)
4. すべての電源を入れる(ON)
5. すべての電源を落とす(OFF)

ご注意

- オートマクロの設定は、リモコンコードをプリセット登録したあとにおこなってください。(P.264 ページ)
- お手持ちの機器の形式や年式によっては、マクロの設定をしても正しく動作しない場合があります。



- 1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。
リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MACRO” を表示させ、ENTER を押す。
- 3 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “AUTO” を表示させ、ENTER を押す。
- 4 リモコンのディスプレイに “MCNo” が表示されたら、オートマクロを登録する MACRO A～D のいずれかのボタンを押す。
- 5 $\Delta\nabla$ を押して設定したいオートマクロの操作を選び、ENTER を押す。
リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンの ディスプレイ表示	オートマクロ
MOVIE	映画を観るときに、機器の電源を自動的にオンにし、再生をはじめます。 テレビの電源を入れる ブルーレイディスクプレーヤーの電源を入れる アンプの電源を入れる 入力ソースを “Blu-ray” に切り替える ブルーレイディスクを再生する
MUSIC	音楽を聴くときに、機器の電源を自動的にオンにし、再生をはじめます。 CD プレーヤーの電源を入れる アンプの電源を入れる 入力ソースを “CD” に切り替える CD を再生する
WATCH	テレビ (CBL/SAT) を見るときに、機器の電源を自動的にオンにし、再生をはじめます。 テレビの電源を入れる 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの電源を入れる アンプの電源を入れる 入力ソースを “CBL/SAT” に切り替える
ON	プリセットで設定したすべての機器の電源をオンします。 すべての機器の電源を入れる
OFF	プリセットで設定したすべての機器の電源をオフします。 すべての機器の電源を切る



■ お好みに合わせて手動でマクロ操作を登録する

- 1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。
リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。
- 2 $\Delta \nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MACRO” を表示させ、ENTER を押す。
- 3 $\Delta \nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MAN” を表示させ、ENTER を押す。
- 4 リモコンのディスプレイに “MCNo” が表示されたら、マクロを登録する MACRO A～D のいずれかのボタンを押す。

- 5 記憶したいボタンを順に押す。
リモコンのディスプレイに、記憶時のステップ数と現在の操作モードを交互に表示します。

ご注意

ZONE SELECT ボタンにマクロを記憶させることはできません。

- 6 RC SETUP を押して、登録を終了する。
リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。



■ マクロ操作の送信間隔を調節する

マクロ操作の送信間隔を調節できます。

- お買い上げ時の設定は、“0.50”です。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 $\Delta \nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MACRO” を表示させ、ENTER を押す。

3 $\Delta \nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MAN” を表示させ、ENTER を押す。

4 リモコンのディスプレイに “MCNo” が表示されたら、送信間隔の調節をする MACRO A～D のいずれかのボタンを押す。

5 RC SETUP を押す。

6 $\Delta \nabla$ を押して送信間隔を設定し、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンの ディスプレイ表示	設定時間
0.25	0.25 秒
0.50	0.5 秒
0.75	0.75 秒
1.00	1 秒
1.25	1.25 秒



■ マクロ機能を使用する

マクロを記憶させた MACRO A～D のいずれかのボタンを押す。

■ マクロ機能を初期化する

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “RESET” を表示させ、ENTER を押す。

3 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “MACRO” を表示させ、ENTER を押す。

4 リモコンのディスプレイに “MCNo” が表示されたら、初期化したい MACRO A～D のいずれかのボタンを押す。

リモコンのディスプレイに “RESET” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンを使用するゾーンを指定する

ZONE SELECT ボタンを押したときに、設定したゾーンのみリモコンで操作できるようになります。

• お買い上げ時の設定は、“M23” です。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 $\Delta\nabla$ を押してリモコンのディスプレイに “ZLOCK” を表示させ、ENTER を押す。

3 $\Delta\nabla$ を押して使用するゾーンを設定し、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンの ディスプレイ表示	使用するゾーン
M	メインゾーンのみ
M2	メインゾーン/ ゾーン 2
M23	メインゾーン/ ゾーン 2/ ゾーン 3



リモコン ID を設定する

同じ部屋で Denon 製 AV レシーバーを複数台でご使用の場合に、操作する機器以外の AV レシーバーが動作しないように設定します。

- お買い上げ時の設定は、“ID-1” です。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “RC-ID” を表示させ、ENTER を押す。

3 Δ▽ を押してリモコン ID を設定し、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンのディスプレイ表示	リモコン ID
ID-1	1
ID-2	2
ID-3	3
ID-4	4

ご注意

リモコン ID を変更する場合は、必ずリモコンと本体のリモコン ID を合わせてください。(P.256 ページ)

リモコンディスプレイの表示時間を設定する

リモコンのディスプレイに表示されるゾーンやモードの表示時間を設定します。

- お買い上げ時の設定は、“05SEC” です。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “DISPL” を表示させ、ENTER を押す。

3 Δ▽ を押して表示時間を設定し、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイに “OK” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。

リモコンのディスプレイ表示	表示時間
05SEC	5 秒
10SEC	10 秒
15SEC	15 秒



バックライトを設定する

リモコンのバックライトをオフに設定すると、乾電池の寿命を延ばすことができます。

- お買い上げ時の設定は、“ON” です。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “LIGHT” を表示させ、ENTER を押す。

3 Δ▽ を押してバックライトを設定し、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイ表示	バックライト
ON	バックライト点灯
OFF	バックライト消灯

リモコンの全設定を初期化する

すべての設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

1 RC SETUP を 3 秒以上長押しする。

リモコンのディスプレイに、“SETUP” と  表示が 2 回点滅します。

2 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “RESET” を表示させ、ENTER を押す。

3 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “ALL” を表示させ、ENTER を押す。

4 Δ▽ を押してリモコンのディスプレイに “YES” を表示させ、ENTER を押す。

リモコンのディスプレイに “RESET” を 4 回点滅表示し、通常の操作モードに戻ります。



■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい	282
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい	282
常にサブウーハーから音を出したい	282
映画のせりふを聴きやすくしたい	282
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい	282
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい	282
スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい	283
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい	283
インターネットラジオを聴きながら、Flickr の写真を同時に再生したい	283
使っていない入力ソースを消したい	283
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい	283
ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい	283

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	285
リモコンで操作ができない	286
本機のディスプレイが表示されない	286
音がまったく出ない	287
希望する音が出ない	288
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	291
テレビに映像が映らない	292
テレビにメニュー画面が表示されない	294
iPod が再生できない	295
USB メモリーが再生できない	296
iPod や USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない	297
Bluetooth が再生できない	297
インターネットラジオが再生できない	298
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	299
各種オンラインサービスが再生できない	300
HDMI コントロール機能が動作しない	300
無線 LAN ネットワークに接続できない	301
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	302



こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(🔧 177、255 ページ)

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(🔧 177、255 ページ)

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(🔧 241 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- オプションメニューの“ダイアログエンハンサー”で、せりふが聴こえやすい設定を選択してください。(🔧 125 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(🔧 179 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(🔧 180 ページ)



スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。
([図 203 ページ](#))

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”を“オン”に設定してください。チューナーや CD、Phono、インターネットラジオ、Bluetooth の音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどのお好みの映像ソースを組み合わせることができます。
([図 128 ページ](#))

インターネットラジオを聴きながら、Flickr の写真を同時に再生したい

- Flickr の写真を再生したあと、インターネットラジオの再生画面で、スライドショーを開始してください。
([図 124 ページ](#))

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の SOURCE SELECT つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。
([図 200 ページ](#))

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“All Zone Stereo”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をマルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）でも同時に再生できます。
([図 130 ページ](#))

ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい

- ゲーム機側のコントローラーのボタン操作に対し映像が遅れている場合は、メニューの“ビデオモード”を“ゲーム”に設定してください。
([図 191 ページ](#))



故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客さま相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。



■ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	80
電源が自動的に切れる。	- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。 “オートスタンバイ” が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ” が動作します。“オートスタンバイ” を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ” を“オフ” に設定してください。	149 253
電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 - 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	337 —
電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。 - 音量を下げて、電源を入れ直してください。 - 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	39 82 —
電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならない。ディスプレイに“ZONE2 On” または“ZONE3 On” と表示される。	ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF または ZONE3 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの ZONE SELECT ボタンを押して、ゾーンを選択した後に、POWER  ボタンを押して、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオフにしてください。	—



■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	10
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	10
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	10
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
	• 操作したいゾーンとリモコンのゾーンの設定が合っていないです。ZONE SELECT を押して、操作するゾーンを選択してください。	166
	• リモコンが外部機器の操作モードになっています。AVR ボタンを押して、操作モードを AVR にしてください。	268
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—

■ 本機のディスプレイが表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。	257
	• サウンドモードが“Pure Direct”になっていると、ディスプレイは消灯します。	133



■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	30
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	39
	• スピーカー端子をしっかりと締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	39
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	82
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	83
	• ミューティング(消音)モードを解除してください。	83
	• デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	198
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。	—
DVI-D 接続時に、音声が出ない。	• 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子およびプリアウト端子から音が出なくなります。	20
DVI-D 接続時に、音声が出ない。	• 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。	—
HDMI 接続したテレビから音が出ない。	• 本機の 7.1 CH IN 端子から入力された音声信号は、テレビに出力できません。	—



■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
音量が上がらない。	• 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。	177
	• 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。	—
HDMI で接続したときに、音が出ない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。	61
	• HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“TV”に設定してください。	187
	• HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。	148
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	39
	• メニューの“スピーカー構成”で“無し”以外になっているか確認してください。	234
	• メニューの“アサインモード”の設定を確認してください。	214
	• サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。	—
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。	40
	• サブウーハーの電源を入れてください。	—
	• メニューの“スピーカー構成” - “サブウーハー”を“1 台”または“2 台”に設定してください。	235
	• メニューの“スピーカー構成” - “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	234
	• 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。	241
	• メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。	241



症状	原因 / 対策	関連ページ
DTS 音声出力されない。	- 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。 - メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”にしてください。	— <u>202</u>
Dolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声出力されない。	- HDMI で接続してください。 - 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。	<u>65</u> —
DTS Neo:X モードが選択できない。	- メニューの“スピーカー構成” - “サラウンド”が“無し”の場合は選択できません。 - ヘッドホン使用時は、DTS Neo:X を選択できません。	<u>235</u> —
DTS Neural:X モードが選択できない。	DTS Neural:X は、ヘッドホン使用時は選択できません。	—
Dolby Surround モードが選択できない。	ヘッドホン使用時は、Dolby Surround を選択できません。	—
AAC 放送の音が途切れる。	AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声途中で途切れる場合があります。	—
AAC として再生しない。	テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。	—
Audyssey MultEQ [®] XT32、Audyssey Dynamic EQ [®] 、Audyssey Dynamic Volume [®] および Audyssey LFC [™] が選択できない。	Audyssey[®]セットアップを実施していない場合は、選択できません。	<u>203</u>
	サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。	<u>133</u>
	ヘッドホン使用時は選択できません。	—



症状	原因 / 対策	関連ページ
Audyssey DSX®が選択できない。	• フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを使用している場合に選択できます。	236
	• センタースピーカーを使用している場合に選択できます。	234
	• サラウンドモードをドルビーリスニングモードまたは DTS リスニングモードに切り替えてください。	132
	• ヘッドホン使用時は、Audyssey DSX®を選択できません。	—
	• 入力信号が2チャンネルのソースの場合は、設定できません。	—
"リストアラー" が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には "リストアラー" を使用することができません。	176
	• サウンドモードを "Direct"、"Pure Direct" 以外に切り替えてください。	133
ゾーン 2 またはゾーン 3 用プリアウトやスピーカーから音が出ない。	• ゾーン 2 およびゾーン 3 では、デジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに、音声の再生ができます。	—
	• ゾーン 2 では、HDMI 端子から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに音声の再生ができます。入力信号によらずゾーン 2 で音声再生するには、メニューの "HDMI オーディオ" の設定を "PCM" にしてください。再生機器によっては、この設定をおこなっても再生できない場合があります。この場合は、再生機器側の音声フォーマットを "PCM(2ch)" に設定してください。	254
	• ゾーン 2/ゾーン 3 で Bluetooth の音声聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 10m の範囲内で使用してください。	—



■ 音が途切れたり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。	• USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。	—
	• ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。	—
iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。	• iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。	—
FM 放送または AM 放送の雑音が多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。	74
	• 本機から AM ループアンテナを外してください。	—
	• FM 屋外アンテナを使用してください。	74
	• アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	74
音が歪んで聴こえる。	• 音量を下げてください。	83
	• エコモードを“オフ”に設定してください。エコモードが“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声歪むことがあります。	252
Wi-Fi 接続時に音切れがする。	• 周りの電波妨害により再生が途切れたりした場合には、有線 LAN 接続に切り替えてください。	245
	• 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。	245



■ テレビに映像が映らない

症状	原因 / 対策	関連ページ
映像が映らない。	• すべての機器の接続を確認してください。	61
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。	—
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	82
	• ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	198
	• プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。	258
	• テレビが著作権保護(HDCP)に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	308
	• HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。	—
	• HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。アナログ接続をしてください。	309
	• 4K (60/50Hz) の映像を再生したい場合は、HDMI ロゴのある“イーサネット対応ハイスピードケーブル”または“ハイスピードケーブル”を使用してください。	—
DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。	• DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護(HDCP)によって正しく動作しない場合があります。	308
ゲーム機などの映像がテレビに映らない。	• ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。入力した端子と同じ種類のモニター出力端子に接続してください。	—
メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。	• 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。 ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像 ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像 ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像 ・4K の映像	—



症状	原因 / 対策	関連ページ
メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。	メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。	—



■ テレビにメニュー画面が表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。	メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。	—
	- 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。 - 一部の 3D ビデオコンテンツの映像 - コンピューター解像度 (例: VGA) の映像 16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像	132
	テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。	132
	ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面や操作内容を表示しません。ピュアダイレクト以外のサウンドモードに切り替えてください。	132
	メニューの“TV フォーマット”をご使用のテレビに合わせて設定してください。	197



■ iPod が再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
iPod が接続できない。	• USB 端子に iPod を接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	71
	• iPod の接続に純正以外の USB ケーブルを使用すると、iPod を認識できない場合があります。純正の USB ケーブルを使用してください。	—
iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコン  が表示されない。	• 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク (LAN) に接続されています。本機と同一の LAN に接続してください。	76
	• iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。	—
音が出ない。	• iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。	—
	• AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコン  をクリックして、本機を選択してください。	118
iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。	• iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。	—
	• 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。	—
リモコンで iTunes の再生操作ができない。	• iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。	—



■ USB メモリーが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
“接続されていません”が表示される。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。	71
	• マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。	—
	• 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。	—
	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。	—
	• すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。	—
USB メモリー内のファイルを表示しない。	• 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。	89
	• 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。	—
	• USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。	—
USB メモリーのファイルを再生できない。	• 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。	311
	• 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	—
	• ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。	—



■ iPod や USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ファイル名が“...”など、正しく表示されない。	本機で表示できない文字は、“.”(ピリオド)に置き換えて表示します。	—

■ Bluetooth が再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
本機に Bluetooth 機器が接続できない。	Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください、Bluetooth 機能を有効にしてください。	—
	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。	—
	ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。	—
音が途切れる。	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。	—
	電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。	—
	Bluetooth の再接続操作をおこなってください。	—



■ インターネットラジオが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ラジオ局のリストが表示されない。	• LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。	76
	• ネットワークの診断モードをおこなってください。	250
インターネットラジオが再生できない。	• 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。	314
	• ルータのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。	—
	• IP アドレスが正しく設定されていません。	248
	• ルータの電源が入っているか確認してください。	—
	• IP アドレスを自動で取得する場合は、ルータの DHCP サーバ機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。	248
	• IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレス、プロキシを設定してください。	248
	• 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。	106
お気に入りの登録したラジオ局に接続できない。	• ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。	—
“接続が途切れました”と表示され、接続できないラジオ局がある。	• ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。	—



■ パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。	313
	• 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	—
	• 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。	—
	• メディアの共有設定が正しくありません。本機がパソコンのフォルダにアクセスできるようにメディアの共有設定を変更してください。	110
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。	—
	• パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。	—
	• サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。	—
	• 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。	245
パソコン内の音楽ファイルが再生できない。	• 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。	76
パソコン内や NAS 内のファイルが表示されません。	• 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。	313
NAS に保存した曲が再生できない。	• DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。	—
	• DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。	110
	• 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。	—



■ 各種オンラインサービスが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
各種オンラインサービスが再生できない。	サービスが終了している可能性があります。	—

■ HDMI コントロール機能が動作しない

症状	原因 / 対策	関連ページ
HDMI コントロール機能が動作しない。	メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。	189
	HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。	148
	本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。	148
	HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。	148
	HDMI MONITOR 2 端子は、HDMI コントロール機能に対応していません。HDMI MONITOR 1 端子を使用してテレビと接続してください。	61



■ 無線 LAN ネットワークに接続できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ネットワークに接続できない。	ネットワーク名 (SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と、本機の設定内容を合わせてください。	247
	無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。	—
	アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。	—
	本機は WEP (TSN) との互換性はありません。	—
WPS 接続ができない。	ルータの WPS モードが動作しているか確認してください。	—
	ルータの WPS ボタンを押してから、2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンを押してください。	—
	WPS2.0 規格に対応したルータ/設定が必要です。暗号化タイプを“なし”、“WPA-PSK (AES)” または WPA2-PSK (AES) に設定してください。	247
	ルータの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。	—
iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。	iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。	—
	USB ケーブルを使用して設定する場合は、iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 5 以降に対応している必要があります。また、無線接続で設定する場合は、iOS 7 以降に対応している必要があります。	—



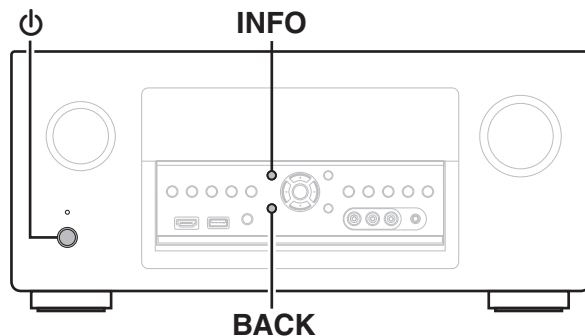
■ HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない

症状	原因 / 対策	関連ページ
メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。	メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。	—
HDMI ZONE2 機能を使用中、映像や音声 がゾーン 2 のテレビから 出力されない。	ゾーン 2 の電源がオンになっているか確認してください。	161
	ゾーン 2 の入力ソースを確認してください。	161
	フロントパネルの AUX1-HDMI 端子は、HDMI ZONE2 機能に対応していません。	—
	ゾーン 2 では入力信号が HDMI 信号のときのみ再生できます。	—
	テレビが HDMI ZONE2 から出力した音声フォーマットに対応していない場合は、テレビから音声を出力しません。再生機器の音声フォーマットを“PCM”に設定してください。または、メニューの“ゾーン 2 の設定” - “HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。	254
HDMI ZONE2 機能を使用 中に、メインゾーンの 音声 PCM で再生さ れる。	テレビが入力された映像の解像度に対応していない場合は映像を出力しません。再生機器の出力解像度をテレビが対応している解像度に合わせて設定してください。	—
	メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、ゾーン 2 のテレビの仕様に合わせて入力ソースの音声フォーマットを制限することがあります。	—



お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



- 1 電源ボタンを押して、電源を切る。
- 2 INFO と BACK を同時に押しながら、電源ボタンを押す。
- 3 ディスプレイに“Initialized”が表示されたら、2つのボタンから指を離す。



お買い上げ時の設定に戻す前に、ウェブコントロール機能の“セーブ”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶しておくことができます。
([155 ページ](#))

ただし、ネットワークコンテンツのアカウント情報およびお気に入り登録内容は記憶できません。



保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日から 2 年間です。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料……故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代……修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。



■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。



HDMIについて

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。

HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD、DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。

また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8 ビット(256 階調)ずつで表現するところを、10 ビット(1024 階調)、12 ビット(4096 階調)、16 ビット(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。

HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

- **“x.v.Color”**

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

“x.v.Color” はソニーの登録商標です。

- **3D**

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧くださいには、別売りの 3D メガネが必要です。

- **4K**

本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

- **Content Type**

この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

- **Adobe RGB color、Adobe YCC601 color**

Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

- **sYCC601 color**

“x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。



- **オートリップシンク**

映像と音声のずれを自動的に補正します。
オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。

- **HDMI パススルー**

本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。

- **HDMI コントロール**

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

- **電源オフ連動**
テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
- **音声出力先の切り替え**
テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることができます。
- **音量調節**
テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- **入力ソースの切り替え**
テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。
プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

- **ARC(Audio Return Channel(オーディオ・リターン・チャンネル))**

HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。

これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。



■ 対応する音声フォーマット

2 チャンネルリニア PCM	2 チャンネル、32kHz～192kHz、 16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1 チャンネル、32kHz～192kHz、 16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby Atmos / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC
DSD	2 チャンネル～5.1 チャンネル、 2.8224MHz

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 60/50/30/25/24 Hz

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

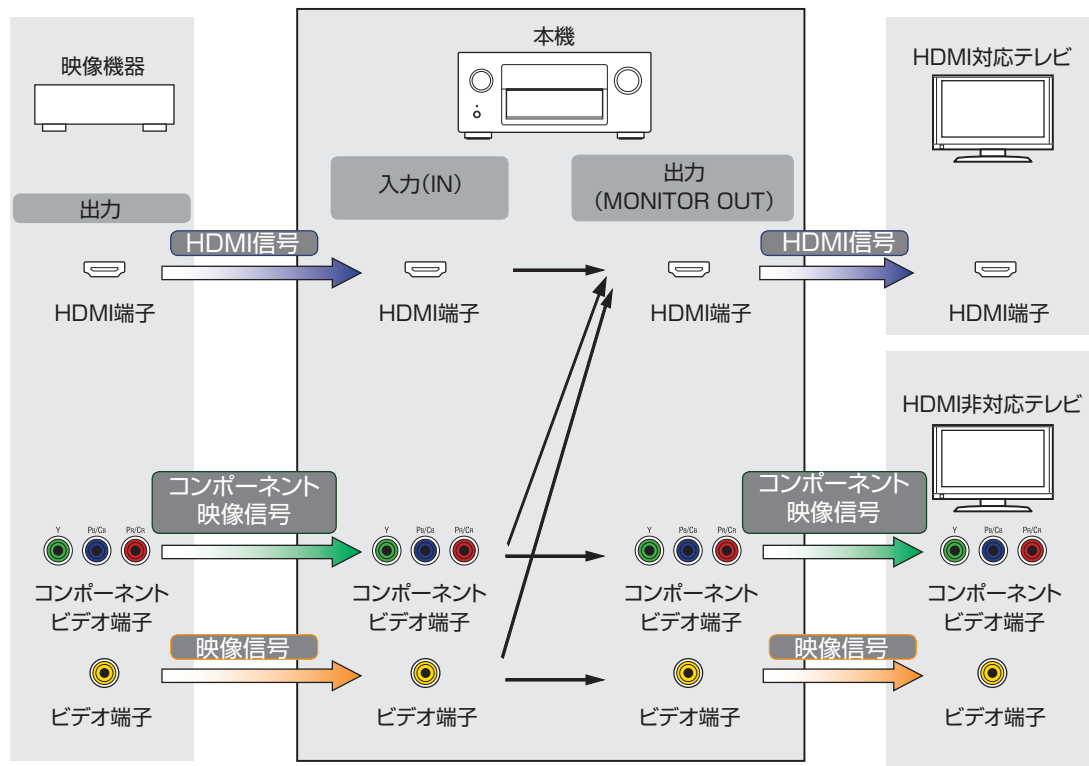


本機を Deep Color(ディープ・カラー)、4K、ARC 機能対応の機器と接続する場合は、HDMI ロゴのある“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。



ビデオコンバージョン機能

本機は、入力された映像信号を、図のように自動的に変換してテレビに出力します。



ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。



本機では、入力された映像信号を、メニューの“解像度”で設定した解像度に変換してテレビに出力できます。(P.193 ページ)

入力信号 \ 出力信号		HDMI							
		480i/576i	480p/576p	720p	1080i	1080p	1080p 24Hz	4K 30/25/24Hz	4K 60/50Hz
HDMI	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	480p/576p		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	720p			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080i			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080p 24Hz					✓	✓	✓	✓
	1080p					✓	✓	✓	✓
	4K 30/25/24Hz							✓	
	4K 60/50Hz								✓ *
コンポーネントビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	480p/576p		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	720p			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080i			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080p					✓	✓	✓	✓
ビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

* フロントパネルの HDMI 端子は対応していません。



USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.flac
ALAC*2	32/44.1/48/88.2/96kHz	—	.m4a
DSD	2.8MHz	—	.dsf/ .dff
AIFF	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.aif/ .aiff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.]
Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>



ゾーン 2 では、DSD 信号の再生はできません。



■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目 \ メディア	USB メモリー
メモリーの容量	FAT16 : 2GB、FAT32 : 2TB
フォルダの階層数 *1	8 階層
フォルダ数	500
ファイル数 *2	5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く



パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.flac
ALAC*2	32/44.1/48/88.2/96kHz	—	.m4a
DSD	2.8MHz	—	.dsf/ .dff
AIFF	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	—	.aif/ .aiff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.]
Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>



ゾーン 2 では、DSD 信号の再生はできません。



インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT32、Dynamic EQ、Dynamic Volume、リストアラーやオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



“サラウンドパラメーター” の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。



サウンドモードとチャンネル出力の関係

- 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
- ◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカー構成”(p.234 ページ) の設定により出力するチャンネルが異なります。

サウンドモード	チャンネル出力													
	フロント 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック 左/右	フロント ワイド 左/右	フロント ハイト 左/右	トップ フロント 左/右	トップ ミドル 左/右	トップリア 左/右	リアハイト 左/右	フロント Dolby Atmos Enabled 左/右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左/右	バック Dolby Atmos Enabled 左/右	サブ ウーハー
Direct/Pure Direct (2チャンネル)	○													◎*7
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎*3	◎*3	◎*3								◎
DSD Direct (2チャンネル)	○													◎*7
DSD Direct (マルチチャンネル)	○	◎	◎											◎
Stereo	○													◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎*3	◎*2									◎
Dolby Surround *1	○	◎	◎	◎*4		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS Neo:X *2	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5								◎
Audyssey DSX®	○	◎	◎		◎*6	◎*6								◎
Dolby Digital	○	◎	◎											◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎*3	◎*3	◎*3								◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎*3	◎*3	◎*3								◎
Dolby Atmos	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎										◎
DTS 96/24	○	◎	◎	◎										◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎*3	◎*3	◎*3								◎
DTS Express	○	◎	◎	◎										◎
MPEG-2 AAC	○	◎	◎											◎
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Wide Screen	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Super Stadium	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Rock Arena	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Jazz Club	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Classic Concert	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Mono Movie	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Video Game	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Matrix	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5				◎
Virtual	○													◎



- *1 該当するサウンドモードは、“Dolby Surround” およびサウンドモード名に “+Dolby Surround” を含むサウンドモードです。
- *2 該当するサウンドモードは、“DTS Neo:X” およびサウンドモード名に “+Neo:X” を含むサウンドモードです。
- *3 入力信号に含まれるチャンネルを出力します。
- *4 メニューの “スピーカー構成” - “S.バック” の設定が “1 台” に設定されている場合は、音声を出力しません。(参照 235 ページ)
- *5 “サラウンドパラメーター” - “スピーカー選択” の設定で指定されているスピーカーから音声を出力します。(参照 175 ページ)
- *6 “Audyssey DSX®” の設定で指定されているスピーカーから音声を出力します。(参照 181 ページ)
- *7 メニューの “サブウーハーモード” が “LFE+メイン” に設定されている場合に音声を出力します。(参照 241 ページ)

アップデート (DTS:X)

サウンドモード	チャンネル出力													
	フロント 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック 左/右	フロント ワイド 左/右	フロント ハイト 左/右	トップ フロント 左/右	トップ ミドル 左/右	トップリア 左/右	リアハイト 左/右	フロント Dolby Atmos Enabled 左/右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左/右	バック Dolby Atmos Enabled 左/右	サブ ウーハー
DTS:X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS Neural:X *8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- *8 該当するサウンドモードは、“DTS Neural:X” およびサウンドモード名に “+Neural:X” を含むサウンドモードです。



- DTS:X や DTS Neural:X は、DTS:X 対応ファームウェアへアップデートした後に選択できます。



サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード	サラウンドパラメーター										
	サブウーハー レベルの調節	シネマEQ	ラウドネス マネージメント *1	ダイナミック レンジ圧縮 *2	LFE *3	ディレイタイム	エフェクト レベル	ルームサイズ	スピーカー選択	センターの 広がり	センターゲイン
Direct/Pure Direct (2チャンネル) *4	○*5		○	○							
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル) *4	○		○	○	○						
DSD Direct (2チャンネル)	○*5										
DSD Direct (マルチチャンネル) *4	○				○						
Stereo	○		○	○							
Multi Ch In	○	○			○						
Dolby Surround	○	○	○	○						○	
DTS Neo:X	○	○	○	○					○		○
Audyssey DSX®	○	○	○	○	○						
Dolby Digital	○	○	○	○	○						
Dolby Digital Plus	○	○	○	○	○						
Dolby TrueHD	○	○	○	○	○						
Dolby Atmos	○	○	○	○	○						
DTS Surround	○	○		○	○						
DTS 96/24	○	○			○						
DTS-HD	○	○			○						
DTS Express	○	○			○						
MPEG-2 AAC	○	○			○						
Multi Ch Stereo	○		○	○	○				○		
Wide Screen	○		○	○	○		○		○		
Super Stadium	○		○	○	○		○	○	○		
Rock Arena	○		○	○	○		○	○	○		
Classic Concert	○		○	○	○		○	○	○		
Jazz Club	○		○	○	○		○	○	○		
Mono Movie	○		○	○	○		○	○	○		
Video Game	○		○	○	○		○	○	○		
Matrix	○		○	○	○	○			○		
Virtual	○		○	○	○						

*1～*5:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.320 ページ)



サウンドモード	サラウンドパラメーター		ダイアログ エンハンサー	トーン コントロール *6	Audyssey					リストアラー *9	低音の 位相補正 *10
	ダイアログ コントロール	DTS Neural:X			MultEQ® XT32 *7	Dynamic EQ *8	Dynamic Volume *8	Audyssey LFC™ *8	Audyssey DSX®		
Direct/Pure Direct (2チャンネル) *4											
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル) *4											
DSD Direct (2チャンネル)											
DSD Direct (マルチチャンネル) *4											
Stereo			○	○	○	○	○	○		○	○
Multi Ch In			○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Surround			○	○	○	○	○	○		○	
DTS Neo:X			○	○	○	○	○	○		○	
Audyssey DSX®			○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Digital			○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Digital Plus			○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby TrueHD			○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Atmos			○	○	○	○	○	○			○
DTS Surround			○	○	○	○	○	○	○		○
DTS 96/24			○	○	○	○	○	○	○		○
DTS-HD			○	○	○	○	○	○	○		○
DTS Express			○	○	○	○	○	○	○		○
MPEG-2 AAC			○	○	○	○	○	○	○		○
Multi Ch Stereo			○	○	○	○	○	○		○	○
Wide Screen			○	○	○	○	○	○		○	○
Super Stadium			○	○	○	○	○	○		○	○
Rock Arena			○	○	○	○	○	○		○	○
Jazz Club			○	○	○	○	○	○		○	○
Classic Concert			○	○	○	○	○	○		○	○
Mono Movie			○	○	○	○	○	○		○	○
Video Game			○	○	○	○	○	○		○	○
Matrix			○	○	○	○	○	○		○	○
Virtual				○	○	○	○	○		○	○

*4、*6～*10：「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.320 ページ)



アップデート (DTS:X)

サウンドモード	サラウンドパラメーター										
	サブウーハー レベルの調節	シネマEQ	ラウドネス マネージメント *1	ダイナミック レンジ圧縮 *2	LFE *3	ディレイタイム	エフェクト レベル	ルームサイズ	スピーカー選択	センターの 広がり	センター ゲイン
DTS:X	○	○		○	○						
DTS Neural:X	○	○	○	○							

サウンドモード	サラウンドパラメーター		ダイアログ エンハンサー	トーン コントロール *6	Audyssey					リストアラー *9	低音の 位相補正 *10
	ダイアログ コントロール *12	DTS Neural:X			MultEQ® XT32 *7*13	Dynamic EQ *8	Dynamic Volume *8	Audyssey LFC™ *8	Audyssey DSX®		
DTS:X	○	○	○	○	○	○	○	○			○
DTS Neural:X			○	○	○	○	○	○		○	

*1～*3、*6～*10：「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.320 ページ)

*12 この項目は、ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに選択できます。

*13 この項目は、48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。



- DTS:X や DTS Neural:X は、DTS:X 対応ファームウェアへアップデートした後に選択できます。
- DTS:X 対応後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。



- *1 この項目は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を再生しているときに選択できます。
- *2 Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS:X または DTS 信号を再生しているときに選択できます。
- *3 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生しているときに選択できます。
- *4 Pure Direct モードで再生中、サラウンドパラメーターは Direct モードと同様になります。
- *5 メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されているときに設定できます。(P.241 ページ)
- *6 メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(P.179 ページ)
- *7 この項目は Audyssey®セットアップ(スピーカーの測定)を実施していない場合は設定できません。
- *8 メニューの“MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。(P.179 ページ)
- *9 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1 kHz のときに設定できます。
- *10 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定可能です。



入力信号の種類と対応するサウンドモード

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。

○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号												
		アナログ / PCM	Dolby Digital (+/HD) / MPEG-2 AAC	DTS (HD)	DSD (Super Audio CD)	PCM マルチ	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DSD (Super Audio CD)	MPEG-2 AAC
DTS Surround																		
DTS-HD MSTR								●*3										
DTS-HD HI RES								●*4										
DTS ES Dscrt6.1	*1									●								
DTS ES Mtrx6.1	*1										●							
DTS Surround										○	○							
DTS 96/24												●*5						
DTS(HD) + Dolby Surround								○	○	○	○	○						
DTS Express									●									
DTS(HD) + Neo:X	*2							○	○	○	○	○						
DTS Neo:X		○	○	●	○													
Dolby Surround																		
Dolby Atmos													●					
Dolby TrueHD													○*6	○				
Dolby Digital+													○*7		○			
Dolby(D+)(HD) + Dolby Surround														●	●	●		
Dolby Digital																○		
Dolby(D)(D+)(HD) + Neo:X	*2												○*8	○	○	○		
Dolby Surround		○	●	○	○													

*1～*8 : 「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.324 ページ)



サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号												
		アナログ / PCM	Dolby Digital (+/-HD) / MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	DSD (Super Audio CD)	PCM マルチ	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dsrc6.1	DTS ES Mtr6.1	DTS	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DSD (Super Audio CD)	MPEG-2 AAC
Multi Ch In																		
Multi Ch In						●											●	
Multi Ch In + Dolby Surround						○											○	
Multi Ch In + Neo:X	*2					○											○	
Multi Ch In 7.1	*1					●*10												
Audyssey																		
Audyssey DSX®						○		○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
MPEG-2 AAC																		
MPEG-2 AAC																		○
AAC + Dolby Surround																		●
AAC + Neo:X																		○
Direct																		
Direct		○*9	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
DSD Direct					○												○	
Pure Direct																		
Pure Direct		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
DSD Pure Direct					○												○	
オリジナルサウンドモード																		
Multi Ch Stereo		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Wide Screen		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Super Stadium		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Rock Arena		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Jazz Club		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Classic Concert		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Mono Movie		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Video Game		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Matrix		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Virtual		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*8	○	○	○	○	○
Stereo																		
Stereo		●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1, *2, *8~*10: 「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.324 ページ)



アップデート (DTS:X)

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号												
		アナログ / PCM	Dolby Digital (+/HD) / MPEG-2 AAC	DTS (HD)	DSD (Super Audio CD)	PCM マルチ	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DSD (Super Audio CD)	MPEG-2 AAC
DTS Surround							●											
DTS:X MSTR / DTS:X							●											
DTS (-HD) + Neural:X	*11							○	○	○	○	○						
DTS Neural:X	*11	○	○	●	○													
Dolby Surround																		
Dolby (D) (D+) (HD) + Neural:X													○*8	○	○	○		
Multi Ch In																		
Multi Ch In + Neural:X						○											○	
MPEG-2 AAC																		
AAC + Neural:X																		○

*8 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。

*11 この項目は、48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS(-HD)信号が入力された場合は選択できません。



- DTS:X や DTS Neural:X は、DTS:X 対応ファームウェアへアップデートした後に選択できます。
- DTS:X 対応後は、DTS Neo:X は使用できなくなります。



- *1 サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選択できます。
- *2 “Cinema” モード、“Music” モードまたは“Game” モードを選択できます。この項目は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを使用している場合に選択できます。
- *3 この項目は、入力信号が DTS-HD Master Audio の場合に選択できます。
- *4 この項目は、入力信号が DTS-HD Hi Resolution の場合に選択できます。
- *5 この項目は、入力信号が DTS 96/24 の場合に選択できます。
- *6 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
- *7 Dolby Atmos 信号に Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。
- *8 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD 信号、または Dolby Digital +信号が含まれている場合に選択できます。
- *9 お買い上げ時の AirPlay 再生のサウンドモードは、“Direct” です。
- *10 この項目は、入力信号にサラウンドバックを含む場合に選択できます。



用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Audyssey Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ® XT32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)

Audyssey DSX®は、既存の 5.1 チャンネルシステムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。

人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント(前方向)部分に横の広がり(ワイドチャンネル)を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作るためには認知(聴くこと)ができる音響信号でフロント(前方向)部分に高さの広がり(ハイトチャンネル)を作ることとされています。

Audyssey DSX®はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル、ハイトチャンネルそれぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX®は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める“Surround Envelopment Processing”という技術を開発し Audyssey DSX®の中に取り入れています。



Audyssey Dynamic Volume®

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey LFC™ (Low Frequency Containment)

Audyssey LFC™は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理学的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、視聴者はコンテンツ本来の低域を楽しめます。

Audyssey MultEQ® XT32

Audyssey MultEQ® XT32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。Audyssey MultEQ® XT32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

■ Dolby

Dolby Atmos

映画館で最初に導入された Dolby Atmos は、ホームシアターに新しい革命的なサウンド体験をもたらします。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、3次元空間を独立した動きのあるサウンド(またはオブジェクト)を、よりクリアで、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、リスナーの上方に音場を導入したことで、自然でリアルなサウンド体験を実現し、リスナーをストーリーに引き込みます。

Dolby Atmos Stream

Dolby Atmos のコンテンツは、Blu-ray ディスクやストリーミングメディアから、Dolby Digital Plus または Dolby TrueHD 方式で提供されます。Dolby Atmos 信号には、音の位置が記録されているメタデータが含まれています。これにより、あらゆるスピーカー構成のホームシアター環境でも最適な音像再生になるように調節されます。



Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Surround

Dolby サラウンドは 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツをあなたのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生する次世代のサラウンドテクノロジーです。Dolby サラウンドは Dolby Atmos を再生できるシステムだけではなく、従来のスピーカーレイアウトにも互換性があります。

Dolby Speaker Technology (Dolby Atmos Enabled Speakers)

Dolby Atmos Enabled Speaker は、天井にスピーカーを設置する代わりに、天井に向け音を出し再生音を反射させ、頭上からの音を実現させることができる技術を搭載したスピーカーです。このスピーカーはスピーカードライバーが上向きに取り付けられている独特な構造と特別な信号処理機能を持っています。従来のスピーカーと一体になっているものや従来のスピーカーの上に載せて使うものがあります。従来のスピーカーシステムと同様のスピーカー設置環境のまま Dolby Atmos と Dolby サラウンドの再生環境を提供します。



Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

■ DTS

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。



DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neo:X

DTS Neo:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースや 5.1/6.1/7.1 チャンネルのサラウンドソースを最大 11.1 チャンネルのサウンドで再生するマトリクスデコード技術です。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。



アップデート (DTS:X)

ダイアログコントロール

ダイアログコントロールは、映画のせりふや音楽のボーカルの音声を収録しているオブジェクトの音量のみを好きな音量に調節する技術です。

ダイアログコントロール対応の DTS:X 信号が入力されたときに設定できます。

DTS:X

DTS:X はリスニングポジションを包み込むようにスピーカーを配置することで、立体的な音場空間を再現します。また、オブジェクトとして記録された音像がスピーカー間をスムーズに移動することで、自然でリアルなサウンド体験を実現します。

DTS Neural:X

DTS Neural:X は 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツを、お使いのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生します。DTS:X のコンテンツだけではなく、従来のコンテンツでも、立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

■ 音声

AL32 プロセッシングマルチチャンネル

全チャンネル対応の AL32 プロセッシング
AL32 Processing Plus は、DVD 規格の最高スペックであるサンプリング周波数 192kHz にも対応するアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。本機では、全チャンネルに採用しています。

ALAC (Apple Lossless Audio Codec)

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60～70% に圧縮されたデータを完全に元通りのデータに再現します。

低音の位相補正

ブルーレイディスクや DVD など音楽ソースがもともと持っているサテライトチャンネルの低域成分に対する LFE チャンネルとの時間遅れを調整し、再生時の低音をより豊かに再現(再生)する機能です。お買い上げ時は“0ms”に設定していますが、タイトル毎に値が異なりますので、音楽ソースを再生して、一番効果の高い値に合わせたうえで試聴してください。再生する音楽ソースによっては効果がわかりにくい場合があります。



FLAC (Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。



MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) は、MPEG (Moving Picture Experts Group) により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。

MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

MPEG (Moving Picture Experts Group), MPEG-2, MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC” などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC” などがあります。

WMA (Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。



サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。

この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ 映像

ISF

ISF(Imaging Science Foundation)は、機器の映像性能を最適化するための品質基準を設定するとともに、設置条件に合わせたキャリブレーション調整が可能な映像技術者の認定をおこなっている団体です。

プログレッシブ(順次走査)

映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。



■ ネットワーク

AES(Advanced Encryption Standard)

現在用いられている DES、3DES に代わる次世代の標準暗号方式で、強固な暗号方式として無線 LAN への幅広い普及が見込まれています。暗号化アルゴリズムには、ベルギーの暗号開発者が開発した「Rijndael(ラインダール)」が採用され、データを固定のブロック長で区切ってそれぞれ暗号化をおこないます。データ長は 128、192、256 ビット、鍵の長さは 128、192、256 ビットがサポートされていて暗号強度は非常に高く設定されています。

AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

DLNA

DLNA および DLNA CERTIFIED は、Digital Living Network Alliance の商標/サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED[®]製品と適合しないものがある可能性があります。

IEEE 802.11b

IEEE(米国電気電子学会)で LAN 技術の標準を策定している 802 委員会が定めた、無線 LAN の規格の 1 つです。無線免許無しで自由に使用可能な 2.4GHz 帯の電波(ISM バンド)を使用し、最大 11Mbps の速度で通信できます。

表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータの転送速度を示すものではありません。

IEEE 802.11g

IEEE(米国電気電子学会)で LAN 技術の標準を策定している 802 委員会が定めた、無線 LAN の規格の 1 つです。IEEE 802.11b と互換性を持ち、同じ 2.4GHz 帯を使用しながら、最大で 54Mbps の通信がおこなえます。

表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータの転送速度を示すものではありません。



TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)

WPA で使用される、ネットワークキーの 1 つです。暗号化アルゴリズムは WEP と同じ RC4 ですが、1 パケットごとに暗号化に使用するネットワークキーを変更することで、セキュリティレベルが高くなっています。

vTuner

インターネットラジオの無料オンラインコンテンツサービスです。

本サービスに関するお問い合わせは、下記 vTuner のサイトまでお願いします。

vTuner ホームページ:

<http://www.radiodenon.com>

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一の WEP キー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一の WEP キーを設定する必要があります。

Wi-Fi®

無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来の SSID(ネットワーク名)や WEP キー(ネットワークキー)に加えて、ユーザ認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。

WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA-PSK/WPA2-PSK(Pre-shared Key)

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

WPS(Wi-Fi Protected Setup)

無線 LAN 機器の接続とセキュリティ設定を簡単に実行するために Wi-Fi アライアンスが策定した規格です。プッシュボタン方式と PIN(Personal identification number)コード方式の 2 種類があります。



ネットワーク名(SSID:Service Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID (ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっています。一時的な簡易ネットワークを構成する場合に適しています。

モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。ルータと一体型のももあります。

■ メディアプレーヤー

iTunes

アップル社が提供しているマルチメディアプレーヤーの名称です。

音楽をはじめとしてビデオなどのコンテンツを管理・再生することができます。AAC をはじめとして WAV や MP3 など主要なファイル形式に対応しています。

Windows Media Player

マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。

Windows Media Player のバージョン 11 以降で作成されたプレイリストや WMA、WAV ファイルなどが再生可能です。



■ その他

App Store

アップル社が運営している iPhone や iPod touch 向けのアプリケーションソフトの販売サイトです。

Denon Link HD

Denon Link HD では、ブルーレイディスクを再生時に Denon Link HD 接続した AV アンプのクロックを使用し、ジッターの少ない HDMI 伝送がおこなえます。

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

ゾーン 2

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外の 1 つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン 2 再生)。ゾーン 2 再生をおこなう部屋をゾーン 2 と呼びます。

ゾーン 3

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外の 1 つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン 3 再生)。ゾーン 3 再生をおこなう部屋をゾーン 3 と呼びます。

ペアリング

ペアリング(登録)とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。

はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

本機は最大 8 台までのペアリング情報を保持します。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

本機では、異常発生時には電源表示が赤色に点滅し、スタンバイ状態になります。



登録商標について

Made for



iPod



iPhone



"Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance. AirPlay, the AirPlay logo, iPad, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

- iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

AUDYSSEYMULTEQ XT32
DYNAMIC VOLUME**AUDYSSEY**DSX
LFC

本機は、Audyssey Laboratories™からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®, Audyssey DSX®および Audyssey LFC™は、Audyssey Laboratories の登録商標です。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby, Dolby Atmos, Dolby Surround およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。





DTS の特許については <http://patents.dts.com> をご覧ください。本機は DTS Licensing Limited. からのライセンス契約に基づき製造されています。DTS、DTS-HD のロゴ、&DTS は登録商標であり、DTS-HD Master Audio と DTS NEO:X | 11.1 は DTS, Inc. の商標です。
©DTS, Inc. 版權所有。

アップデート (DTS:X)



DTS の特許については、<http://patents.dts.com> をご覧ください。本機はシンボル、DTS:X および DTSX のロゴとの組み合わせで、DTS 社の DTS、シンボル、DTS からの実施権に基づき製造されています。米国および/またはその他の国における商標または DTS, Inc. の登録商標です。
©DTS, Inc. 版權所有。



HDMI および HDMI の High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における商標または HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。



Adobe、Adobe ロゴ、および Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。



主な仕様

■ オーディオ部

・ パワーアンプ部

定格出力:

フロント:

150W+150W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.05%)

190W+190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

センター:

150W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.05%)

190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

サラウンド:

150W+150W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.05%)

190W+190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

サラウンドバック:

150W+150W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.05%)

190W+190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

ハイト 1/フロントワイド/ハイト 2:

150W+150W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.05%)

190W+190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

実用最大出力:

220W+220W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 10% 2 チャンネル駆動 JEITA)

260W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 10% 1 チャンネル駆動 JEITA)

ダイナミックパワー:

170W×2 チャンネル(8Ω)

280W×2 チャンネル(4Ω)

出力端子:

4~16Ω



• アナログ部

入力感度/入力インピーダンス:	200mV/47k Ω
周波数特性:	10Hz~100kHz: +1, -3dB (Direct モード時)
S/N 比:	102dB (IHF-A, Direct モード時)
ひずみ率:	0.005% (20Hz~20kHz) (Direct モード時)
定格出力:	1.2V

• デジタル部

D/A 出力:	定格出力 — 2V (0dB 再生時) 全高調波ひずみ率 — 0.008% (1kHz, 0dB) S/N 比 — 102dB ダイナミックレンジ — 100dB フォーマット — デジタルオーディオインターフェース
デジタル入力:	

• フォノ・イコライザー部

入力感度:	2.5mV
RIAA 偏差:	± 1 dB (20Hz~20kHz)
S/N 比:	74dB (IHF-A)
ひずみ率:	0.03% (1kHz, 3V 出力時)



■ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル/インピーダンス: 1Vp-p, 75Ω
周波数特性: 5Hz~10MHz: 0、-3dB

• コンポーネントビデオ端子

入出力レベル/インピーダンス: Y 信号: 1Vp-p/75Ω
P_B/C_B 信号: 0.7Vp-p/75Ω
P_R/C_R 信号: 0.7Vp-p/75Ω
周波数特性: 5Hz~60MHz: 0、-3dB

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0 MHz~90.0 MHz	522 kHz~1629 kHz
実用感度:	1.2μV(12.8dBf)	18μV
50dB 感度:	モ ノ: 2.8μV(20.2dBf)	
S/N 比(IHF-A):	モ ノ: 70dB(IHF-A, Direct モード時) ステレオ: 67dB(IHF-A, Direct モード時)	
ひずみ率(1kHz):	モ ノ: 0.7%(1kHz) ステレオ: 1.0%(1kHz)	



■ 無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11b 準拠 IEEE 802.11g 準拠 Wi-Fi®準拠 *1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK(AES) WPA/WPA2-PSK(TKIP)
無線周波数:	2.4GHz
チャンネル数:	1 ~ 13ch

*1 Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。



■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 2.1+EDR(Enhanced Data Rate)
送信出力	最大 2.5mW (Class2)
最大通信範囲:	見通し距離 約 10m*2
周波数帯域:	2.4GHz 帯域
変調方式:	FHSS(周波数ホッピングスペクトラム拡散)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile) 1.2 AVRCP(Audio Video Remote Control Profile) 1.4
対応コーデック:	SBC, AAC
伝送範囲(A2DP):	20Hz~20,000Hz

*2 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 総合

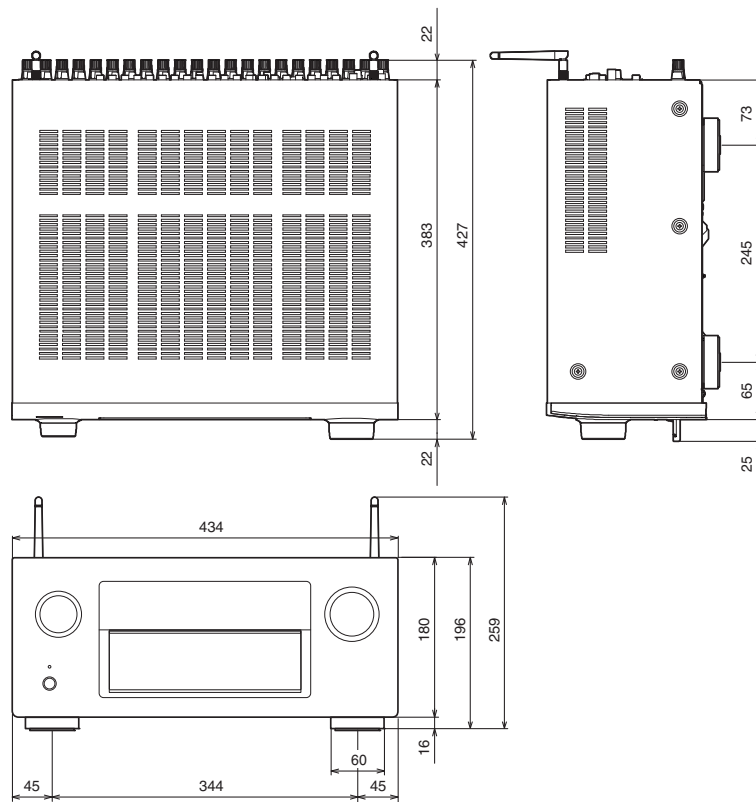
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	780W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W
ネットワークスタンバイ時の消費電力:	4.5W

JEITA: (社)電子情報技術産業協会(略称: JEITA)が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。



■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:17.8kg

索引

数字

3D	306
4K	306
5.1 チャンネル	36, 45, 54, 55
7.1 チャンネル	35, 46, 51, 52

A

AirPlay	117
All Zone Stereo	130
Audyssey DSX®	325
Audyssey Dynamic EQ®	325
Audyssey Dynamic Volume®	326
Audyssey MultEQ® XT32	326
Audyssey®セットアップ	203
Audyssey の設定	178, 205

B

Bluetooth 機器の再生	94
Bluetooth 機器のペアリング	93, 96

D

Denon Link HD	337
Denon Link HD 接続	67
DLNA	334
Dolby Atmos	326
DTS:X	8
DTS サウンドモード	136, 328
DVD プレーヤーの再生	83
DVD プレーヤーの接続	66

F

Flickr の再生	116
FM/AM アンテナの接続	74
FM/AM 放送を聴く	98

H

HDCP	308
HDMI コントロール	148, 189

I

iPod の再生	84
iPod の接続	71
iPod ブラウズモード	86
iTunes	336

J

JPEG	89, 109
------------	---------

N

NAS の再生	109
---------------	-----

P

PCM マルチチャンネルサウンドモード	138
---------------------------	-----

U

USB メモリーの再生	89
USB メモリーの接続	71

W

Wi-Fi の設定	246
-----------------	-----



目次

一般の設定	165, 252
インターネットラジオの再生	105

目次

ウェブコントロール	154
-----------------	-----

目次

衛星放送チューナーの接続	65
映像の設定	163, 184
エコモード	252
エラーメッセージ(Audyssey®セットアップ)	211

目次

オーディオの設定	163, 169
オートスタンバイ	253
お買い上げ時の設定に戻す	303
お気に入りから削除	123
お気に入りに登録	122
オリジナルサウンドモード	139
音声フォーマット	308, 311, 313, 314
音量を調節する	83

目次

外部のコントロール機器の接続	78
各チャンネルの音量の調節	126
乾電池の入れかた	10

目次

クイックセレクトプラス機能	151
---------------------	-----

目次

ケーブル	30
ケーブルテレビチューナーの接続	65
ゲーム機の接続	68

目次

故障かな？と思ったら	284
こんなときの解決方法	282

目次

サウンドモード	132, 315, 317
---------------	---------------

目次

新機能の追加	261
--------------	-----

目次

ステレオサウンドモード	140
スピーカーの接続	31
スピーカーの設定	164, 203
スライドショー	124
スライドショーの再生間隔	125
スリープタイマー	149

目次

セットアップアシスタント	165
セットトップボックスの接続	65

目次

ゾーン2/ゾーン3の再生	156
ゾーン2/ゾーン3の接続	53, 156

目次

ダイレクトサウンドモード	140
--------------------	-----



く

ディスプレイ	21
テキスト検索	123
テレビの接続	61, 62, 63
電源コードの接続	80
電源を入れる	82

く

トーンコントロール	127
ドルビーサウンドモード	135, 327

く

入力信号	321
入力ソースの設定	164, 198
入力ソースを選ぶ	82
入力端子の割り当て	198

く

ネットワークの設定	245
-----------------	-----

く

バイアンプ接続	49
パソコンの再生	109

く

ピクチャーモード	129
ビデオカメラの接続	68
ビデオコンバージョン	192, 309
ビデオセレクト	128
ピュアダイレクト	133

く

ファームウェアのアップデート	260
付属品	9
ブルーレイディスクプレーヤーの再生	83
ブルーレイディスクプレーヤーの接続	66
フロントパネル	17

く

ホームネットワーク(LAN)に接続する	76
保護回路について	337

く

ミュートイング	83
---------------	----

く

メニュー一覧	163
--------------	-----

く

文字入力	167
------------	-----

く

用語／技術の解説	306, 325
----------------	----------

く

ランダム再生	88, 121
--------------	---------

く

リアパネル	23
リストアラー	176
リスニングポイント	203
リピート再生	88, 121
リモコン	26





当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 **0570 (666) 112**

FAX : 044 (330) 1367

■ 受付時間 9:30～17:30

(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)

■ 上記番号がご利用いただけない場合  **050 (3388) 6801**
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

■ お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。

<http://denon.jp/jp/html/faq.html>

■ メールでお問い合わせをいただくこともできます。

<http://denon.jp/jp/html/contact.html>

* 電話番号・ファックス番号・URLは変更になる場合があります。

修理相談窓口

 **0570 (666) 811**

■ 受付時間 9:30～12:00、13:00～17:30

(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)

■ 上記番号がご利用いただけない場合  **0466 (86) 9520**

■ 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認ください。

<http://denon.jp/jp/html/service.html>

■ 代表修理窓口

首都圏サービスセンター

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2010-16

FAX : 0466 (86) 9522

* ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

3520 10382 10ADA

Copyright © 2015 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.